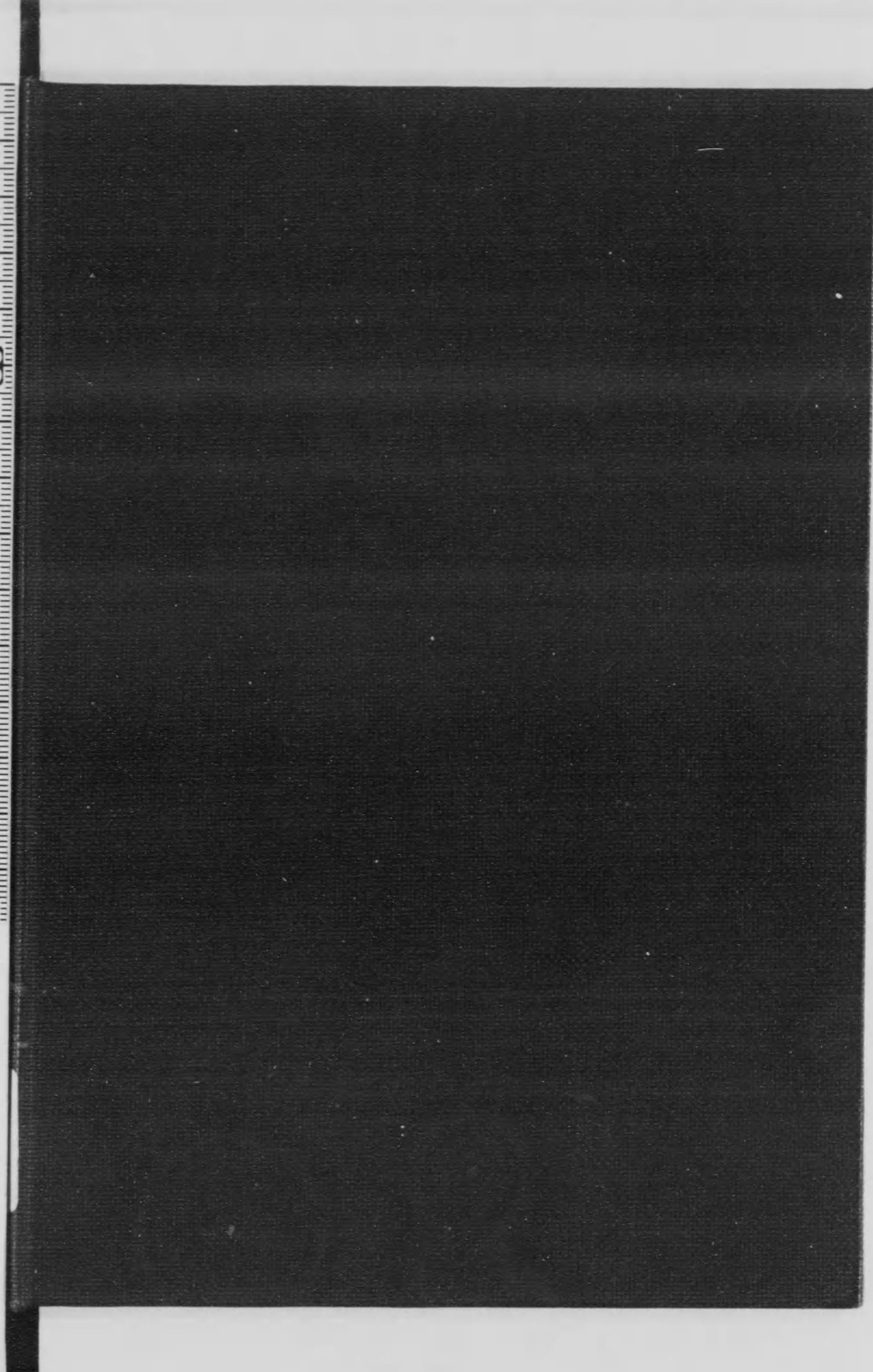




始





エト 8M-73

# 裁縫科新教授法

東京女子専門學校教授

吉村千鶴

著

東京裁縫女學校出版部

發行

大正  
13.7 4  
内交



263-143  
3

## 凡 例

- 一、本書は裁縫科中等教員養成科の教科書及び初等中等裁縫教員併に同裁縫科教員検定受験者等の参考に資せんが爲に編纂したるものなり。
- 二、本書は小學校の兒童及び中等學校生徒に對する學習指導の方法を一般的に且共通に叙述せり、故に教授法研究者は實際に當りては各教材に應じて便宜取捨活用せざる可からず。
- 三、本書は文章及び記載の體裁共平易簡明を旨とし難解の字句術語等は勉めて之を避け多く簡條書とせり。
- 四、本書の特色は著者が多年の主張と實驗とに基き先裁縫の本義を明にし教授者の修養を説き續きて實際の教授研究に資せんが爲に重要事項に就きては其教法の大體を説き教案例を多くし研究問題を多數に加へて裁縫の本義と實際とを併せ知らしめ以て裁縫科教授の改新に向に貢獻する所あらしめんことを期せり。

大正十三年五月

著 者 識 す



# 裁縫科新教授法

## 目次

第一章 裁縫と女子教育との関係.....1  
 女子の本分より見たる裁縫  
 女子の職業より見たる裁縫

第二章 我國に於ける裁縫の特色及び教授法の沿革.....5  
 我國に於ける裁縫の特色  
 裁縫教授法の沿革

第三章 裁縫の教育的價值 .....14  
 技能教科の本質より論ず  
 裁縫科の特質より論ず

第四章 裁縫と他教科との關係 .....24  
 手工科  
 修身科  
 圖畫科  
 算術科  
 理科  
 地理科  
 家事科



|     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
|     | 體操科                  |    |
| 第五章 | 裁縫の意義及び教授の要旨 .....   | 31 |
|     | 裁縫の意義                |    |
|     | 裁縫教授の要旨              |    |
|     | 小學校                  |    |
|     | 高等女學校                |    |
|     | 師範學校                 |    |
|     | 實業補習學校               |    |
|     | 各種技藝學校               |    |
| 第六章 | 裁縫教授の材料 .....        | 39 |
|     | 教材選擇の標準              |    |
|     | 教材の排列法               |    |
|     | 教授細目                 |    |
|     | 小學校裁縫教授細目例           |    |
|     | 實科高等女學校、高等女學校、女子師範學校 |    |
|     | 裁縫教授要目               |    |
| 第七章 | 裁縫教授の方法 .....        | 82 |
|     | 教授の段階                |    |
|     | 裁縫教授の依るべき段階          |    |
|     | 教授の様式                |    |
|     | 教授案                  |    |

|     |                    |     |
|-----|--------------------|-----|
|     | 裁縫の基本とその教法         |     |
|     | 一、運針               |     |
|     | 二、各種縫方及紵方          |     |
|     | 裁方教授               |     |
|     | 縫方教授               |     |
|     | 部分縫教授              |     |
| 第八章 | 設備 .....           | 147 |
|     | 教室                 |     |
|     | 備品                 |     |
| 第九章 | 一般の注意 .....        | 158 |
| 第十章 | 裁縫に関する諸問題 .....    | 164 |
| 附録  | .....              | 169 |
|     | 大正六年十月帝國教育會主催全國小學校 |     |
|     | 女教員大會に於ける文部省の諮問案   |     |



## 裁縫科新教授法

吉村千鶴著

## 第一章 裁縫と女子教育との關係

## 一 女子の本分より見たる裁縫

歐洲大戦争の活ける教訓より平和克復後は婦人に對する問題も大に論せらるゝに至るべく婦人も亦昔日の状態を以て満足せざるに至るべし。蓋これ當然のことにして社會國家の進歩を認むべきなり。唯注意すべきは女子に此の意味を誤解せる者多くして却て人の指彈を招き同情を失ふが如き行動をなして新時代の婦人と自稱するが如き、又眞に女子を研究し、了解せざる一部論者の女子に學問の不必要を唱ふるが如きは、皆其當を得ざるものといふべし。

時勢に伴ひて社會國家を向上發展せしめんとせば、男女共に發達せざる可からず、男女は恰車の兩輪の如し、一方のみの進歩に努力し、社會國家を進めんとするも得べからず。蓋し身體強健にして眞に教育あり知識ある女子は、最眞面目に且從順にして、よく夫の職業を解し、地位を了し、思想健全にして、品性高く交際も圓滿に



して眞の良妻賢母たるを得べきなり。  
抑女子の本分如何といへば、固より家を齊へ子女を教育すること、即良妻賢母たるにあるべく、歐米各國に於ても、之を實際の生活上より、又社會の組織上より或は國家經濟の上より研究して結局良妻賢母たることを以て女子最高の使命なりといふに歸着し、此思潮に滿され居れり。

(1) 米國に於て最近家政學の發達著しく、各女子教育機關に於て家政學の教授盛なること。

(2) 女子教育の根本問題を決定することは即國家百年の大計上頗緊要なることにして、女子高等教育の眞意義は女子としての心身の資格を完成すべき教養訓練をなすべきこと、即女子としての天分を遂行せしむるに足る最高の知識技能を與ふることなり。

(3) 佛國大學教授ヘンリ・マリオン氏は、曰く

“女子は妻となり母として其義務を盡すを幸福なりと思はしむる様教育するは固より、又人類としての普遍的屬性を養成發展せしむることを忘る可からず、即女子の人類としての特性と要求とを考察して、之を養成せざる可からず”と、そは次の如き實際上の問題より來れり。

○實際の事實によれば多くの女子は獨身生活をなすべく餘義なくせらる。

○良人との死別其の他人事上の災厄に遭遇せる時は獨立し、又家計上の必迫を助けざる可からず。

猶男女兩性の生理上及び心理上の相異より研究するも、歴史的に考ふるも、女子の本分は齊家育兒にあること明にして、分業の必要は時勢の進歩と共に益切實となりぬ。

女子の本分が齊家育兒にあることが斷定せられなば、女子が此本分を盡す上に最直接の關係を有するは家政學の知識と裁縫となり、家政學の事は茲に省略し、主婦の裁縫の技に習熟せると否とは次の如き關係もあるべし。

(1) 一家の經濟に於て。

(2) 家人の威儀品格を保つ上に於て。

(3) 精神上に深き關係を有し、裁縫によりて種々の婦徳を養ふことを得。

(4) 我國の裁縫は遠き歴史を以て、數千年來發達進歩し來りし女子の特技なること。

抑我國の女子教育は良妻賢母主義を大本とし、婦徳に於ては、世界に卓絶せり、その母の家庭教育は、やがて武



士道教育の發露となり、今日の立派なる國民性を造りしものなり、然もその教育を支配せし唯一の教科は裁縫なりしなり、實に裁縫は數千年來我國の女子教育を支配せしものにして、昔日は婦人の價値は殆裁縫の巧拙如何によりて決定せられたるものなりといふも、過言にあらざるべし、故に我國風として、貴賤の別なく、女子の必須缺く可からざる教科となれり、維新後歐米の風を移し社會の文物一新せる際に於てすら、なほ裁縫は女子教育上重要のものごせられ、近時社會の秩序整ひ思想の着實となれるに従ひ女子教育上、裁縫の價値頗大なるを認め、當事者の獎勵等によりて、裁縫科の勢價は益高めらるゝに至れり。

## 二 女子の職業より見たる裁縫

ヘンリ・マリオン氏の言の如く、女子が生活の實際には良妻賢母を以て完全に終ることを得ざる場合多し、是人生の行路上、萬已むを得ざる人の運命といはざる可からず、此時に當りて、女子の執るべき道は如何、如何なる職業を選びて、その必迫せる生活を助くべきかといふ問題に遭遇す、即何等か職業を選ぶ必要を生ず、又世の文明に進むにつれて、次第に生活の困難増加し生存

競争烈しくなり、女子の職業問題も盛に研究せらるゝに至れり、そも之を國家經濟の見地より論じての當否は茲にいはず、ごにもかくにも、此必迫を救ふには既習の學問技藝により、或は更に學問技藝等を修めて、當面の急を救はざる可からず、之を平和の時に考ふるも、職業は生活を賑はし品性を高くし、自信を強くするものなれば、身分貧富に拘らず、相當の時機に於て、相當の修業をなし置くこと必要なり。

女子の職業の種類は、近來頗多様となれり、然もその中にて、上品にして最適當なるものを裁縫とす、又一方家政整理にも必要なれば、一舉兩得の効ありといふを得べし、更に袋物刺繡・造花等をも兼修せば、便利多かるべし。

## 第二章 我國に於ける裁縫の特色 及び教授法の沿革

### 一 我國に於ける裁縫の特色

我國に於ける裁縫の特色は、次に述ぶる所によりて知るべし。

(イ)上古より貴賤を通じて貴びし女技なること。

神代の昔既に養蠶織紉のごとあり、袴・帶・衣等の名稱



あるを見れば、是等衣服に伴ふ裁縫ありしを知るを得べく、人皇の世となりては、裁縫の術漸次盛となり神武天皇は天日鷲命をして織縫のこごを司らしめ給へりといへり當時の服装は頗簡單のものなりしかば、裁縫の術も亦之に伴ひしは固よりなり、殊に神功皇后三韓征伐以後は、百濟より縫衣の工女を献じ吳國よりは、裁縫師を聘せられしこごもあり次いで佛法の隆興に連れて其の技術大に進歩發達し遂に女子の必修すべき技術となるに至り、奈良・平安兩朝に至りては、上流婦人競ひて之を學び、大に進歩發達せり彼の清少納言は文學の天才なりしのみならず、頗裁縫の技に巧なりしといへり、平安朝の末平氏の驕奢に流れてより、上流婦人は直接裁縫をなさず、之を専門にするもの出で來れり、然れども裁縫が女子の學ぶべき技術たるは變化なかりき、徳川時代となりては、お針と稱し、婦巧の一として之を重んじ、此時代の女子教育を支配せり、貝原益軒先生の女訓にも、婦巧の大切なるを説かれたり、且桃山・元祿時代の服装の進歩と共に、裁縫の術も大に進み、以て明治より大正の今日に至りて、猶當時の技巧に基き、婦巧の第一とせらるゝなり。

(ロ)我國の裁縫は家庭的意義を進め、女子の品性を養ひ得る點に於て、頗有力なり。

裁縫は神代よりある女技にして、婦巧の一として、専家庭に於て、母は娘に娘は下婢に傳へ然も學ぶ者必要を感じて修練を勵むが故に、其普及の勢力大にして大凡家あれば必裁縫用具の一式を備へざるものなきに至れり、家庭に於て、母が家族の衣類を整へ、子女を教養し、娘は母の膝下にありて裁縫をなし家事を見習ひつゝ、女性に關する教訓を受け、慈愛溢るゝ如く、平和なるこご春の海の如き温情に浴しつゝ、女性教育の根本精神たる、その先天的特質を完成せしめたるものなり、かゝる間に勤勞に従事し、綿密に頭腦を使用し、且悦んで斯る仕事をなすといふ家庭的なる女らしき品性を造る事を得べし、是即裁縫が家庭的意義を進むる所以なり、此家庭的趣味、及び教育の缺亡は女子の品性を荒ましめ、恐るべき結果を來さしむ、彼忌はしき女囚の大部分は、炊事、裁縫等の技を知らずして家庭感化の少きものなりといふにあらずや。

(ハ)技術簡易にして、我國民の生活程度に適せり。

針といひ尺度及び鋏等、用具の簡易にして、技能の精



密なる蓋日本人の如き手指の器用なるものに於てのみ、なし得べきことなり、然も其材料は價低廉にして、裁ち切り裕なれば一枚の衣、猶數回之を仕立直して着用するを得べく、我國民の低き生活程度には最適當せるものといふべし、されば我國の婦人として裁縫の技を知らざるものなく、又學んで得ざるものなし、即我國の裁縫は實用と經濟とに於て長所ありといふを得べし。

近時裁縫洗濯の煩と被服に要する布帛の不經濟とを説きて、衣服の改良を唱ふる人あり、若數千年來發達變化し來りし我服裝が、最完全に改良せられ、裁縫洗濯の煩を、今より少くするを得ば、そは實に教育及び實用上の一大障害を除去するものといふを得べきなり。

## 二・裁縫教授法の沿革

數千年前の事は兎まれ、明治維新前後に於ける裁縫は、上流社會にては、夫々専門の針師を置いて、之に司らしめたるが如く、中以下の家庭に於ては、女子の必須の仕事として、重んぜられたり、されど今日の如く、學校に於て、秩序正しき教授を受くるには非ずして、各家庭にて

學ぶか或は仕立師等に就きて、日常必要のものを、只一通り學びしに過ぎざりき、故に教授法といへる如きものゝあらざりしは、言を俟たざるなり。

明治五年發布せられたる學制中に、初めて

“女子小學は尋常小學校教科の外に女子の手藝を加ふ”と見ゆたり、茲に手藝と云へるは、主として裁縫を指したるものなりき、其後明治十二年教育令改正せられ“殊に女子の爲めに、裁縫の科を設くべし”

とありて學校の教科目中に、裁縫といふ學科始めて現はれたり、次で明治十四年制定せられたる小學校教則中には、中等科は土地の狀況によりて加へ、高等科は尙其外に家事經濟の大意迄加へて、差支なきことゝなれり、その注意に“裁縫ハ運針法ヨリ始メ、漸次通常ノ衣服ノ裁チ方縫ヒ方ヲ授クベク、家事經濟ハ、衣服・洗濯・住居・什器・食物・割烹・理髮・出納等、一家ノ經濟ニ關スル事項ヲ授クベシ、凡ソ裁縫家事經濟ヲ授クルニハ、民間日用ニ應ゼンコトヲ要ス”とあり、且要目を發表せられたり。

裁縫の簡單なるに比し、家事經濟の該博高尙なるは驚くに値すと雖、當時既に識者の間に、裁縫・家政の女子教育に忽せにすべからざるを認められたるを見るべしかく、明治十九年に至り、勅令を以て小學校令を發布



せられ、高等小學校に於ては、裁縫科は必須科目となり同時に“裁縫ハ運針法・襦袢・單衣・袴等、通常衣服類の縫方及補綴方”と規定せられたりこの補綴方を新に加へられしは、甚必要なることと思はる、何となれば、普通家族の衣服は、新調よりも補綴の場合多く、修得せし事項の應用を試むるにも、數多の變化ありて、趣味多き事なりとす、されば普通教育、特に小學を終へて直に家業に従事するものにおいて、最適切なる課業なりとす、越えて明治廿三年、更に小學校令を改正せられ、尋常小學校に於ても、土地の狀況によりては、これを加設するを許され、その翌二十四年、小學校教則第十二條に、裁縫教授の要旨を、次の如く示されたり。

裁縫ハ、眼及手ヲ練習シテ、通常ノ衣服ノ縫方、及裁方ニ習熟セシムルヲ以テ要旨トス。

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ、運針方ヨリ始メテ、簡易ナル衣服ノ縫方ヲ授ケ、又便宜通常ノ衣服ノ裁方等ヲ授クベシ。

高等小學校ニ於テハ、初ハ前項ニ準ジ、漸ク通常ノ衣服ノ縫方裁方ヲ授クベシ。

裁縫ノ品類ハ、日常所要ノモノヲ撰ビ、之ヲ授クル際、用具ノ種類、衣類ノ保存方、及洗濯方等ヲ教示シ、常ニ

節約利用ノ習慣ヲ養ハント要ス。

明治三十三年小學校令又改正せられ、次で四十年三月義務教育六箇年に延長せられ、尋常小學校に於ても、裁縫科は必須科となるに至れり。

普通教育に於て右の如く裁縫科の變遷あるに従ひ、師範學校・高等女學校等中等以上の學校にても、裁縫科を設け中にも私立裁縫學校・實業學校の類盛に設立せらるゝに至れり。

裁縫教科が、かゝる勢にて發展し來る以上は、其教授法如何で舊套に安じて可ならんや、即その始は前に述べたる如き家庭の方法を、その儘學校に應用したるものにして、多種多様の教材を用ひたる個人的教授なりき。爾來各學科の教授法は、駁々として改善せられ、明治廿五六年頃ヘルバルト派の五段教授法等唱へられ、各教科の連絡統合に就き、頗る教育界を賑せり、是に於て裁縫教授法も、一學級を一團とし、同時間に同教材を教授する學級教授となり、個人教授は、極端にまで排斥を受くるに至れり。

明治二十七八年頃、仙臺の朴澤氏、分解教授法なるものを唱へ、一時天下を風靡せり、次に是を前後して起りしは、故渡邊辰五郎氏の學風なりとす、氏は裁方に學級教



授を用ひ縫方に個人教授を用ひ實物修練を主要とし最良なる教師は精練熟達せる知識技能の示範及び批評にして溢るゝ如き愛情と諄々倦まざる態度とは最良の方法なることを唱へられたり、されば生徒質問を受くるに當りては教室の内外を問はず時間の多少を論せず不審を氷解せしめざれば止まざりしといふ。

かくて一面には女子高等師範學校に於て多數の委員を設けて裁縫教材の内容に就きて研究し其統一を計らるゝあり、其後各地に裁縫教授法に關する講習會開催せられ斯道の改善を計るあり、技藝科の設置技藝學校の勃興するあり、當局者の又是を獎勵する等の事あり、近くは實科高等女學校令も布かれて現今に於けるが如き隆盛を見るに至れり。

さて西洋の裁縫科なるものは如何といふに、裁縫科といふ名稱はなけれども女兒の手工又は針仕事と稱し裁縫・編物その他の手藝を加へて教授し居れり、是即我國の裁縫に比すべきものなり、これ等は歴史に於ても東西軌を同じうせり、上古家庭に於ける母は教師となり子女及び下婢は生徒となり、朝夕家業の閑を得て教授せられしが中世紀の中頃より此風漸次廢せられて當時の所謂傳習所教授所といへる類のもの多く開か

れ父母は喜んでその子女を托するに至れり、第十六世紀に至りて獨逸にては編物學校の設立あり、女子手藝の必要を認められしも未普通公立學校にまで普及するに至らざる間に第十七世紀の争亂の爲めに悉く破壊し盡されたり、第十八世紀の末頃に私立の工藝學校設立せられ女子の家事工藝に關する事項を教授すること始められ、當時その教授法の拙なりしは何所にもある例に漏れざりしが校數の増加するに連れて、研究の問題も起り、遂に普通學科と並行教授するを以て、最當を得たるものとするに至れり、かくして初中等の學校教科に加へられ漸次發達して、遂に今日の盛況を見るに至れり。

翻つて、その教授を尋ぬれば第十九世紀の半頃、伯林の學校長ロザリー・シャルレンフェールド女史は“學校に於ける手工教授”といふ一書を著し、個人教授の弊を指摘し、教授法の改革を唱道したり、是と同時に瑞西に於けるケッチゲル氏、グエルテムベルグに於けるブール氏出で、同じく一齊教授を唱へ、次で千八百八十年頃にメツツエル女史、スプリングル氏出で、何れも手工教授法の刷新を圖れり、かくして佛國は、當時の總視學官エム・ザリシの勸誘によりて、千八百八十二年發布の



法令には手工科を小學校の必須科とし、瑞典にては千八百九十四年度に、二萬の小學校と七個の師範學校に手工科の補助として十四萬一千六百五十六クロンを支出し、普魯西にては、千八百九十六年度に家事手工科の爲に一萬マクルを、國庫より支出したり英國の手工科を置きたるは最晩くして、千八百九十年以降の事なりと雖、夙くより家庭に於て教育せられたりしといふ近時獨逸のドクトル・ライ氏の筋肉運動主義漸囂しくなり來つて、裁縫科の價值は、手工圖畫等と共に、一段重要視せらるゝに至れり。

### 第三章 裁縫の教育的價值

裁縫は、その實質に於ても、形式に於ても、教材頗豊富にして、趣味多き研究資料を有するものなるに反し、その教授法の他教科に後れしは何故ぞや、惟ふに心を勞するものは尊ばれ、力を勞するものは賤まるゝ、我國古來の習俗も、之が原因の一たりと雖、直接子女教養の任に當る教育者中、その教育的價值を明にする人少なかりしことも、至大の關係を有するは、争ふべからざる所なり、然るに近來技能教科が、身心の發達に關係を有し、然も實用上、最價值あるものたるを認められしより、裁縫

教授は、大なる勢を以て、進歩を促さるゝに至れり、されば裁縫科は技能教科として既に教育上の或價值を認めらるゝのみならず、特に左の如き價值を有す。  
本科教授の任にある者宜しく茲に留意して、教授の効果を收むべきなり。

#### 一 技能教科の本質より論ず

技能的教科は主として運動教育を行ふものにして、運動教育は、身體の發達のみならず心の陶冶上にも少からざる關係を有するものなること、近時心理學教育學の研究の進歩するに従つて、之を確められ技能教科は教育上頗重きを置かるゝに至れり、即收得と發表作用とが、教授上必要なるに對し、運動教育は、その發表作用の發達を助くるものなりといふにあり、尙最近に於ける歐米の初等教育界の最着眼せる點は、次の三件にして、これに依りて技能的教科の價值は、益高められたるものなり。

##### 1. 勤勞教育の價值。

學習せしむるのみならず、能く自活動し、勤勞するにあらずんば教育の效果少しとして、筋肉活動及び作業を尊ぶに至れり、所謂勤勞教育の價值なるものを



認め、男女共に手工科の教授に勢力を有するに至りしこと。

## 2. 體得活動の必要。

勞作は認識を助くるものなり、否極端に論ずれば、勞作をなさざれば眞の認識は得られざるものなりとの理由教育の原理上より又最近十數年間に於ける總ての學問の進歩の結果明かとなり、それより筋肉活動主義重せらるゝに至れり、されば總ての學校教授も成る可く實驗實習等の運動に訴へて、所謂體得せしむること最大切にして何れの教科にても種々の方面より筋肉の運動に訴へて眞の認識を得しめざる可からずと、技能的教科は、此點に於て筋肉活動主義に合致せり。

## 3. 教育と實際との接近。

即學習と實用との結合に外ならず、従前は學校教育は處世上の基礎を學ぶに過ぎずして、世に出で實際に當らんとせば更に自收得する所なかる可からずといへるが如き傾向なりしが、最近に於ては學校教育は一方に品性を陶冶すると同時に他方に於ては實際上の知能を與ふることに努力せざる可からずといふにあり、即女子教育にありては總ての教科を

最實用的に、且家庭的に教へざる可からずといへる考が、從來よりは最切實となれるなり、此點に於て技能的教科は、最實用的なりといふを得べし。

以上の理由によりて、裁縫科は技能的教科の一として既に教育上頗る價值あるものといふべきなり。

## 二 裁縫科の特質より論ず

### 1. 實用上に於ける價值。

(イ) 裁縫は、形體に關する觀念を與へ且之を明瞭にす。

裁縫は、布帛を裁たんとするに當り、各人の體形を吟味して、先之が寸法を測り、然る後完全なる被服を製作するなり、かくて此寸法を測ることにより、幅・丈・形狀等の、形體に關する觀念を明にするを得べし、これ教育上甚重要なる事項にして、是に依て正確なる想像力の根源を作り、明晰なる頭腦の基礎を建つることを得べきなり。

(ロ) 裁縫は、衛生及び經濟の觀念を與ふ。

衣食住と稱して、衣類が吾人の生活上、最大切なるものの一たることは、今更事新しく、いふを要せず、特に其着用の目的の第一は、身體の保護即衛生にありて次に經濟により、衣類の形狀・服地の特質、及び選方・保



存等の知識は何れも本科の學修によりて之を得且實際に資するを得べきなり、又裁縫は實用的なるが故に、本科の知能を得ると共に、服地の經濟上の價值原料と製品との價格節約利用等經濟上の觀念を與へ、且之を職業としては、一家の收入をも得べし、然も被服の適否によりて、心身の疲勞を減じ、活動を助くる等勞力と時間との經濟をも併せて了得すべし。

(ハ)家政整理に資し、且實業上の趣味を養ふ。

裁縫科は、女子に必須なる技能を得しめ、同時に品性を陶冶し、且家庭的女子の性質を修養せしむるを得べきにより、女子が裁縫に堪能なる時は、敏捷に衣服の整理をなし得べく、延いて家庭内の感情を和げ、その和樂を圖るべく、且兒女の教育に裁縫上の手腕を要すること頗多し。

實業を賤み、勤勞を厭ふの弊風は近來大に改まれり、雖なほ一般に仕事を人に依頼する風あり、自主獨立身を勞して報酬を得るを、卑しき事の如く考ふる者の多きを遺憾とす、然るに裁縫は作業上より見れば、手指筋肉を動すを主とする勤勞にして、職業上より見れば、之を以て勞銀を得べし、されば裁縫は、一種の工業にして、又室内の勤勞なりといふべし、故に女

子裁縫を修得せば家を幸ふるの資となるべく、萬一一家落魄の不幸に陥ることあるも心に頼む所ありて、狼狽するがごときことなかるべく、實に裁縫は、勤勞を卑めざる習慣と、實業に對する趣味とを説明獎勵するに最も適切なるものといふべきなり。

## 2. 心身陶冶上に於ける價值。

(イ)知覺・想像・思考等の諸作用の運用を十分にす。

知覺—凡裁縫を爲すには、三段の順序を經由す。

1. 原料の品質寸法を調べ、適當の部分に見積ること。
2. 所要の寸法に裁斷すること。
3. 布片を縫合せて、衣服に仕立上ぐること。

此三段は各種の智的陶冶あり、原料の品質を調ふるには、服地の種類・價格・等級・保存の長短・瑕瑾の有無等、眼に見手に觸れ、あらゆる方法を盡して、以て測定せざる可からず、之が爲に視覺・觸覺・筋覺を練磨する効著大なりとす、裁刀を以て切斷するには特に陶冶せられたる知覺を有する人ならざれば、巧妙に裁ち得ざるなり、從て裁方を練習すれば、知覺の發達を助長す、縫方も亦然り、目測正しからざれば、縫目正しからず、手指の知覺不良なれば、精巧の域に進む能はず、さ



れば裁縫の知覺作用に於ける影響は他科に於て見る可からざる程至大なるものなるを知るべきなり。想像—想像作用の陶冶に於て裁縫の如く切實なるものは蓋他に類を見ざるべし先づ裁たんとするや既に或形を胸中に描かざる可からず立案の巧拙は直に仕立上に於て分明に顯はるゝが如し此點より考ふれば裁縫は殆ど想像作用の修練科といふも過言にあらざるべしされば本科教授に際し大に此點に注意せば思想作用の發達を完全に保護し得べきのみならず布帛の餘屑を以て有用の物品を作り不用の古衣を以て實用の常服を製し得べく更に進みて經濟と便利と品位とを兼備せるものをも發明し得べきなり。

思考—裁縫は最思考を要する學科なり裁方・縫方の順序・積方等に於ては一步を誤まれば全體を傷くる憂あり故に之を教授するに慎重の態度を以てすべきは勿論再三反覆考慮して立案定まれば機敏迅速に進行する習慣を養成せざる可からず熟慮ありて然も機敏なるべきは處世上最大切の事なり本科教授の任にあるもの豈勉めざるべけんや。

(ロ)審美的感情を養ふ。

衣服は實用を主とすべきは固よりなれども然も優美高雅にして氣品に富まざる可からず我國の布帛たる重に花鳥草木の模様を描き之に鮮麗なる染色をなし或は曲線と直線とを縦横に連ね黑白等の色を巧に配合したるものにして何れも審美的感情を養ふに足れり實に我國の布帛はその意匠模様に於て確に世界に於て美術的特色の異彩を放てり獨模様染色のみならず衣服の形狀服裝等に於ても亦然りといふべしされば裁縫を學ぶ者は常に是等の事物に接觸するが故に知らず識らず審美的感情豊かになりて粗野なる服裝高雅なる模様或は氣品ある容態等一々鑑別せらるゝに至るものなりこれに依るも裁縫の審美教育に裨益あるを認識するに足れりといふべし。

(ハ)學問に對する趣味を養ふ。

事物を學んで理解する能はざれば事物に關する趣味を惹き起すこと能はず之を理解して應用し得るに至れば趣味益加はるべし裁縫は家事科の範圍に屬し諸學科即修身理科數學地理等と相連絡しそれより得たる知識を應用して實地練習を積み漸く進歩すべきものなり故に裁縫を學ぶ間に學力の不足



を感じ、或は更に諸學科を研究せんことを望むに至るべく、或は學力十分なれば技能の收得も速に、且正確なれば學問の趣味を感ずること深く、智能相待ちて、遂に大なる發達をなすに至るべし。

(ニ) 獨立自營の精神を養ふ。

獨立自營の精神少く、妄りに他人に依頼せんと欲するは、身に頼むべき所のものなきより起る。國運隆昌にして歐洲大戰後の國家に處すべき男子を助くる婦人は、順逆の境遇を論せず、事情の許す限り、一藝一能を修得し、獨立自營の精神を有し、徒に人に依頼するが如きことある可からず、これ實にその人の爲めのみならず、又國家の爲なり、而して裁縫科は、婦人の獨立自營の技術として最適當なるものといふべし。

(ホ) 勤勉・忍耐・精密・清潔・整頓・秩序・節約・着實等の良習慣を養ふ。

布帛に對して針と鋏とを用ひて、毎日同じ様の仕事を繰り返すは、頗る忍耐勤勉なるものにあらざれば、能はず、されど一の勤勉は、一の成功を伴ひ、一の忍耐は一の結果を現はし、前掛が出来、單衣が出来、帯が出来、知らず知らず、歩を進むる間に、遂に習慣性となりて、忍耐勤勉なる人となるに至る。斯の如くして勉むる

間に若一刀を誤まれば、拭ふべからざる瑕瑾となるが故に、作業に周到なる注意を拂ふに至り、即精密といふ良習慣を得、又衣服は總て清潔なるを要す、況新調の物をや、されば衣服を仕立つるには特に丁寧に取扱ふべきなり、かゝる間に自然に清潔を好む習慣を得べし、裁縫には諸種の道具を要す、之を一定の場所に置き、秩序を立て、仕事に當らざれば、敏速に運び難し、又仕事の終止には、能く整頓して、舊位置に納めざるべからず、かゝる習慣は即秩序・整頓なり、その他輕卒無謀なれば、忽裁斷を誤り、放縱散漫の心なれば、成績の不良を來すが故に、自然着實・正直の習慣を養ふを得べし。

(ヘ) 身體諸機關の調和發達を促す。

裁縫を習熟せしむるには、先姿勢を端正ならしめざる可からず、從て整姿調息に慣れしめ、又種々精巧緻密なる技術を實習するにより、眼と手とを修練し、從て感覺機關、運動機關を發達せしむ、又仕事をなすに當りては、その目的に向つて體力を集注するが故に、散漫放縱を防ぎ、勞力を節約する修練をもなすを得べし。

以上列記するが如く、本科は技藝科の本質より考ふる



も、又本科の特質より論ずるも、女子教育上實質的及び形式的價值頗大なりといふを得べし。是等の諸徳を備ふれば、以て複雑なる家事の作業に親しみ従て齊家育兒の大任を完うするを得べし。

#### 第四章 裁縫と他教科との關係

裁縫科をして、完全なる發達を遂げしめんことをすれば、他教科との關係を熟知せざる可からず。

抑學校に於ける各教科は各特有の長所あるものなれば、その一致する點よりも、相違する點多きを通常とす。故に裁縫科に於ては、本來の目的を誤らざる範圍に於て成るべく其一致點を見出して、之に接近し、其補助に依りて、効果多からしめざる可からず。今裁縫科と各教科との關係に就き、その接近せるものより、順次説述すべし。

##### 一 手工科

手工教授の目的は、簡易なる物品を製作する能力を養ひ、勤勞を好む習慣を養成するにあり。現今手工科の範圍は裁縫を包含せざれども、これ狭き解釋なり。手藝又は手工といへる範圍に於ては、裁縫科は當然

その一部分なりとす。如何となれば、裁縫の目的とする所、全く手工と同じくして、能力習慣の發達も、亦悉く同一物たればなり。唯彼は紙・粘土・竹類を主とし、之は衣服を主とし、彼は普遍的にして、此は稍専門的なるのみ。

手工と裁縫との關係、斯の如くなるにかゝらず、之を各別に教科を設くるは何ぞや、即衣服の取扱は、女子技藝の第一位に在りて、之のみにて優に他學科と對立する重さを有すればなり、且手工は普遍的なるが故に、多くの基本的材料より、専門的材料迄を包含し、優に一教科と爲すに足る。斯の如くにして、裁縫・手工科を異にすと雖、その目的とする所は、同じく手指の鍛鍊、諸徳の養成にあるや論なきのみ、教授者たるもの、能くその關係を詳にし、彼此相補益せしめんことを要す。

##### 二 修身科

修身科は、諸學科の中心となるものなれば、裁縫科のこれに連絡をざるべきは勿論なりとす。本科間接の目的たる、節約・利用・忍耐・勤勉・綿密・秩序等の諸徳は、皆これ修身科の大綱目なり、然も修身及び作法に於て



授けたる事項は、之を裁縫科にて應用實現せしむるを得べきなり、例へば姿勢を良くし行儀を正しくせんには、衣服を正しく着すべく、物品を整頓し机邊を清潔にするには、布片糸屑より片付けざる可からず斯の如く數へ來れば、修身科の徳目にして、裁縫に關係せざるもの、殆無しといふも不可なからんとす、特に裁縫科は、學科の性質上、個性を現すこと多きを以て、之を矯正するに最便利なり。

されば本科教授に於ては、常に修身科の進度を明にし、修身科に於ては、裁縫科の本旨を詳にし、互にその練習應用に便せしむべし。

### 三 圖 畫 科

美感を養ひ意匠を練り、手指を鍛鍊するに於て、裁縫科と同一目的を有するものは圖畫なり、且裁縫科の衣服の配色・柄模様・選定等に於て好尚心を養ふこと、及び圖畫が事物を直觀せしむる點に於ては、本科教授上、圖解繪畫を多く用ひて説明を助け、學習を便にし、且描寫によりては知識の收得を確實ならしむる等圖畫科の援助を受くる事頗多しとす。

抑此美的感情を養ふことは、女子の處世上、最大切な

ることにして、然も一朝一夕に養ひ得べきものにあらず、されば初等教育時代より、漸次此點に留意して美感を養ふことに努めなば、技術の巧拙醜惡に對する觀念も正確となり、從て技能の進歩をも見るべきなり。

### 四 算 術 科

算術は、計算を目的とする學科にして、間接には思考力・推理力・判斷力を養成す、然れば正確敏捷に、且精密に事をなさんとせば、是非とも此科の補助を借り、此科に於て修練せられたる能力を、裁縫科の技能に應用せざる可からず、若此數理力の應用巧に行はれなば、時間と勞力とを省き、且精確に裁縫をなすを得べく、教授學習に便にして、實際に於ける經濟多大なるべし。

今本科と關係せる一例を舉ぐれば、算術科に於ては、衣服の寸法・服地の價格・調製に要する費目の概算等を問題とすれば、本科に於ては、積方の算式・運算の方法、寸法割出し方等に於て、精確敏捷に計算せしむべきものとす、故に教授者は進度に照して互に連絡を保ち、進みては推理力を裁縫の技術に應用して、簡易



敏捷に仕立てしむる方法をも工夫するに至らば時間と労力とを省き生活上に資するを得て、裁縫教授を最有効ならしむべきなり。蓋現今の方法にては、裁縫に要する時間と労力とは多大なるものあればなり。

### 五 理 科

従來我國民は、理科の知識と趣味とに乏しかりしが、近來理化學の教授の進歩と共に、その應用趣味は國民に普及するに至れり。最近歐洲大戦争の經驗よりして、理化學の知識の必要を認め、其研究所の設置及び理化學教授の改良等盛になれり。されば今後、これを應用せる器具機械等も頗多きに至るべければ、本科教授上にも、務めて理化學の知識を應用し進歩改善せられたる器具を利用して、本科と連絡せざるべからず、今其主なる事項を擧ぐれば次の如し。

1. 衣服原料及びその性質。
2. 各織物の衣服としての衛生及經濟上の價值。
3. 衣服調製上の心得。
4. 衣服の清潔保存に關する事項。
5. 姿勢其他身體の衛生に關する事項。

### 6. 室内の明暗通氣等。

裁縫科の目的を誤らざる範圍に於て、理科的知識を收得せしめ、その應用を十分ならしむべきなり。

### 六 地 理 科

各地產物の種類・特質、及其の價格等を知らしむるは、地理科の任務なり。而して織物の產地・價格及其の特質を知るは、裁縫科に必要なることなり。されば、地理科と裁縫科とは、これ等の點に於て相關聯す。且地理の教授の際には、必產物としての一地方及一國の經濟的關係を知らしむるものなるが故に、裁縫科教授に於ても、此點に留意し、國民としての心得をも併せ説くを可とす。例へば絹は我國の輸出品の主なるものなれば、之を贅澤不用に消費することを慎みて、出來得る限り多額を海外に出して、間接に國益を計るべき事、或は國產使用の必要等を知らしむるが如し。本科との關係事項をあぐれば、左の如し。

1. 服地の名稱・產地・代價・特質及用途。
2. 國產としての關係。

### 七 家 事 科



近來高等小學校に於て理科の教材中に家事に関する事項を授くることとなり、之に要する國定教科書も出版せられたり、其結果、從來裁縫科に於て教授せし家事に関する事項は悉く省かれたり、元來裁縫科は家事科の一部にして、その應用實習さもいふべければ、兩科互に連絡をとり、家事科にて洗濯湯伸色揚せしものは、之を裁縫用の服地に使用するが如くせば、兩科の實用的効果を完うし、興味を惹起し、益本科教授の價値を大ならしむべし。

### 八 體 操 科

筋肉四肢を活動して、體形を整へ、身體を健全ならしむるは、體操科の努むべき事なり、裁縫科に於て姿勢を正しくし、身體の調和的發達をなさしめん爲には、此科の援助を受くべきなり、裁縫の技に熱心なる時は、知らず識らず體を前方に屈して、姿勢を悪くし、又下半身の運動を妨ぐる事多し、故に裁縫の教授中、適當なる時に於て數分間を取りて、體操の一節乃至數節を行はしめ、身體諸機關を活動せしめんには、衛生上最有効なるべきなり。

右の外、諸學科皆多少關係を有せざるものなしと雖

多く間接に屬するを以て、茲に省略す教ふるもの宜しく、その心して本科の目的を誤らざる範圍に於て、他教科との經緯的連絡を保つことの最有効なることを忘る可からず。

## 第五章 裁縫の意義及教授の要旨

### 一 裁縫の意義

○裁縫は、狭き意義に解釋すれば、單に縫物又はお針と稱して、衣服の縫方・裁方・積方・繕方等を指すものなり、然れども裁縫を必須科として、普通教育上に重んずる所以は、かゝる技術的方面のみの解釋にあらずして、衣服材料の性質、布帛の取扱、配色・保存・經濟・衛生等の知的方面及節約利用の方法を講じて、勤儉の美風を養ひ、綿密忍耐秩序整頓等の諸徳を養ふべきこと、即心的方面をも併せ修得せしむるにあり、これ裁縫の眞意義なり、されば各學校に於ても、裁縫科は技術の熟練を期すると同時に、裁縫に関する諸種の知識及女子の生活上必須なる諸徳を養ふことを眼中に置いて、之を教授せざる可からず。



## ① 二 裁縫教授の要旨

事物に關する知識は、先其根本を明かにするを要す。根本明かならざれば、枝葉如何に精細該博を極むと雖、多く誤謬に陥るを免れず。裁縫を教授するものも亦宜しく其目的の存する所を精知したる後、その方法を講ずべきなり。今裁縫教授の目的を總括すれば次の如くいふを得べし。

### 裁縫教授の目的

裁縫は通常の衣服の裁方・縫方・繕方に習熟せしめ、眼と手とを練習し、生活上必須なる實用的技能を授け、兼て衣服の材料及數量に關する諸種の知識を與へて、衛生・經濟等の思想及美的感情を養ひ、間接に綿密・清潔・整頓・勤勉等の良習慣を得しめ、且節約利用の方法に慣れしむるを以て目的とす。然れども又學校の種類及程度に由り、多少其目的を異にせり、左に其要旨を述ぶべし。

### イ 小 學 校

小學校は初等の普通教育を授くる所なり。就中尋常小學校は國民の就學義務を負ふ所なれば、其法令は國家生存の必要上より、理想の國民を養成する爲に設けた

る條件なり、小學校令第一條に曰く。

小學校ハ、兒童身體ノ發達ニ留意シテ、道德教育及國民教育ノ基礎並ニ其ノ生活ニ必須ナル、普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス。

又施行規則第十一條に示さるゝ所に依れば、

裁縫ハ、通常ノ衣類ノ縫ヒ方及ビ裁チ方等ニ習熟セシメ、兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス。

尋常小學校ニ於テハ、運針法ヨリ始メ、漸ク通常ノ衣類ノ縫ヒ方ヲ授ケ、又便宜裁チ方繕ヒ方等ヲ授クベシ。

尋常小學校ニ於テハ、初ハ前項ニ準ジ、漸クソノ程度ヲ進メ、通常ノ衣類ノ縫ヒ方裁チ方繕ヒ方ヲ授クベシ。

裁縫ハ、ソノ材料ヲ日常所用ノモノニ取り、之ヲ授クル際、用具ノ使用方、材料ノ品類性質及衣類ノ保存方洗濯方等ヲ教示スベシ。

これを要するに、小學校裁縫教授の目的及要旨は、他學科と連絡して、日用必須なる裁縫の基本及び簡易なる方法を教へ、日本國民として、完全なる人物の基礎を養成するにありといふべきなり。



## □ 高等女學校

尋常小學校は義務教育にして、日本臣民たるものゝ、一度は必就學せざるべからざる所なりと雖、高等女學校に至りては、然らず家庭の裕かなるもの、及事情の許すもの、即換言すれば中等以上の家庭に於て義務教育より一步進みたる教育を施し卒業後は直に一家の主婦として、間然する所なき賢母良妻を出すべき所にして我國家社會の中堅に當るべき婦人の養成所なり故に彼は初等普通教育にして是は高等普通教育なりとす、高等女學校令第一條に曰く。

高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

と即普通教育たる上より見れば小學校と何等の異なる所なしと雖、小學校にて男女の區別を立つること少きに比し、高等女學校は總て女子の品格を高め、女子の修養を努むるを目的とするの相違ありとす、又其の學科は小學校に於て基本的練習に止めしものは進んで實際的智能を授け、簡單なる方法を授けしものには尙輪廓を廣め内容を充たして完成せしめざるべからずされば裁縫科に於ても用具の取扱運針縫方等のみを

以て満足すべきにあらず、少くも一家族の通常服は新調修繕に係らず苦心せざるの手腕を養ふべきなり、況高等女學校の學科には家事科も特設せられて時間數も亦稍多きに於てをや然れども固より裁縫専門の學校に非ざれば、勤めて他學科との連絡を圖り、裁縫科にて教ふる所は他學科に引例し、他學科にて學ぶ所は裁縫に應用し、裁縫教授の目的に沿はざる可らず。

高等女學校に於て裁縫を課する目的概要斯の如し、尙その施行規則第十一條に定められたる要旨には、

裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス、

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方裁チ方及繕ヒ方ヲ授クベシ。

と即小學校よりは更に裁縫の範圍を擴められたるなり、尙改正令に於ては家政に關する學科目を修めんとする者の爲に、實科をおき、又實科のみを置くことを得とありて、裁縫には特に力を用ひられたり。

## ハ 師範學校

師範學校は小學校教員を養成する所とす、師範學校に於ては順良・信愛・威重の徳性を涵養することを務むべ



しとは師範教育令第一條中に定められたる所なり、是を高等女學校に比するに、自己を修むるを以て足れりせせず、更に他に授くべき方法を學ばしめざるべからず、是兩者の趣を異にする所以なり、即明治四十年四月改正せられたる師範學校規定第十九條には、

裁縫ハ、裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ、且小學校ニ於ケル裁縫教授ノ方法ヲ會得セシメ、兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス。

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方・裁チ方及繕ヒ方等ヲ授ケ、且教授法ヲ授クベシ

とありて、高等女學校のそれに比して、教授法の一を加へられたり、されば技術と教授法との關係を、能く生徒に了得せしむべきは勿論、常に重きを順良・信愛・威重といふに置き、苟是に戻るものは例令技能の俊秀なるものも取るに足らざるものと定むべきなり、然らざれば學校の精神に撞著するは固より、善良の教師を養成するを得べからざるなり。

## ニ 實業補習學校

女子實業補習學校の教科は、最裁縫に重きを置かれたるもの多し、思ふにこれ高等女學校に入學する能はざ

るも、小學教育にて満足せざるもの、主に入學する所なるが故ならんか、今實業補習學校の主旨を玩味すれば、左の二様あり。

1. 簡易なる方法に依り、職業的知識技能を得しむること—裁縫は、殆萬人普通の學なれば、之を學ばざるものは、常識なきもの、内に數へらる、故に之を學んで職業と爲し得らるゝ程度に達するは、實業補習學校にては難しとする所なり、如何とすれば、生徒の閑散なる折を見計ひ、夜間・日曜或は一定の期節に限り開校するもの多きに依り、比較的教授時間少く、或は生徒に家事その他の故障多く、會々覺ねたる藝術も復習の機會少く、その間に修學の念薄らぎ、遂に全く水泡に歸する弊あればなり、されど相當の修業方法により、熱心なる生徒を收容し、教授その宜しきを得ば、目的を達すること敢て難きに非ざるなり。
2. 小學校教科の補習をなすこと—小學校にては、主として基本的技術を授け、衣類も極めて初歩のものに止めしが、更にその範圍を擴め、且稍進みたる技術と實物との取扱にまで進ましめ、或は單に縫方の一部分を知りて、他を知らざるものに、裁方及び全體の部分關係補綴方を教ふるが如きは、即補習の目的なり。



といふべし要するに淺きものに深みを加へ、朦朧たるものを明瞭にするは、補習學校目的の一なりと雖初は成るべく卑近にして確實なるを旨とし、種類を減じて應用を多くし、漸次程度を高むるを良しとす故に尋常小學校卒業生の入學する補習學校課程は其上級なる高等小學校の教科程度、及日常の實際問題を標準とし、高等小學校卒業生の入學する補習學校課程は、その上級教科に日常の實際問題を加味したるものたるべきなり。

### ホ 各種技藝學校

小學校・高等女學校は、普通教育なり、故に裁縫の外に、尙多くの學科あり、且その目的は、人物の養成にあれば、裁縫に向つて十分の希望を屬すべからざるなり、されども技藝學校に至りては然らず、之に熟練し精通し、その蘊奥を極むべきは、此種の學校を措きて他に求むべからざるなり、凡一國技藝の發達は、直にその影響を商工業に及ぼし、商工業の盛衰は、即國家の盛衰に關係あり、故に技藝學校は、修業年限を長くし、課程を高尙深遠にし、最技藝に重きを置き、人格の如きは、其技藝を修むるに適當ならしむるを勉むべきなり、これ他學校と大に

趣を異にする所以なりとす。

かく學校の目的に従ひ、裁縫科の性質範圍多少異なるものなれば、教授者は之を熟知して、遺漏なきを勉むべし。

## 第六章 裁縫教授の材料

### 一 教材選擇の標準

前述の裁縫教授の目的を達せんには、之に適當なる教材を選擇するを要す、その材料は、裁縫教授の要旨を基礎とし、之に裁縫固有の性質を併せ考へ、日常生活に應用し得べき様に、教材を選擇せざる可からず、今其要件を左に列記すべし。

(イ) 心身發達の程度に適すべきこと。

理解して學習せざれば、之を應用することは困難なるものなり、然るに裁縫の教材は、種類多く、且實用的のものなるを以て、彼も是も必要なりとして教材を選定せば、教授・學習共に時間と勞力とを消費する事多く、然もその結果は、生徒の知能を纖弱朦朧たらしむるに過ぎず、されば教授者は、學年共通の理解程度及び各個人の理解程度に應じて、適當なる教材を選び、その分量を定めて、指導せざる可からず、



(ロ)先基礎となるべき諸種の縫方を授くべし裁縫の技に習熟せしめんとせば、先修得の基礎となるべき運針、各種縫方を練習せざる可からず、運針に於て手指の運用を練り、各種縫方によりて、技術の基本をつくり置かば衣類の縫方に移りたる時迅速に且巧に製作するを得て、教授の効果を多からしむべし。

(ハ)各教材は簡易實用を旨とし且將來の生活上の基礎となるべきものたること。

吾人の日常の生活に使用する衣類は實に多種多様といふべし、一例を挙げれば、

雑巾・糠袋・風呂敷・襦袢・前掛・襦袢・單衣・浴・縮入・羽織・帶・袴等にして、襦袢以下のものには、更に男女・小供用、及小裁・中裁・本裁に分れ、帶及袴も亦數種に分類せらる、これ等普通衣類の外に、被布・コート・蒲團・シャツ・ズボン下・洋服等を挙げれば、實に驚くべき數となるべし、この内より、特殊のものを省き精選するも、猶その種類頗多し、是を學年の程度限りある教授時間中に、然も有効に授けんとす、裁縫教授の困難なる所以なり、されば教授者は、大見識・大英斷を以て、教材の精選を行ひ、將來此多種多様の教材を滞りなく仕立て得て、生活の基礎たるべきものを要

す、即縫方の種類を制限し、裁方に於ては基本的のものは、縫方と同一範圍とすべきも、應用の方面は廣く授け置くを便とす、裁縫を全く人手に托して主婦自爲さざることありとも、布帛を見積り、之を裁ち揃ふる事は、人手に委し、難し況裁方は思考上の練習たるに於てをや。

(ニ)教材は、多量を避け、反覆練習をせしめ得べき程度内に於て分量を定め、且これが應用を自在ならしむべきこと。

裁縫の技術は、正確迅速に、且精巧なるを目標とす、されば教材を精選し次に反覆練習して、技術を圓熟せしむべきなり、若此目的を達しなば次の如き効果を挙げ得べし。

1. 技術は正確迅速に、且精巧なるを得。
2. 作用又は活用の素地を造り、生活に資するを得。
3. 裁縫に興味を感じて、自工夫し、發明し、更に進んで裁縫を研究せんとする能力をも養ふ。

固より此點に向て、英斷革新を要すべきなれども、反覆練習の意味を極端に解して、本裁一枚を數回繰り返すが如き方法を以てするは、誤れり、技藝の事たるや、これに圓熟精選せんとせば、共通點ある數種の事



を習練する間に、自然に自得する所もあり、且圓熟せられて、其内の或種類のもの堪能なるに至る、本裁を上手に仕立てんとして、本裁一枚を數回繰返すよりは他の二三種を授けて練習するを適當とす、文字を巧に書かんとして、いろはのみ練習すとも、その目的を達するを得ざる如く他の技能の事皆然らざるはなし、されば革新も亦極端に走らざるを要す。

(\*)技術的方面のみならず、知的教材を交へ、且節約利用等の婦徳養成に關する事項は、成る可く之を選び置くべきこと。

裁縫が、普通教育上價值あるは、間接に此婦徳を養成し得るが爲なり、從來裁縫科の聲價あがらず、教育上一種侮蔑の眼を以て視られしは、教授者も學ぶ人も徒に技術を修得するを以て、能事了れりとなせしが、故ならん、節約利用・用具の整理法・布帛の取扱・補綴等、苟此目的を達するに關係ある事項は、時間の許す範圍に於て、選び置く事肝要なり。

(~)材料は質素を旨とし、苟贅澤奢侈に涉る可からず、奢侈贅澤の戒むべきは、今更言ふを要せず、然るに裁縫材料は贅澤華美なるもの多く、然も生徒は、その取扱を好むものなり、教授者常に此點に留意せずんば、裁

縫の容易ならん事を望み、或は仕立上に人目を惹かん事を思ひ、或は一種の虛榮心等より、生徒は往々質素ならざるものを持參すべし、その結果教育上の効果を阻害する事甚し、且木綿・絹・毛織等、各布帛の種類により、其取扱に難易あれば、生徒の程度によりて、必取捨選擇を要すべきものなり、元來裁縫は、洗張・縫直し物を、巧に裁縫するを本旨とすべく、決して新しきもの、美しきもの、を仕立つべきには非らざるなり、裁縫の教育上の價值は他に存することを忘る可からず。

小學校に於ては綿布を主とし、高等小學校及高等女學校の高學年より絹布・毛布等を仕立てしむ、尤絹布と雖高價の品には非ざるなり。

(ト)土地の情況學校の種類によりて、取捨すべきこと。

一都會一地方同じ日本國內に於ても、生活の程度・人情風俗・言語習慣を異にせり、されば國家として出來得る範圍に於て、その統一を計るも、尙山地河海の趣異なれば、自これに馴致せられて、人情風俗を異にするは、免れざる所にして、然も趣味ある事とす、教授者は、又茲に着目してその改良すべきは、之を改善して、差支なきも、大體は土地の情況、人民生活の程度、學校



の種類修業年限の多少等によりて教材を選ばざる可からず然るに、ともすれば都會に學びたる人の之を鵜呑にして、土地の情況を察せず、機械的に應用して、淳朴なるべき子女の思想を、都會的にして教育の本旨に背反し、自己も亦失敗に終る事あり、深く注意すべきことなり。

## 二、教材の排列法

前述の如くして選びたる教材は之を適當排列せざる可からず、今其排列法の據るべき件を左に擧ぐべし。

### (イ)直進法

同一の教材を反覆することなく、始より終迄、一直線に進行せしむるものをいふ、例へば本科に於ては單衣にて小中本裁の各種を授け、更に同様裕・綿入・羽織に進むが如し、此方法に依る時は、初めに小裁より中本裁に進み、何れも單衣のみにて授くる點に於て便利なるが如きも、本裁物は布帛の丈幅及び運針の箇所多く、形も大なれば、其取扱方不便にして、仕立方に多大の時間を費し、甚しきは單衣一枚に數十時を費し、一學期間に、僅に一枚を仕立てしむるに過ぎざるものありといふ、且、初歩の程度に於ては、手指の練習

未十分ならず、布帛の取扱にも慣れざる年齢なるが故に、之に早く本裁物を課するは、徒に生徒に困難を感せしめ、仕立方に長き時を費し、自然に興味を殺ぎ、その効果を不十分ならしむる恐れあり、これ“心身發達の程度に適合すべし”といふ理法に背けるものにて、此法の短所といふべきなり、但し衣類の性質上直進法に依つて排列するを原則とす、其理由は、各種の衣類は、概して製作に多數の時間を要せば、毎學年反覆すること不可能なる、種類を異にしても同一方法に屬する部分あるを以て練習は自然になすを得べければなり。

### (ロ)圓周的循環法

前法と反對に、同一の事項を反覆し、漸次深さと廣さを加ふるものをいふ、此法は歴史科等に於て最も多く用ひらるゝものなり、本科に於て此法を適用すれば、先小裁に於て、單衣・裕・綿入と云ふ順序に進み、更に同様中本裁に於て課するが如く、恰圓周的に進ましむるものなり、運針用具の使用法・裁方・標附方等は各學年適宜循環して課すべきなり、循環すれば時間の不足を來すといふものあれども、一時々間の不足を生ずるも結局技術の進歩を圖り、活用の力をも養ふ



事を得べし、即小學校にて小裁にて、單衣・袴・綿入類を課し、高等小學校及び高等女學校にて、本裁物より進むが如き排列法は、此法を適用せるものといふべし。

(ハ)中心展開法。

此法は或中心を定め、之を出発點として他の教材を連絡せしむるものなり、例へば

甲 年齢學級等を基礎とし成るべく生徒の身邊に近きものよりすること。

乙 基本的衣類を定め先之を十分に練習し然る後、他の教材に應用せしめ若くは自修を課するもの。

甲は幼年の時期には、卑近なる知識技能に對して興味を有し且了解し易きものなりこの理由により、先その學年の生徒の日常着用する衣服を以て出發點とし漸次他の教材に及ぼすものにて、かくする時は自己の仕立てしものは直に之を着用し得るが故に其勞力に伴ふ結果は實用に適するが故に、興味を惹起し進んで學ばんとする念を生じ、教授の効果を多くすべしといふにあり。

乙の法は最近之を主唱する人多く、勢力有るが如し而して其基本的衣類を小裁とするか本裁とするかにつきては議論あり、この方法を主唱する人は、實驗

の結果を以ていふべければ根據確實なる所あるべし、然れども裁縫の事たる、未之を教育的に研究せしは最近の事に屬し、之を正確不變の法として贊する事能はず、又論者もいふ能はざるべし、小學校時代に於て手指の練習未十分ならざる生徒に於ては、小裁の取扱を以て最適當とする經驗と理由とあり、即最近開催せられたる初等・中等裁縫教授研究會の結果によりても、未基本的衣類を何れに取るかを絶體に可とするといふ説なく、大體に於て次の如き結論となり、將來研究實驗して更に發表の時期を俟つことゝなれり。

一 小學校に於ては小裁單衣を基本衣類として、進むべきを適當とす。

二 高等女學校以上の程度に於ては本裁單衣を基本として進むべきこと。

又大正五年十月、裁縫擔任教員協議會の調査報告に依る通常の衣類の範圍其教授の方針を、参考の爲次に擧ぐべし。

一 左ノ種類ヲ通常衣服ト認ム

|    |     |     |     |    |
|----|-----|-----|-----|----|
|    | 一ツ身 | 三ツ身 | 四ツ身 | 本裁 |
| 襦袢 | 同   | 同   | 同   | 同  |



|    |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|
| 單衣 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 裕  | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 綿入 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 羽織 | 同 | 同 | 同 | 同 |
| 帶  | 同 | 同 | 同 | 同 |

一 尋常科ニ於テハ右ノ種類大小ヲ全部ナスコトハ、兒童ノ能力ニ對シテ不可能ナリ。

1. 單衣ナラバ一ツ身ヨリ本裁迄製作スルコトヲ得。
2. 單衣ニテ小裁中裁迄ヲ適當トス。
3. 裕ナレバ中裁迄。
4. 綿入ナレバ小裁迄。
5. 羽織ハ袖無羽織。

(帶ニ就テハ何等記サズ)

二 現在ノ教授時間ニ鑑ミテ教材ノ範圍ヲ定ムレバ左ノ如シ(○ハ可能ヲ意味ス)

|    |    | 一ツ身 | 三ツ身 | 四ツ身 | 本裁 |
|----|----|-----|-----|-----|----|
| 第一 | 襦袢 | ○   | —   | ○   | ○  |
|    | 單衣 | ○   | ○   | ○   | ○  |
|    | 裕  | ○   | —   | —   | —  |

|   |    |   |   |   |   |
|---|----|---|---|---|---|
| 案 | 綿入 | — | — | — | — |
|   | 羽織 | — | — | — | — |
|   | 帶  | — | — | — | — |

(一) 普通衣服ヲ教授セントスルニハ、單衣ノ一ツ身ヨリ本裁マデ授クレバ、大小ノ基礎ヲ全部習得サセルコトヲ得。

(二) 一ツ身ノ裕ヲ授クレバ、表裏ヲ合セルコトノ基礎ヲ授クルツケナレバ、コレニ依ツテ、四ツ身本裁ニ應用サセルコトヲ得、尙進ンデ綿入ノ基礎トモナル。

(三) 右ノ方法ニ依レバ、單衣ノ練習ヲ重ネテ、知識技能ヲ確實ニシ、單衣ナレバ、裁縫シ得ルトイフ自信ヲ得シメテ、裁縫ニ付テノ興味ヲ喚起セシムルコトヲ得。

(四) 僻陬ノ程度低キ家庭ニテモ、義務教育終了後尙ソレ以上ニ如何ナル方法ヲ取リテモ、技術ヲ練磨サセタイトイフ、今日ノ傾向ヨリ考ヘ見テモ、其基礎ノ技術ヲ確實ニ授ケ置ク必要アリト認ム、所謂間口廣クシテ淺キヨリ、狭クモ奥行深キ方ヲ取ル。

(五) 一技能ニ習熟セシメズシテ、衣服ノ種類ヲ變化ス



ルハ、徒ニ勞多クシテ功少キモノト認ム。

(六)教材ノ種類ヲ變化セシメザルコトハ、兒童ノ心理的的要求ヲ満足セシメザルカノ感アレドモ、其大小ノ順ヲ逐ウテ課スルコトニヨリ、十分ナル要求ヲ充スコトヲ得。

(七)同一種ノモノヲ反覆練習セシムルコトハ、益ナキ基礎練習ヲナスガ如ク見ユルモ、幾度カ反覆練習ヲスルコトニヨリテ、技術ヲ確實ニ熟練セシムルコトヲ得。

(八)一ツ身ヨリ、學年ノ進ムニ從ヒ、漸次大ナルモ、ノヲ縫ハシムレバ、兒童ハ之ニ慣レテ、六學年ニ至リ、本裁ヲ縫ハシムルモ、手指發育ニ伴ヒテ、更ニ困難ヲ感ゼズ。

|             |     | 一ツ身 | 三ツ身 | 四ツ身 | 本裁 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|----|
| 第<br>二<br>案 | 襦 袷 | ○   | —   | ○   | ○  |
|             | 單 衣 | ○   | —   | ○   | —  |
|             | 袷 入 | ○   | —   | —   | —  |
|             | 綿 織 | ○   | —   | —   | —  |
|             | 羽 帶 | —   | —   | —   | —  |

(一)衣服ヲ理解セントシテハ、大小ノ順ヲ追フヨリモ、衣服ノ種類全部ニワタルヲ以テ、衣服ノ基礎教授ヲナシタルモノト認ム。

(二)部分的基礎ヲ授クルニモ綜合的基礎ヲ授クルニモ、衣服ノ種類全部ニワタルヲ以テ、完全ナルモノト認ム。

(三)衣服ノ大小ニ關スル事項ハ、之ヲ實習セザルモ、實物若クハ圖ニヨリテ理解セシムルノ便アレドモ、衣服ノ種類ニ關スル部分的基礎技術ハ、圖若クハ實物ニテハ、到底理解セシムルコトヲ得ズ。

(四)技術ノ練習上ヨリ見ルモ、大ナルモノヲ製作セシムルハ、同一種類ノ練習ニ、多クノ時間ヲ費スノ不利アレドモ、小ナルモノニテ、各種類ニワタル時ハ同一ノ基礎練習ヲ避ケテ、種々ノ基礎練習ノ機會ニ接セシムルコト多シ。

(五)兒童ハ自分ノ着用スル衣服ニヨリテ、如何ナル種類アルカヲ知ルモノナリ、而シテ裁縫ヲ學ブニ至リテ、ソレ等ノ種類ノ製作ヲ希望スルハ、兒童自然ノ心情ナリト認ム、且種類ヲ少クシテ深キニ入ルヨリモ、各種ノモノニ廣クワタルコトハ製作ニ要スル時間ヲ少クシテ、仕事ニ變化アラシムルヲ以



テ、児童ノ心理的要求ニ適スルモノト認ム。

(六)裁縫ノ技術基礎タル運針練習モ、各種ノ部分的基礎事項ヲ練習シツ、同時ニ運針練習モ爲シ得ルモノナリ。

(七)假ニ義務教育終了後更ニ裁縫ノ技能ヲ學習セザルモノトスルトキハ、各種ノ衣類ノ基礎ヲ授クル方、日常生活上一層便ヲ得ルモノト認ム。

(八)衣服ノ種類ヲ追ウテ進ムコトハ、各種ノ基礎技術ヲ習得シツ、單衣ノ練習ヲモ反覆スルコトヲ得ルモノナリ。

(九)四ツ身マデハ、尋常科ニ於テ取扱ノ困難ヲ感ゼザルモ、本裁ハ取扱上不便ヲ感ズルコト少ナカラズ。

(附)“ミシン”ニ就キテ。

○尋常科ニ於テハ“ミシン”ノ使用ノ必要ナシ、児童ノ心身ノ發達状態ヨリ見ルモ、我ガ國家庭生活ノ状態ヨリ見ルモ、ソノ必要ヲ認メズ。

○高等科ニ於テハ、土地ノ状況ニヨリテ使用スルモ可ナラン。

又基本的衣類を本裁とし、小裁・中裁物は、之を應用的に課して得たる利益を次の如く列記せるもあり。

一、基本衣類の種類。

單衣・袷・綿入・羽織及び袴の五種とし、用布を木綿とす。

## 二、應用衣類

(イ)説明と實習とをなさしめ、反覆せざるもの。

(ロ)説明と實習とをなさしむるもの、之を裁方標附方に限るもの。

(ハ)説明のみを與へ、實習は時間に餘裕ある時に於てなさしむるもの。

## 三、自修衣類

應用衣類の裁縫によりて修得したる所又は参考書等より、自工夫し製作するもの。

基本衣類を本裁として課して得る利益。

(イ)時間の節約。

(ロ)反覆練習の時間あるにより、技術の理解を十分ならしむ。

(ハ)小裁・中裁物は應用として課して十分なり。

## (ニ)教材排列の原則

一、各教材は必連續すべきものなり。

二、漸進的なるべし、即易より難に、簡單より複雑に、漸次その深さと廣さを増し既に了へたるものは、

後に教ふるもの、豫備となり後に教へたるもの



は前に教へたるものを基礎とすべきこと。

三、教科教材の各方面の間には、互に連絡を保ち、統一を計り、常に調和發達せしめざる可からず。

四、履むべき順序をふみて、然も合理適法なるべし。

### 三、教授細目

各學校施行規則中に掲載する、各教科課程表は、教授の進路を表示し、又時間をも定めたるものなりと雖、大體に於ける教順に過ぎざるを以て、其詳細に至りては、固より知るを得ず、されば教授をして適切ならしめんには、更に細目を調製する必要あり、實に細目は教授の豫算にして、教授をなすもの、第一に考慮すべき事なり、而して教授細目には、期案と週案とありて、更に之に細案を定むることあり。

一期案は一學年を三學期に分ち、此學期に對して、教材を配當したるものにて、概要を示すに止れり。

二、週案は一學年を三學期に分ち、更に之を週に分ち、週數と毎週の時間數とを示し、之れに適當せる教材を、排列したるものなり。

三、細案は普通には週案行はるれども、更に各教材を部分的に研究して、之が取捨選擇を行ひ、説明の要點教

法・教具の準備等を、大略規定し置く時は、教授力の分配適當に行はれ、教授に徒勞なく、且學習にも不便少なく、教授力の徹底統一等に最適當なるべし、一校に流義を異にする、數人の裁縫教師ある所等にては、殊に必要なるべし。

四、細目調製上の注意。

教授細目は、教授の進路を示したる、一學年間の豫算表ともいふべきものにて、教授學習の標準となるものなれば、下の事項に注意して、適切なる細目を調製すべし、調製上注意すべき要件を左に擧ぐべし。

イ、教則の示す處に従ふべし。

ロ、兒童心身の發達の度を考へ、年齢に應ずべし。

ハ、民度・風俗・習慣等、土地の情況及び修業年限の多少等によりて、斟酌をなし、且將來の生活に資すべき準備をなすべし。

ニ、多種の教材を課せんよりは、少數の教材を反覆練習し得べき程度内に於て、之が分量を定むべし。

ホ、各教材は一單元を定め、之を數節に分ちて、其要點を記し、且豫教授時間をも配當し置くべし、例へば、

一、題目何々

1、部分縫何々

時數



## 2, 裁方 時數

裁切寸法

積方

裁方實習

## 3, 仕立方 時數

寸法

標附方

縫方順序

實習

此他次の細目例に示す如く、週・教授事項・時間・連絡事項・注意事項・教具と區別して、記入せるもあり。

へ、教材排列の順序は、技術の難易前後の關係、類化の順序を考ふべきは固より、又季節を考へ、材料品を得るに便利ならしむべし。

ト、他教科中、特に本科に關係ある事項は、其教科の進度に照して、本科の教材を排列し、互に連絡を保たしむべし。

チ、一事項は、成るべく其學年、若くは一學期中に終り、次の學年又は學期に涉らぬやうにすべし。

リ、教材は實用的のものを選び、材料は質素なるべし、先時間數を定め、多少の餘裕をつくり置き、練習若

くは不時の休業等より生ずる、教授の遲滯を補充することを得る様なしおくべし。

ル、運針及び基礎教授に重きを置くべし。

ヲ、細目は何人にも分り易きやう記載すべし。

## 小學校裁縫教授細目一例

尋常科第三學年

第一學期 拾四週 (凡十四週間)

| 週  | 教授要項                              | 時數 | 教具               | 備考 |
|----|-----------------------------------|----|------------------|----|
| 一  | 一、裁縫用具の名稱使用法及び整理                  | 一  | 各種用具             |    |
| 二  | 一、運針                              | 七  |                  |    |
| 八  | 1, 針の持ち方運び方及び姿勢<br>2, 素縫<br>3, 本縫 |    | 姿勢の圖<br>標本<br>標本 |    |
| 九  | 一、本縫應用                            | 四  | 説明用圖解及び標本        |    |
| 一三 | 直線結合縫二枚                           |    |                  |    |



## 第二學期 拾六週 (凡十六時間)

| 週  | 教授要項                                   | 時數 | 教 具                      | 備考 |
|----|--|----|--------------------------|----|
| 一  | 一, 運針                                  |    |                          |    |
| 二  | 一, 糸の結び方<br>1, 留結<br>2, 細結<br>3, 機結    | 二  | 標本<br>説明用布・針・糸<br>同<br>同 |    |
| 三  | 一, 糸の留め方<br>1, 打ち留<br>2, 返し留<br>3, 抄ひ留 | 六  | 標本<br>説明用布・針・糸<br>同<br>同 |    |
| 九  | 一, 糸の縫ぎ方<br>1, 重ね縫<br>2, 結び縫           | 二  | 標本<br>説明用布・針・糸<br>同      |    |
| 一一 | 一, 縫ひ方各種                               | 二  | 標本<br>説明用布・針・糸           |    |
| 一二 | 1, 合せ縫<br>附縫代・待針及び<br>着せの説明            |    |                          |    |
| 一三 | 一, 本縫應用                                | 三  | 説明用圖解及び標<br>本            |    |
| 一五 | 直斜線結合縫                                 |    |                          |    |

## 第三學期 十週 (大凡十時間)

| 週 | 教授要項                                | 時數 | 教 具                 | 備考 |
|---|-------------------------------------|----|---------------------|----|
|   | 一, 運針                               |    |                     |    |
| 一 | 一, 縫ひ方各種<br>1, 伏せ縫<br>2, 袋縫<br>應用糠袋 | 五  | 標本<br>説明用布及び圖解<br>同 |    |
| 六 | 一, 雑巾<br>一〇 段崩し・花菱等                 | 五  | 標本<br>説明用圖解         |    |

## 尋常科第四學年

## 第一學期 十四週 (大凡二十八時間)

| 週 | 教授要項                          | 時數 | 教 具             | 備考 |
|---|-------------------------------|----|-----------------|----|
|   | 一, 運針                         |    |                 |    |
| 一 | 一, 縫ひ方各種<br>1, 三つ折縫<br>2, 重ね縫 | 四  | 標本<br>説明用布<br>同 |    |
| 三 | 一, 簾掛け方                       | 四  | 標本及び説明用布・<br>圖解 |    |
| 四 | 1, 平簾 二種<br>2, 隠簾             |    | 同<br>同          |    |



|    |            |   |                        |
|----|------------|---|------------------------|
| 五  | 一, 紵 け 方   | 九 | 標本及び説明用布・<br>圖解        |
| 九  | 1, 耳 紵     | 同 |                        |
|    | 2, 三つ折紵    | 同 |                        |
|    | 3, 本 紵     | 同 |                        |
| 九  | 一, 應 用     | 九 |                        |
| 一三 | 風 呂 敷<br>袴 | 九 | 標本並に三つ折紵<br>本紵の標本<br>同 |

第二學期 十六週 (凡三十二時間)

| 週 | 教 授 要 項       | 時數 | 教 具                 | 備 考 |
|---|---------------|----|---------------------|-----|
|   | 一, 運 針        |    |                     |     |
| 一 | 一, 前掛仕立方      | 八  | 説明用布及び圖             |     |
| 四 | 1, 種類及び寸法     |    | 三つ折紵標本              |     |
|   | 2, 布調へ裾紵      |    | 説 明 用 布             |     |
|   | 3, 紐附, 紐紵     |    | 本 紵 標 本             |     |
|   | 4, 仕上げ        |    |                     |     |
| 五 | 一, 綿布の名稱及び丈・幅 | 一  | 綿布標本<br>幅の種類を示したる標本 |     |
|   | 一, 普通衣服の種類    | 一  | 各種の衣服若くは<br>圖       |     |
| 六 | 一, 襦袢の種類及び地質  | 一  | 各種の襦袢若くは<br>圖       |     |
| 六 | 一, 襦袢各部の名稱    | 二  | 襦袢標本并に圖解            |     |

|    |           |    |                               |
|----|-----------|----|-------------------------------|
| 七  | 一, 一ツ身襦袢  |    |                               |
|    | 1, 部分縫    | 一三 | 襦袢半身頃標本<br>標附け圖・部分縫<br>用布并に標本 |
|    | 袖         |    | 同                             |
|    | 脇縫及裾紵     |    | 同                             |
|    | 衿 附       |    | 同                             |
|    | 衿 紵       |    | 説明用布及び圖解<br>標本                |
|    | 袖 附       |    | 説明用布・標本                       |
|    | 八ッ口紵及び仕上げ |    | 説明用圖・標本                       |
| 一三 | 2, 仕立方    |    | 一ツ身襦袢標本                       |
| 一五 | 寸 法       |    |                               |
|    | 標附け方      | 四  | 袖標本及び標附け<br>圖                 |
|    | 袖標附及び縫ひ方  |    |                               |

第三學期 拾 週 (凡二十時間)

| 週 | 教 授 要 項           | 時數 | 教 具      | 備 考  |
|---|-------------------|----|----------|--|
|   | 一, 運 針            |    |          |  |
|   | 一, 一ツ身襦袢仕立方續<br>き |    |          |  |
| 一 | 身頃標附け方            | 二  | 標 附 圖    |  |
|   | 衿標附け方             |    | 同        |  |
| 二 | 縫ひ方順序             | 一  | 一ツ身襦袢標本  |  |
| 二 | 實 習               | 一五 | 裾紵・衿先の標本 | 縫方順序に<br>より各部分<br>の縫方に要<br>め時間を配<br>當しなくを<br>可とす<br>以下同じ |



附疊み方 解き方

尋常科第五學年

第一學期 拾四週 (凡四十二時間)

| 週 | 教授要項                  | 時數     | 教 具                        | 備 考                                    |
|---|-----------------------|--------|----------------------------|--|
| 一 | 一、運 針                 | 一<br>六 | 用 具 各 種<br>標本及び説明用布<br>圖解  |  |
| 一 | 一、裁縫用具の名稱使用<br>法及び其整理 |        |                            |  |
| 一 | 一、縫ひ方各種               |        |                            |  |
| 三 | 1、接ぎ方                 |        |                            |  |
|   | 片 接                   |        |                            |  |
|   | 割 接                   |        |                            |  |
|   | 2、繼ぎ方                 | 五      | 標本及び説明圖                    |  |
|   | 刺し繼                   |        |                            |  |
|   | 色紙繼                   |        |                            |  |
| 三 | 一、車裁襦袢若くは本裁<br>襦袢     |        |                            |  |
| 四 | 1、部分縫                 | 五      | 標本及び圖解<br>標附け圖・標本・説明<br>用圖 |  |
|   | 衿肩かゞり                 |        |                            |  |
|   | 脇縫及び割袂                |        |                            |  |
|   | 馬乗衿け方                 | 五      | 標本、説明用布                    |  |
| 五 | 衿附及び裾衿け方              |        |                            |  |
|   | 衿先の仕方                 | 一八     | 三つ衿衿先の標本                   | 本裁襦袢を<br>課する時は<br>衿附及び衿<br>先の仕方を<br>省く |

|    |                                      |    |   |            |
|----|--------------------------------------|----|---|------------|
| 一〇 | 2、仕立方<br>寸 法<br>標附け方<br>縫ひ方順序<br>實 習 | 二八 | 車裁若くは本裁襦<br>袢標本<br><br>標附け圖   |            |
| 一  | 一、衣服の目的                              |    |   |            |
| 一  | 一、單衣の種類及び各部<br>の名稱                   | 九  | 筒袖標本並ニ標附<br>け圖<br><br>紅及び衿附標本説<br>明圖<br>説明圖・用布・標本<br>三つ衿衿先標本・説<br>明用布 | 一 擴大したる名稱圖 |
| 一  | 一、一ツ身單衣                              |    |   |            |
| 一四 | 1、部分縫                                |    |   |            |
|    | 筒 袖                                  |    |   |            |
|    | 衿 附                                  | 五  | 標本及び説明圖   |            |
|    | 衿 附                                  |    |   |            |
|    | 衿下衿及び裾衿                              |    |   |            |
|    | 衿 衿                                  |    |   |            |

第二學期 拾六週 (凡四十八時間)

| 週  | 教授要項         | 時數 | 教 具     | 備 考 |
|----|--------------|----|---------|-----|
|    | 一、運 針        | 二八 | 一ツ身單衣標本 |     |
| 一  | 一、一ツ身單衣      |    |         |     |
| 一〇 | 2、仕立方<br>寸 法 |    |         |     |



|    |                              |    |   |
|----|------------------------------|----|---|
|    | 標附け方<br>縫ひ方順序<br>實習          |    | 標附け圖  |
| 一〇 | 一, 春紋或は附紐飾縫                  | 二  | 袖・かゝり方・剣先<br>衿・肩廻し・衿下及<br>裾縫標本<br>附紐・飾縫の標本説<br>明用圖          |
| 一一 | 一, 三ツ身單衣<br>1, 部分縫<br>袂袖の縫ひ方 | 二  | 標附け圖・袂袖標本<br>説明用布   |
| 一一 | 2, 仕立方                       | 一五 | 三ツ身單衣標本   |
| 一六 | 寸法<br>標附け方<br>縫ひ方順序<br>實習    |    | 標附け圖<br><br>袖, 衿肩及び前身頃かゝり<br>方, 衿附, 衿附, 三ツ衿, 衿先<br>等の標本説明用布 |

第三學期 拾 週 (凡三十時間)

| 週 | 教授要項                | 時數 | 教 具            | 備 考 |
|---|---------------------|----|----------------|-----|
|   | 一, 運 針              |    |                |     |
| 一 | 一, 三ツ身單衣            | 一四 |                |     |
| 五 | 2, 仕立方つゞき           |    |                |     |
| 五 | 一, 帯の種類及び地質其<br>取扱方 | 一  | 各種帯及び地質の<br>標本 |     |
| 六 | 一, 子供帯仕立方           | 一〇 | 子供帯の標本         |     |
| 九 | 寸 法                 |    |                |     |

|    |                     |   |                     |
|----|---------------------|---|---------------------|
|    | 標附け方<br>縫ひ方順序<br>實習 |   | 説明用圖解及び心<br>拵及び心附標本 |
| 九  | 一, 四ツ身單衣部分縫         | 三 | 飾糸の掛け方標本<br>及び圖     |
| 一〇 | 元祿袖縫ひ方              |   | 標本及び標附け圖            |
| 一〇 | 一, 衣服取扱上の心得         | 一 | 元祿袖丸<br>の型紙を使用す     |

尋常科第六學年

第一學期 拾四週 (凡四十二時間)

| 週 | 教授事項                       | 時數 | 教 具                           | 備 考                                       |
|---|----------------------------|----|-------------------------------|---|
| 一 | 一, 運 針                     |    |                               |   |
| 二 | 一, 各種襦袢及び小裁單<br>衣裁ち方       | 四  | 各種裁ち方圖實物<br>分解綜合標本            |   |
| 三 | 一, 四ツ身單衣裁ち方                | 三  | 四ツ身單衣標本及<br>び裁ち方圖實物分<br>解綜合標本 |   |
|   | 1, 裁ち切り寸法                  |    | 同                             |   |
|   | 2, 積り方                     |    | 同                             |   |
|   | 3, 裁ち方實習<br>附肩當居敷當の裁<br>ち方 |    | 同                             | 始め布代用<br>の紙にて實<br>習せしめ次<br>に實物裁ち<br>方にうつる |
| 三 | 一, 四ツ身單衣<br>仕立方            | 二六 | 四ツ身單衣標本                       |   |
|   | 寸 法                        |    |                               |   |
|   | 標附け方                       |    | 標附圖                           |   |



|    |                |   |             |
|----|----------------|---|-------------|
|    | 縫ひ方順序          |   |             |
|    | 實 習            |   | 肩當居敷當標本說明用布 |
|    | 附肩揚 腰揚の仕方      |   | 肩揚と腰揚の標本    |
|    | 一、洗濯の仕方        | 二 |             |
| 一二 | 一、單衣の解き方及び其整理法 | 一 | 小裁若くは本裁單衣實物 |
|    | 一、繕ひ方          | 四 |             |
|    | 1. 接ぎ方         |   | 標本及び説明用布    |
|    | 掛け接            |   |             |
|    | 2. 繼ぎ方         |   | 標本及び説明用布    |
|    | 穴 繼            |   |             |

第二學期 拾六週 (凡四十八時間)

| 週  | 教授要項             | 時數 | 教 具        | 備 考  |
|----|------------------|----|------------|------|
| 一  | 一、運 針            |    |            |      |
| 一二 | 一、裕 綿入の種類及び各部の名稱 | 一  | 標本及び名稱圖    |      |
| 一三 | 一、一ツ身裕部分縫        | 七  |            |      |
|    | 袖(潤袖)の縫ひ方        |    | 標附け圖標本說明用布 |      |
|    | 袂の縫ひ方            |    | 袂標本說明用布圖解  | 袂形使用 |
| 三四 | 一、一ツ身裕裁ち方        | 三  |            |      |
|    | 裁ち切り寸法           |    | 裁ち方圖       |      |
|    | 積り方              |    |            |      |

|     |            |    |                 |
|-----|------------|----|-----------------|
|     | 裁ち方實習      |    | 說明圖             |
| 四   | 一、一ツ身裕仕立方  | 二七 |                 |
|     | 標附け方       |    | 標附け圖            |
|     | 縫ひ方順序      |    | 一ツ身裕標本          |
|     | 實 習        |    | 袖及び袂・四ツ留標本等     |
| 一三六 | 一、一ツ身綿入部分縫 | 七  |                 |
|     | 袖(潤袖)縫ひ方   |    | 標附け圖・縫ひ方標本 說明用布 |
|     | 袂の縫ひ方      |    |                 |

第三學期 拾 週 (凡三十時間)

| 週  | 教授要項                                 | 時數 | 教 具                             | 備 考 |
|----|--------------------------------------|----|---------------------------------|-----|
| 一  | 一、一ツ身綿入仕立方                           | 二八 | 一ツ身綿入標本                         |     |
| 九  | 標附け方                                 |    | 標附け圖                            |     |
|    | 縫ひ方順序                                |    | 袖縫縫方標本・說明用布<br>井に圖・袖口綿含み方・四ツ留標本 |     |
| 一〇 | 實 習<br>一、衣服材料の品質選<br>方及び整理に關する<br>心得 | 二  | 衣服材料の標本                         |     |

高等科 第一學年

第一學期 十四週 (凡七十時間)

| 週 | 教授要項  | 時數 | 教 具 | 備 考 |
|---|-------|----|-----|-----|
|   | 一、運 針 |    |     |     |



|          |                |    |                                    |
|----------|----------------|----|------------------------------------|
| 一        | 一、本裁單衣女物       |    |                                    |
|          | 1, 部分縫         |    |                                    |
|          | 袖丸の縫ひ方         | 一  | 標附け及び縫ひ方<br>説明圖並に標本                |
|          | 2, 裁ち方 棒紐、鉤紐二種 | 三  |                                    |
|          | 裁ち切り寸法         |    | 裁ち方圖鉤紐説明<br>用の紙                    |
|          | 積り方            |    |                                    |
|          | 裁ち方實習          |    |                                    |
| 二七       | 3, 仕立方         | 三〇 | 本裁單衣標本                             |
|          | 寸法             |    |                                    |
|          | 標附け方           |    | 標附け圖                               |
|          | 縫ひ方順序          |    |                                    |
|          | 實習             |    | 袖・肩當・居敷當・衿<br>先等の標本                |
|          | 附疊み方解き方        |    |                                    |
| 八        | 一、腹合帶仕立方       | 一四 | 帶の標本                               |
| 一一       | 帶の地質及び布調べ      |    |                                    |
|          | 寸法             |    | 標附け圖                               |
|          | 縫ひ方順序          |    | 心附標本<br>四隅の縫ひ方説明<br>圖及び飾糸かけ方<br>標本 |
|          | 實習             |    |                                    |
| 一二<br>一四 | 一、改良前掛         | 六  | 改良前掛標本                             |
|          | 裁ち方            |    | 裁ち方圖                               |
|          | 仕立方            |    |                                    |

第二學期 拾六週 (八十時間)

| 週  | 教授要項               | 時數 | 教 具                  | 備 考 |
|----|--------------------|----|----------------------|-----|
| 二二 | 一、運針               |    |                      |     |
| 二二 | 一、本裁單衣男物           | 六  | 本裁單衣男物標本             |     |
|    | 1, 部分縫             |    |                      |     |
|    | 腰揚の仕方              |    | 標本并に標附圖說<br>明用布      |     |
|    | 人形の縫ひ方             | 三二 | 同                    |     |
| 二八 | 2, 仕立方             |    |                      |     |
|    | 寸法                 |    |                      |     |
|    | 標附け圖               |    | 標附け圖                 |     |
|    | 縫ひ方順序              |    | 人形・腰揚・衿先・袖<br>附留等の標本 |     |
|    | 實習                 |    |                      |     |
|    | 附疊み方解き方            |    |                      |     |
| 八  | 一、四ツ身衿             |    |                      |     |
|    | 1, 部分縫             | 三  | 筒袖標本 説明用布・<br>標附け圖   |     |
|    | 筒袖縫ひ方              |    |                      |     |
| 九  | 2, 裁ち方, 胴裏并に<br>裾廻 | 二  |                      |     |
|    | 裁ち切り寸法             |    | 裁ち方圖                 |     |
|    | 積り方                |    |                      |     |
|    | 裁ち方實習              |    |                      |     |



|                |  |         |                                   |  |
|----------------|--|---------|-----------------------------------|--|
| 九二<br>一三<br>一四 | 3, 仕立方<br>標付け方<br>縫ひ方順序<br>實習<br>一, 帶留又は千代田袋の類 | 二七<br>七 | 裕 標 本<br><br>袖・袂・四ッ留等の標本<br>標本及び圖 |  |
|----------------|--|---------|-----------------------------------|--|

第三學期 拾 週 (凡五十時間)

| 週       | 教授要項   | 時數           | 教 具                                   | 備 考 |
|---------|--|--------------|---------------------------------------|-----|
| 一       | 一, 運 針<br>一, 本裁裕女物<br>1, 部分縫<br>袖縫ひ方及び袖附<br>け方<br>2, 裁ち方(裏地)<br>裁ち切り寸法<br>積り方<br>裁ち方實習 | 三<br>一<br>三二 | 袖及び袖留標本標<br>附け圖<br><br>裁ち方圖<br>同<br>同 |     |
| 二八      | 3, 仕立方<br>標付け方<br>縫ひ方順序<br>實習  |              | 本裁裕女物<br>標附け圖<br><br>袖・袂等の標本          |     |
| 八<br>一〇 | 一, 帽子及び涎掛  | 六            | 帽子及び涎掛標本                              |     |

|    |                             |   |      |  |
|----|-----------------------------|---|------|--|
| 一〇 | 裁ち方<br>縫ひ方<br>一, 衣服調製に關する心得 | 二 | 裁ち方圖 |  |
|----|-----------------------------|---|------|--|

高等科第二學年

第一學期 十四週 (凡七十時間)

| 週      | 教授要項  | 時數                | 教 具   | 備 考 |
|--------|---|-------------------|---|-----|
| 一<br>二 | 一, 運 針<br>一, 小裁・中裁・本裁・裁合<br>せ方<br>一, 袴各部の名稱<br>一, 中裁袴<br>1, 裁ち方<br>裁ち切り寸法<br>積り方<br>裁ち方實習 | 六<br>一<br>二<br>二〇 | 裁ち方圖<br>袴標本并に圖<br>裁ち方圖<br>説明用圖及紙若く<br>は布<br>袴標本 |     |
| 三七     | 2, 仕立方<br>寸 法<br>標附け方<br>縫ひ方順序<br>襷取り方<br>實習  |                   | 標附け方圖<br><br>圖及び標本腰板附<br>け方襷等の標本                |     |



|      |          |    |                        |
|------|----------|----|------------------------|
| 附畳み方 |          |    |                        |
| 八    | 一、裁綿入女物  |    |                        |
|      | 1, 部分縫   | 四  |                        |
|      | 筒袖口及び袂袖口 |    | 標附け圖及び標本               |
| 八四   | 2, 仕立方   | 三六 |                        |
| 一四   | 標附け方     |    | 標附け圖                   |
|      | 縫ひ方順序    |    |                        |
|      | 實習       |    | 袂・含み綿の仕方、袖口衿袂先出來上り等の標本 |

第二學年 十六週 (凡八十時間)

| 週  | 教授要項           | 時數 | 教 具                  | 備 考          |
|----|----------------|----|----------------------|--------------|
| 一  | 一、運 針          |    |                      |              |
| 二  | 一、繕ひ方          | 七  |                      |              |
|    | 接ぎ方練習          |    | 標 本                  | 適宜絹布にてなましむべし |
|    | 縫ぎ方練習          |    | 標 本                  |              |
| 二八 | 一、本裁綿入男物       | 三〇 | 本裁綿入男物標本             |              |
|    | 仕立方            |    |                      |              |
|    | 標附け圖           |    | 標附け方圖                |              |
|    | 實習             |    | 袂及び含み綿・袖口衿・袂先の標本及び圖解 |              |
| 八  | 一、羽織の種類及び各部の名稱 | 一  | 羽織標本及び圖解             |              |

|                 |               |    |                    |
|-----------------|---------------|----|--------------------|
| 一、中裁若くは本裁綿入羽織女物 |               |    |                    |
| 九               | 1, 部分縫        | 四  | 圖解及び説明用布           |
|                 | 衿の折り方         |    | 同                  |
| 一〇              | 衿の附け方         |    | 同                  |
|                 | 2, 裁ち方        | 二  | 裁ち方圖               |
|                 | 裁ち切り寸法        |    | 同                  |
|                 | 積り方           |    | 同                  |
|                 | 裁ち方實習         |    | 同                  |
|                 | 3, 仕立方        | 三〇 | 羽織標本               |
|                 | 寸 法           |    |                    |
|                 | 標附け方          |    | 標附け方圖              |
|                 | 縫ひ方順序         |    |                    |
|                 | 實習            |    | 前下り縫ひ方・含み綿・袖口衿・附標本 |
| 一六              | 一、裁縫に關する諸種の心得 | 二  |                    |

第三學期 拾 週 (凡四十時間)

| 週 | 教授要項      | 時數 | 教 具        | 備 考 |
|---|-----------|----|------------|-----|
|   | 一、運 針     |    |            |     |
| 一 | 一、本裁衿羽織男物 |    |            |     |
| 七 | 1, 部分縫    | 二  |            |     |
|   | 袖附留の仕方    |    | 留め方標本・説明用布 |     |



|         |                                     |    |   |  |
|---------|-------------------------------------|----|---|--|
|         | 2, 仕立方<br>寸法<br>標附け方<br>縫ひ方順序<br>實習 | 三〇 | 羽織標本<br><br>標附け方<br><br>袖, 裾附, 袖附留の<br>標本 |  |
| 七<br>一〇 | 既授の事項練習                             | 一六 |   |  |

細目記載一例 (東京女子高等師範學校  
附屬小學校細目の一節)

第一部 尋常科第四學年第一學期

| 週 | 教授事項  | 時間 | 聯絡事項                   | 注意事項 | 教具       |
|---|---|----|------------------------|------|----------|
|   | 裁縫用具の名稱使用法<br>及び整理法<br>(1)縫針, 小チャボ二<br>本, 紵針二本<br>(2)鋏(握鋏の片丸の<br>もの)<br>(3)指貫(皮製)尺度, 筥<br>(4)總ての用具には必<br>ず記名し置かしむ |    | 讀本卷六<br><br>第六課物<br>サシ |      | 用具各<br>種 |
|   | 運針  |    |                        |      |          |
|   | 一, 針の持ち方, 運び方,<br>姿勢  |    |                        |      |          |

|  |   |   |            |     |
|--|---|---|------------|-----|
|  | (1)左手の持ち方, 最<br>初は拇指と食指と<br>にて堅く摘み, 他<br>の指は軽く握り,<br>漸次進むに従ひ中<br>指だけは伸すこと<br>(2)左右手の距離は最<br>初二三寸, 後五六<br>寸とす<br>(3)眼との距離は七八<br>寸(胸部前方)とす<br>(4)左右の臂を張りて<br>運ぶこと | 一 | 作法上の<br>姿勢 | 姿勢圖 |
|--|---|---|------------|-----|

第二部 高等科第一學年第三學期

| 週 | 教授事項  | 時間 | 聯絡事項                | 注意事項  | 教具                       |
|---|---|----|---------------------|---|--------------------------|
|   | 運針<br>本裁給女物部分縫                                      |    |                     |   |                          |
|   | 袖縫及び袖附<br>袖口下, 袖下は四つ縫, 八<br>つ口は縫ふこと                 | 三  |                     | 二尺の運針用<br>布二枚を表裏<br>身頃とし半幅<br>二尺及び一尺<br>八寸を表裏の<br>袖, 三つ割一<br>尺五寸を袖口<br>切となさしむ | 袖及び<br>袖附留標<br>本標附<br>け方 |
|   | 本裁給女物胴裏並に裾<br>廻裁方<br>一, 裁ち切寸法<br>二, 積り方<br>三, 裁ち方實習 | 一  | 算術科四<br>則<br>(加減乗除) |   | 裁ち方<br>圖                 |



高等女學校裁縫教授要目 明治四十四年七月  
文部省訓令第十二號抄録

第一學年

每週四時

基礎的技術の練習

運針法・糸の結び方・留め方・縫ぎ方・縫合せ方・袂掛け方・  
衿付け方等

一つ身單衣

四つ身單衣

三つ身袷

一つ身綿入

綿布の繕ひ方

第二學年

每週四時

本裁男女單衣

本裁女袷

本裁男袷

本裁女綿入

本裁男綿入の説明

片面物及中幅・大幅物にて小裁中裁本裁の裁ち方積り方

第三學年

每週四時

女袴

小裁中裁女袴の説明

本裁女綿入羽織

本裁男綿入羽織の説明

本裁男袷羽織

小裁中裁羽織の説明

小裁中裁本裁被布 中一枚仕上げ

片面物及中幅・大幅物にて羽織被布の裁ち方積り方  
腹合帯

第四學年

每週四時

絹布單衣

毛織單衣の説明

絹布・毛織の繕ひ方

男袴

小裁中裁男袴の説明

本裁男單羽織

丸帯・男帯 中一筋仕上げ

本裁女小袖重ね物の説明

しやつづぼん下

足袋・涎掛の類



修業年限五箇年のものに在りては本要目第四學年の教授事項に長襦袢・股引・夜着(雛形)・蒲團(雛形)等を加へ適宜之を第四學年第五學年の二學年に配當し又本要目中説明に止めたるものに就きて實習せしむべし。

### 師範學校裁縫教授要目

本要目中單に衣類の名稱のみを掲ぐるものは仕上げに至るまで生徒をして實習せしめ“説明”の二字を加ふるのは必要なる事項の説明に止めて實地の仕立を省くべし×印を附するものは土地の狀況に依りて之を省くことを得。

### 豫備科

毎週四時

基礎的技術の練習

運針法 絲の結び方・留め方・繼ぎ方・縫合せ方  
 襷掛け方 衿け方等

本裁襦袢

一つ身單衣

四つ身單衣

三つ身單衣

×車裁若くは前衿裁袴

一つ身綿入

### 本科第一部

#### 第一學年

基礎的技術の練習

運針法 絲の結び方・留め方・繼ぎ方・縫合せ方  
 襷掛け方 衿け方

本裁男女單衣

並幅物にて小裁・中裁・本裁の裁ち方・積り方の練習  
 子供帯

本裁男女袴

本裁女綿入

綿布の繕ひ方

片面物にて三つ身の裁ち方・積り方及中幅・大幅にて小裁・中裁・本裁の裁ち方・積り方の説明

#### 第二學年

毎週四時

本裁男綿入

女袴

同上小裁・中裁の説明

並幅・大幅物にて各種女袴の裁ち合せ方の練習



長襦袢の説明  
 本裁男女綿入羽織  
 本裁男袴羽織  
 小裁・中裁羽織の裁ち方・積り方・寸法の説明  
 片面物及中幅・大幅物にて各種羽織の裁ち方・積り方説明  
 足袋  
 ×千代田袋信玄袋の類  
 ×子供腹掛

### 第三學年

毎週四時

絹布女單衣  
 ふらんねる單衣の仕立方説明  
 絹布・毛布の繕ひ方  
 本裁男單羽織  
 被布小裁・中裁本裁中一枚仕上げ  
 片面物及中幅・大幅物にて各種被布の裁ち方・積り方の説明  
 被布合羽の説明  
 腹合せ帯  
 みしん使用法

改良前掛  
 ×頭巾并に涎掛の類  
 小學校に於ける裁縫教授法  
 教授の要旨  
 教授材料の選擇及排列  
 教授の方法  
 教授用具及教授上必要なる注意

### 第四學年

毎週四時

しやつづぼん下  
 男袴  
 同上小裁・中裁の説明  
 丸帯・男帯の説明  
 股引  
 小袖  
 同重ね物の説明  
 夜着(雛形に依る)  
 蒲團の説明  
 ×蚊帳の説明  
 此他木下氏著新教授法中の細目例等を参照すべし



## 第七章 裁縫教授の方法

### 一、教授の段階

裁縫の教授は、裁縫の本質を基礎とし、その教育的価値を完得せしめんが爲に、心理の法則に合せる、秩序ある教法を工夫研究し、之を實際に施し、児童の思想界を陶冶して整然たる知識となし、且實地に活用する材能たらしめんとするにあり、而してその教法を研究せんには、先段階につきての知識あるを要す、抑段階とは、教授進行の順序を、數節に區分して示したるものにして、教授作用の踏むべき順序をいふなり、教師は之を目標として、教授を進行すべく、生徒は之によりて、確實なる收得をなすべし、されば此段階を考究することは、教授法研究上、最必要のことといふべし、教授作用の主要なる部分は、新しき知識技能の修得、及び既習知識技能の練習整理應用等なり、若此二種の作用に行はれなば、教授の目的は、殆達せられたるものといふべきなり、然れども教材の種類と、學習者の程度とによりては、修得應用等の前後に更に準備を要する事あるべし、即教授學習を補導すべき物品、修得事項と連絡ある所の觀念の惹起學習事項の調査工夫等なり、又應用のみを以て終る

能はざる場合ありて、必終結をなすべきことあり、かく教授の目的を達せん爲には、數段の順序を踏むに非らずんば、完全に目的を達することを得ず、猶この段階を適當に活用すべき、教授者の能力をも必要とす、されば教授者は、先教育教授の一般的原理は、常に明になし置かざる可からず、されば古來教段に就きて研究せし學者、頗多し、就中ライン氏の五段教授法最廣く行はれたるものなりしが、最近又ザルグユルク氏の模範的段階と稱して、豫備・提示・整理の三段法を説けるあり、我國の教育者間に於ても、多少論旨を異にせるが如し、然れども各段階に於ける作用は、教科教材の種類によりて相異あるべきも、要するに教段は、教授の全作用を包括し、實際に有効適切なるものならざる可からず。

### 二、裁縫教授の依るべき段階

裁縫の教材には、知識的教材と技能的教材とを主とし、陶冶的教材の是に加はれるものなれば、教授者は各教材の修得を完からしめん爲に、其の原理を明にし、且修得に必要な心身の活動は、是を十分惹起せしめ、適當なる教授段階を踏みて進行し、教授を有効ならしむべきなり、されば裁縫教授の依るべき段階は如何といふ



に、知識的教材は技能的教材と段階を區別して、或は三段又は四段となせるものあり、然れども成るべく何れの教材にも適用すべき、所謂包括的のものあらば之を以て適當となすべし、此意味として、裁縫教授の依るべき段階にして、包括的なるは左の三段法なるべし。

#### 豫備 提示 整理

試みに裁縫教授の段階として論せらるゝものを擧ぐれば次の如し

- 一 豫備 修得 應用 終結
- 二(イ)豫備 教授 應用(知的教材)
- (ロ)準備 示例 實習(技能的教材)
- 三 豫備 示範 實習 應用

何れも教授作用の原則と、修得の原理とを斟酌して、數段に分ち、教育學的名稱を附したるものなれば、甲乙を論ずるに及ばず、といへども、就中包括的なるを以て最良とせざる可からず、されば、その最包括的なるべしと考へる段階につきて、説明すべし。

### 第一 豫備

學習上の準備と、新教材收得に對するの豫備的知識喚起、及び技術の練習とをなさしめ、以て新教材の類化に

つとめしむ、此段階に於て爲すべき事項は、次の如し。

- 一、學習者は自己の身邊及び作業用具を整理す、即學用品を机上に整へ、姿勢を正し呼吸を静め、教師の指示を待つか、又は豫告せられたる仕事に着手す。
  - 二、授くべき教材を豫示(目的指示)して、學習者の注意の向ふ所を定め、進みて學ばんとする希望を惹起す。
  - 三、既有の思想を整理す、即新教材に關係ある舊觀念若くは兒童の經驗に屬する既有の觀念あるときは復習問答して、舊觀念を喚起せしめ、之を指導して、新教材を修得する基本となさしむ。
  - 四、運針、其他新教材の豫備としての技術或は繪畫標本等を觀察せしめ、これに就きての問答等をなす。
- 目的指示は新教材の授與に移る時始めて之を指示するも可なり。

此段階に於て注意すべきこと左の如し。

- 一、迅速・確實・明確なるべし。
- 二、不明瞭なる・又誤りたる觀念は、之を矯正すべし。
- 三、不必要なる點を省き、必要なる點に止め、岐路に涉り、冗長に失す可からず。



## 第二 提 示

此段階は教授の本部ともいふべくして、新教材を十分に修得せしむるを以て目的とす、教授者が如何にして新教材を修得せしめんかと、自考慮すると共に、學習者をして如何にせば新しき知識を收得すべきかを、自工夫せしめん事を要す、此段階に於て行ふべき事項は左の如し。

- 一、實物標本或は繪畫等を提出し直觀せしめて、新教材の修得を容易ならしめ或は之によりて理解し工夫せしめ、場合によりては、自製作せしめて、教授者は其の成績によりて批評指導す。
- 二、局部要所等は前述の如き方便物の補助を借りて説明をなすと共に、又熟練なる教師模範を示して明瞭正確に新教材を會得せしむ。
- 三、模範とすべき手本を、各生、少くも二人に一個宛にて貸與し、技術の妙處を觀察了得せしめ、教授者の言外の技を味へしめ、以て新教材の修得に便にす。
- 四、一步一步に教授し、決して多事項を一時に授く可らず、而して一事項の教授終らば、關係ある他の事項と比較し、類似異同を辯せしめ、共通の點を總括

- し、要領を會得せしめて、後次の新事項に移るべし。
  - 五、技術の要領を會得し、製作の結果を豫想するを得ば、直に、實習に移るべし。
  - 六、實習中は、机間巡視をなし、誤謬又は不良の點を見出さば、個人若くは分團に、或は一般に向ひて、懇切に批評指示し、之を修正せしめ、猶一般兒童の困難とせる所は、更に説明示範をなす等、實習の効を完からしむべし。
  - 七、實習に次ぎて練習をなし、技術に熟し、同時に思想上の整理をもなすを得ば、次の段に進むべし。
  - 八、成績品に就きては、教授者の批評訂正は固より、或時は學習者に自批評訂正せしむべし。
- 要するに、教授は主觀客觀兩方面より進みて、其効果を擧げざる可からず。
- 此段階にて注意すべきことは、
- 一、教材の多きを貪り、或は講話に馳せ、實習・練習を怠るべからず。
  - 二、教材を精選し、教授者は熱心親切の態度を以て、正確に敏捷に教授すべし、彼茫然拱手して停立し或は有効ならざる机間巡視をなすが如きは、最戒むべきことなり。



三、教材の取扱は、分解・綜合の兩様を適用し、且時々問答を挿入し、教授に秩序活氣あらしむべし。

### 第三 整理

此段階は教授の終結にして、一旦授けたる事項の修得を一層確實にし、運用の素地を作るを以て目的とす、此段に於て行ふべきこと、次の如し。

一、發問課題等により、種々なる事項に就きて形を易へ、順序を變じて應用を試み、修得を確實にす、問題は教授者のみならず、學習者に作らしめ、之を全級の問題として課するも可なり。

二、教授せし事項の各部分につきて問答し、更に全體に纏めて復演せしめ、技術に關するものは、更に之を反覆練習をなさしむ。

三、成績に就きて批評訂正し、善良なるものは、獎勵の意味にて、或方法によりて、一般に表示するも可なり。

四、寸法・裁方等を個々に授けたるものを、類別して之を纏め、或は表に作らしめ、裁方圖・標附方圖等は、之を描かしめ、又は工夫せしむべし。

五、修得したる知識は、之を適當なる言語に發表せし

め、了得したる技能は、之を應用せしめて、實地活用の素地を作るべし。

此段に於て注意すべきことは、

一、要領を逸せざるやうにすべし。

二、教授者は熱誠を以てすべし、然らざれば、此段階の作用は、往々にして閑却せられ易きものなり。

三、此段階に屬する興味を惹起せんが爲、基本教授を粗末になすことある可からず。

以上三段階の仕事終らば、用具・用布・教具・教室内等の跡仕末をなさしめ、場合によりては、次の教材の豫告をもなすことあるべし、かくて一單元を學習せしむべき経路は終れるなり、故に教材單元の性質によりては、その幾部分を省略して差支なきは固よりなり。

### 三 教授の様式

教師と兒童と相對して、教授の作業を行ふ體裁を名けて、教授の方式といひ、之を略して教式といふ、教式は大凡左の六種に別たる。

(1) 示教式 實物・標本・圖畫、及び目前の實驗等に依り、生徒の直觀作用に訴へて、知能を修得せしむる方法を云ふ、此教式に於て注意すべき事項左の如し。



- 観察せしむる事物は、全生徒に明瞭に認めらるゝものならざるべからず。
- 観察せしむる事物は、生徒に對し、適當の位置に置かれざるべからず。
- 一時に數多の材料を提出すべからず。
- 一時には一事物を提出し、説明も教授に關係ある點に止め、岐路に涉るべからず。
- 十分に観察せしめ、事情の許す限り手に觸れしむるを必要とす。
- 観察の要點は、最後に問答して整頓すべしと雖、或場合に依つては、最初に指示することあるべし。
- (2)講話式 教師は、連續せる講話をなし、生徒は黙して之を聽く、即教師の説明に依り、生徒の經驗と想像とに訴へて知識を得しむる方法を講話式といふ、此教式に於て注意すべき事項左の如し。
- 音聲は濫に高きを要せずと雖、教室内に透徹せざるべからず。
- 説話は、事物を講話すると同時に、説話の方法を授くるものなりと思ひ、正確にして賤しからざる詞を用ふべし。
- 生徒の知識發達の程度に應じたる言語を使用すべ

- し、徒に高尚の詞を用ひて、難解に陥らしむべからず。
- 生徒の境遇に適したる引例をなすべし。
- 音調は、抑揚を巧にして、生徒の注意を惹くべし。
- 教師の態度は、姿勢を正しくし、眼睛は全級を見渡し、從容迫らざるを要す。
- 講話の段落は、豫注意して、長きに失せざる様にし、一事項を終る毎に問答して、更に次に移るべし。
- 教科書教案を教卓に置くは妨なしと雖、之に依頼して、教授の進度を阻害せざる様豫研究し置くべし。
- (3)示範式 教師模範を示し、生徒をして之を實驗せしむる方法にして、技術的作業には、最多く用ひらるゝものなり。
- 模範は完全ならざるべからず、故に教師は模範を示すべき事項に就き、十分熟知せし上、度々實驗して、間違なきものたるべし。
- 生徒のなし能ふ所を濫りに模範を示すことは、教授者の慎むべき所なり。
- 生徒をして、反覆練習して、模範に近づかしむべし。
- (4)發問式 教師の發問に依り、生徒の思考を促し、その應答間に、知識を修得せしむる方法なり、この教式に於て注意すべきこと左の如し。



- 生徒の了解すべき最簡明なる言語を以て發問すべし。
- 明瞭正確なる言語を以て知るを知るとし知らざるを知らずとして答へしむべし。
- 發問の意義は廣きに失すべからず。
- 生徒の答辯は問題外に渡らしむるべからずと雖、參考すべきことには耳を傾くべし。
- 時に發問の形式を變更して、單調ならしめざる様にするべし。單調は退屈を招くものなり。
- 先全體に向て發問し次に個人に指名すべし。然らざれば或部分の生徒は、無關係なる感を抱くことあるべし。
- 各生徒の學力を考へて、答辨せしむる問題を選び、然して後指名すべし。
- 誤れる答辯も、決して直に打消し或はその生徒をして、恥辱と思はしむることあるべからず、内氣なる生徒は、これが爲に畏縮することあるべし。
- 答辯は、正否にかゝはらず或る場合には全生徒に判斷を試みしむべし。
- 答辯の一部正しきときは、教師は更に方法を換へて發問をなし生徒自身に誤れる部分を訂正せしむべし。

- 總て答辯の正否に關せず、教師は時々反對の方より或は其理由等を問ひ試み正確なる修得と共に是を正しく發表せしむべし。
- (5) 對話式 殊更に發問せざるも教師と生徒或は生徒相互の間に談話を交はしその對話に依り知識を修得せしむる方法を、對話式といふ併して之に要する注意は、前節發問式に於て述べたるに同一なり。
- (6) 課題式 教師或問題を課して生徒に答案を作らしめ、之に依り新知識を授くるものにして、作文數學等は、最此の方法多しとす、その教式に對する注意左の如し。
  - 問題は、簡單明瞭なるべし。
  - 問題に用ふる文章は、生徒の力に應じ、平易なるを選ぶ可し。
  - 問題は、生徒の學力に適應したるものたるべし。
  - 問題には、一定の時間内に答案を作らしむべし。
  - 答案は、正否を檢し、誤れる所は、生徒に發見せしむる爲に、符號を附して返附すべし。
  - 答案中に於て、生徒自誤謬を發見する能はざるときは、全級の問題として判斷せしむべし。



○宿題を課するには、生徒の年齢・健康・家庭の状況・問題の性質に就き熟考して弊害なからしむべし、然らざれば、勞して効なきのみならず、或場合には却て生徒に不利益を來すことあるべし。

以上述べたる教式は、教授の實際に當りては、皆混合調和し用ふべきものにして、決して單獨に用ひらるゝものに非ず、例へば裁縫の標本を示すは、示教式なれども生徒に既得の知識を話さしめんとすれば、發問式を用ひざるを得ず、又標本に就きてその由來を説明すれば、講話式となるが如し、されども學科の種類・性質に依り、大體適否の定まれることは、認めざるべからず、即講話式は修身・歴史に適し、示教式は地理・理科に適し、示範式は裁縫・手工その他一般技術科に適するが如し。

#### 四 教授案

教授案とは、教材の單元を定め、その内容を精密に調査し、實際に教授するときの順序方法を豫定したるものをいふ。

教授案の目的三あり、一は調査したる教材の内容を立案したる方法を備忘として記録すること、二は受持教員以外の人にして、教授の内容及び歴史を知らんと

するものに示すこと、三は後日の参考に保有することなりとす、されば之が記載の體裁も一見して明瞭ならんことを勉め、秩序を立て項目を別つべし、教授案の記載に細案と略案とあり、細案とは細大漏さず教師と生徒と問答すべき言語迄も記載するものにして、略案は、要項を摘み、感ひ易き所に標本を立つるに止めたるなり、此二者中、何れを採るべきかは學校の性質・教師の能力如何にあることなれば、絶対に斷言する能はずと雖、豫輕重を定むる必要ありとす、教授の對象となる生徒の活動は、屢教師の意表に出て、教授の豫定をして齟齬せしむることあり、即發問に對する生徒の答辯意の如くならず、或は確かなる既有觀念と思ひしこと忘却せられ、不意の質問起りて、之を利用せざるべからざる等、會々教案を作るも、教師は遂に之を試むる能はずして止むことあるは、教授上屢々實際に遭遇する所なり、されば細案として言語・應答の末節まで詳記するも、勿論第一の目的たる教授の實際には寸効なく、第二の他に示すにも眞を穿たざる憾みあり、第三の参考としては、複雑に失するを免れず、必竟勞多くして効少きに終るべきなり、故に裁縫科教授に於ては、細案よりも略案を多く採用するを優れりとす、されども是に注意すべきは、



教授の経験淺きものは必細案により、教授術熟練するに至つて、略案によること便利にして、且正式なるを知らざるべからず、然してその何れにせよ、豫教材及び順序方法は詳細に研究し、教室に入りては、虚心冷靜にして、生徒の言語舉動に注視し、荷機の乗すべきあらば急速正確に教案を進行すべきなり、彼教壇に立ちて、俯して教授案を見、仰いで朗讀的に説明し、生徒の質問に遇うて、忽進退に窮するが如きは、多く経験なき初心の教師に於て見る所なり。

教案を記するには、大單元、小單元の別あり、大單元は題目を主とし、小單元は一時間の教材を主とす、然してその何れを用ふるかは、學校の種類と教科の性質とに依りて選擇すべきなり、例へば複式編制の學級に於ては、多く小單元を用ふるを可とす、如何となれば、教案に違算あること、單式のそれより甚しければ、毎時間に於て新に立案するを得策とするなり、之に反し、技藝科に屬するものは、大單元を用ふるも良し、何となれば、其教材の變動他教科の如く甚しからざるを以てなり、従て裁縫科に於ては、大單元を用ひらるべき場合多しとす、然れども事情若許すとすれば、小單元を用ふる方優れること明なるを以て、教授者は、執筆の勞を惜んで、不完全

なる教案を不問に附するが如きことあるべからず、教授案記載の項目は通常教材用具要旨方法備考の五項とし、用具の必要なき時は之を缺き、備考に記すべき事なければ、此項を省くものとす、各項の内容は左の如し。

- 一、教材 教授細目に掲げられたる教材を、單元として標題にす。
  - 二、用具 教授に要する教具即標本、圖書、實物等の名稱及び生徒の用意すべき用布、並に特別の裁縫具を記載す。
  - 三、要旨 其の教材に依り、豫定の時間に修得せしむべき技能及び之に關する知識を明に示す。
  - 四、方法 教授の段階を記す。
  - 五、備考 豫定の如く成功せしか否か、後日の参考となるべきことを掲ぐ。
- 右に附き教案例を示すべし。

その一

第何學年

第何學期何週

一、教材 素縫 豫定時數一時

二、教具 無地木綿並幅長き二尺五寸のもの



針一本、指貫一個、白木綿糸(以上各種教師生徒共用意すべし)

三要旨 運針の方法を授け、専ら之に習熟せしむ。

四、方法

#### 第一 豫備

- 用具を出して机上に整置すべきを命す。
- 前課に於て何を學びしかを問答す。
- 今日は直線縫を教ふることを告ぐ。
- 姿勢を正し心氣を落付けしむ。

#### 第二 提示

- 指環のはめ方、針の持ち方、用布の持ち方、運び方を説明し、模範を示す。

(イ)指貫は、右手中指の一二節の間にはめ、之を屈げて針頭を中央に据ゑ、拇指と食指との指頭にて、針の先を摘み、その他の二指を軽く握りて、拇指及び食指の屈伸を、自在になし得る様にす。

(ロ)布は左手に取り、右手の食指を布の裏に、拇指を表に當て、布と針とを一つに撮み、左手はその縫ふべき距離を度り、右手の如く二指にて布を取り、中指を裏に宛つ。

(ハ)右手の針を布の裏に刺すと同時に、左手を押

し上げ、左右を交互にして縫ひ、兩手相接するに至れば、右手にて能く糸をしごき、再前法を繰返す。

糸こきにつきて説明注意す

- 發問して、了解せしか否を試す。

#### 第三 實習

- 先各自の手指の運び方を試みしめ、次に素縫法をなさしむ。

此際、机間巡視をなし、個人及び一般につきて批正す。

- 號令に依り、一致の作業をなさしむ。

その二

#### 第何學年

#### 第何學期第何週

一、教材 袋縫 豫定時數二時間

二、用具 袋縫の標本、要所擴大圖、示範用布を備ふ、生徒には、各運針用布、針糸、指貫を用意せしむ。

三要旨 袋縫につきての技能を了得せしめ、之に習熟せしむ。

四、方法

#### 第一 豫備



○既習の合せ縫の方法を復習問答し袋縫を教ふべき事を告ぐ。

#### 第二 提示

- 袋の字義及び袋縫につきて説明す。
- 標本を配布し擴大圖を掲げ、對照せしむ。
- 先示範用布にて説明し、了得せば各自の用布につきて袋縫を實習せしむ。

但し縫代を一分三分とし、初中裏とすべきを注意す。

○實習中は机間巡視をなし、訂正指導す。

#### 第三 整理

- 袋縫と合せ縫との相違を問答す。
- 袋縫應用の箇所を教ふ。
- 用布の寸法を限りて糠袋を縫はしむ。

#### その三

第何學年

第何學期何週

一、教材 一ツ身單衣衿附け方

二、用具 一ツ身單衣標本 衿附け方標本圖解

三、要旨 衿附け方を實習せしめ、以て其技能に習熟せしむ。

#### 四、方法

##### 第一 豫備

- 用具の整頓
- 運針練習(三分間)
- 目的指示
- 既授衿附け方につきて問答す。

イ、衿の標      ロ、衿の衿附け標

##### 第二 提示

- 先實物を示し、襦袢の衿附と異なる點を指示して、衿附につきての正しき觀念を與ふ。

##### (一)待針打ち方説明

- 1、次の板書を示して、衿附の部分を知らしむ。
- 2、準備せる(衿白紙に朱にて衿附縫代を標したるもの)を此上に載せ、更に衿附の部分を明瞭ならしむ
- 3、本裁襦袢衿附け方に於ける、衿肩明の縫代は如何にせしかを、次の板書によりて復習問答す。
  - イ、一分縫込
  - ロ、二分五厘縫込
- 4、待針の打ち方は如何にすべきかを問ひ、準



備せる紙の衿を、前の圖解の上へのせ、衿先  
劍先の關係を知らしむ。

#### 5. 待針打ち方示範

- イ、衿の山標と身頃の背の中央
- ロ、衿肩明の所(衿を少しゆるめに)
- ハ、劍先
- ニ、衿下(衿丈の標をこゝに合す)
- ホ、劍先と衿下との間に二三本

#### (二) 實習

机間巡視 批正

#### (三) 衿附縫方説明

- イ、衿先の所は抄ひ留とし五針程返す。
- ロ、劍先の所にて針を真直に立て、一針返す。
- ハ、衿肩廻は細針に縫ふこと。

#### (四) 衿附縫方實習

机間巡視 個人及び一般訂正

#### 第三 整理

- 一、今日は如何なる縫ひ方を學びしか。
- 一、衿肩廻の所は如何せしか。
- 一、衿先劍先の縫ひ方は如何せしか。

一、成績につき批評

一、納具終了

#### その四

- 一、教材 四ツ身單衣裁ち方
- 二、用具 四ツ身單衣標本 裁ち方圖 實物分合標本
- 三、要旨 四ツ身單衣につき其裁ち方積り方及び實習の方法を授け之等に關する知識技能を了得せしむ。

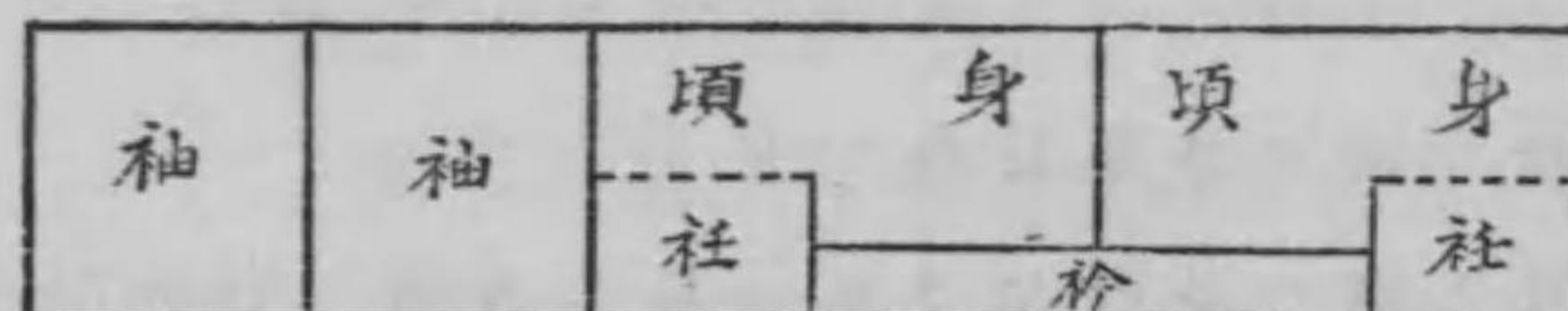
#### 四、方法

##### 第一 豫備

- 三ツ身の裁合せ方は如何にせしか。  
問答終りて一生をして裁ち方圖を板書せしむ。
- 三ツ身は總へて幾布よりなるか。
- 三ツ身より大なる中裁を何さいひしか。
- 四ツ身は如何に裁ち合すべきか
- 目的指示(板書)
- 第二 提示
- 裁ち切るべき布の關係を説明す。  
1, 四ツ身標本を出して各部分をよく觀察せし



め實物と、實物を分解したるもの(教授用合分標本)とを比較す。



2, 實物を分解したるものと、裁ち方圖との關係を知らしめ、再び總合して元の實物として觀念を正確明瞭にす。

3, 三ツ身と異なる所は何々なるか。

後身頃より衿をさるること。

前身頃に衿を附して裁ち切らぬこと。

4, 四ツ身は幾つの部分よりなるか

5, 裁ち切るべき箇所は何處なるか。

二、裁切り寸法を教授す。

1. 三ツ身の裁切り寸法を問答し、之れと比較しつゝ左の事項を授く。

四ツ身單衣裁切り寸法

一、用布並幅 一丈八尺

○袖丈 一尺五寸

○後幅 七寸

○衿幅 二寸

三、積り方算法を教授す。

1. 三ツ身積り方公式は如何にせしか。

(問答しつゝ教師公式を板書す)

2, 四ツ身は如何に積るべきか。

前の裁ち方圖より導く。

一、總丈を知つて袖丈を出すには

$$(180 - 30 \times 4) \div 4 = 15 \dots \dots \dots \text{袖丈}$$

二、總丈を知つて身丈を出すには

$$(180 - 15 \times 4) \div 4 = 30 \dots \dots \dots \text{身丈}$$

三、身丈と袖丈とを知つて總丈を出すには

$$15 \times 4 + 30 \times 4 = 180 \dots \dots \dots \text{總丈}$$

四、四ツ身積り方公式を問答教授す。

公 式

$$\text{袖丈} \times 4 + \text{身丈} \times 4 = \text{總丈}$$

$$(\text{總丈} - \text{袖丈} \times 4) \div 4 = \text{身丈}$$

$$(\text{總丈} - \text{身丈} \times 4) \div 4 = \text{袖丈}$$

五、實 習

布代用の紙にて裁ち切り方を實習す。

第三 整 理

○今日は如何なる裁ち方を學びしか。

○三ツ身裁ち方とは如何なる點が異なりしか。



○筆記の事項

裁ち方圖裁切り寸法積り方公式

○納具終了

備考

○整理の時應用問題を課し筆記を第二時の終りになすも可なり。

○本例は一題目につきて示せるものなれば各學年程度或は其教材によりて適宜時間の配當をなすものとす。

その五

- 一、教材 三ツ身單衣部分縫標附け方(袖)
- 二、用具 各部名稱圖 説明用布並に標附け方圖解
- 三、要旨 袂袖の標附け方順序方法を授け以て其技に習熟せしむ。

四、方法

第一 豫備

- 姿勢を正して用具及び用布の整頓をなさしむ。
- 運針(三分間)
- 各部の名稱圖を示し潤袖と異なる點を問答して袖の各部を明にす。
- 目的指示

第二 提示

一、布の置き方説明(並幅二尺五寸部分縫用布)

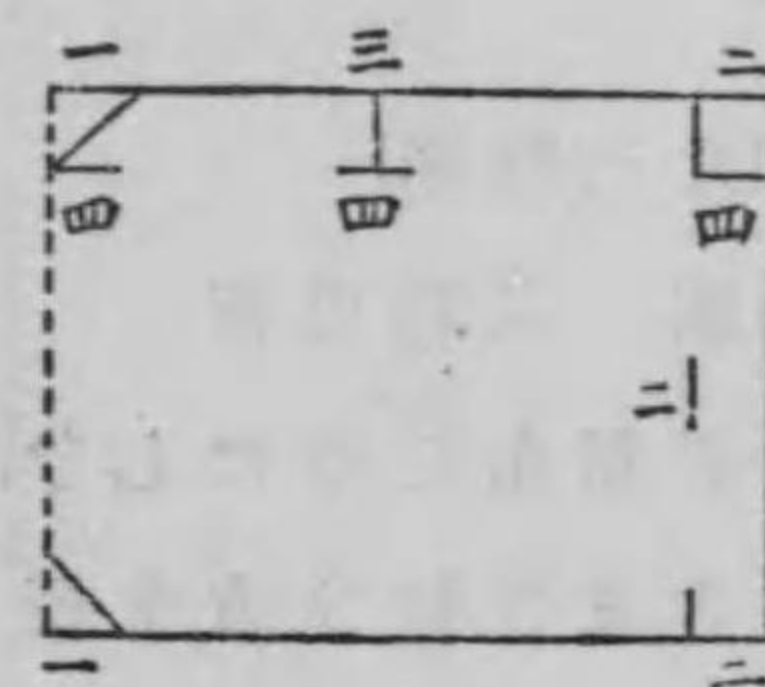
1. 標附をなすに潤袖の時如何に布をおきしか。  
表を中輪を左裁目を向ひ。

(圖解と對照しつゝ説明用布にて示例す)

2. 各自之に倣ひて用布をおかしむ。

二、標附の順序方法を如何にせば可なるか。

問答しつゝ左の寸法に假定して説明す。



1、標附の順序

- 一、山
- 二、袖丈 一ばい
- 三、袖口 四寸
- 四、袖口紵代 四分

2. 教師の模範に倣ひつゝ各自實習せしむ。

机間巡視個人及び一般訂正

3. 標附を終らば縫標をなさしむ。

注意

布の表裏を誤らぬこと。

筧を太く強くせぬこと。

縫標に留結をせぬこと。



## 第三 整理

- 今日は如何なることを学びしか。
- 布の置き方は如何にせしか。
- 標附の順序は如何せしか、何故に袖附の標をつけざるか。
- 納具結了。

## その六

## 第何學年

## 第何學期何週

- 一、教材 元祿袖標附及縫ひ方(凡三時間)
- 二、用具 元祿袖の標本 擴大圖 示範用布  
丸型 生徒には指定の用布を持たしむ。
- 三、要旨 單衣元祿袖の標附け方、及び縫ひ方を授けて其技に熟せしむ。

## 四、方法

## 第一 豫備

- 既習の袂袖につきて、手數及び標附の順序、縫ひ方等の順序方法を問答す。
- 標本觀察 表裏よりよく觀察せしめ、縫込の留丸味の襞等を、特に注意觀察せしむ。
- 目的指示 元祿袖の標附及び縫ひ方(板書)

## 第二 提示

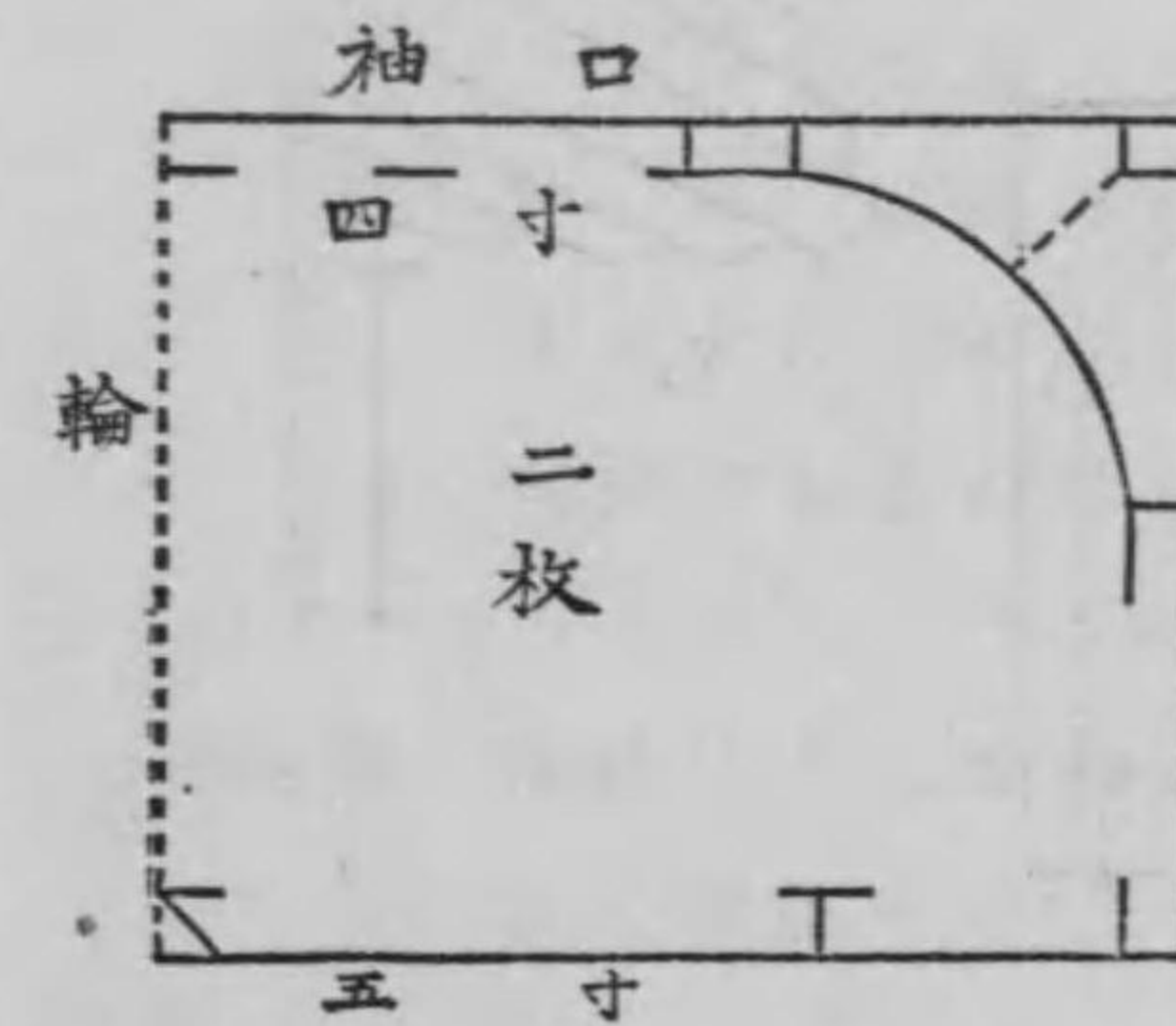
## (1)標附け方

## 説明及び實習

- 布の置き方、及び標附の順序方法を問答しつつ、これをなさしむ。

## ○標附順序

山丈口附幅及丸型の順序とす。



## ○寸法

袖口四寸 袖丈  
七寸五分 袖附  
五寸 袖八寸

## (2)縫ひ方

- 袖口の衽け方、袖下の縫ひ方を問答して、袋縫をな

さしむ。

- 袖下より袖口迄縫ひ行き、糸留を堅固にす、即一寸五分位耳の方へ縫ひ戻すこと、及び丸味の所は細針に縫ふこと、丸味の始終にて、必一針返し、稍糸を引き加減とすことを示範説明す。

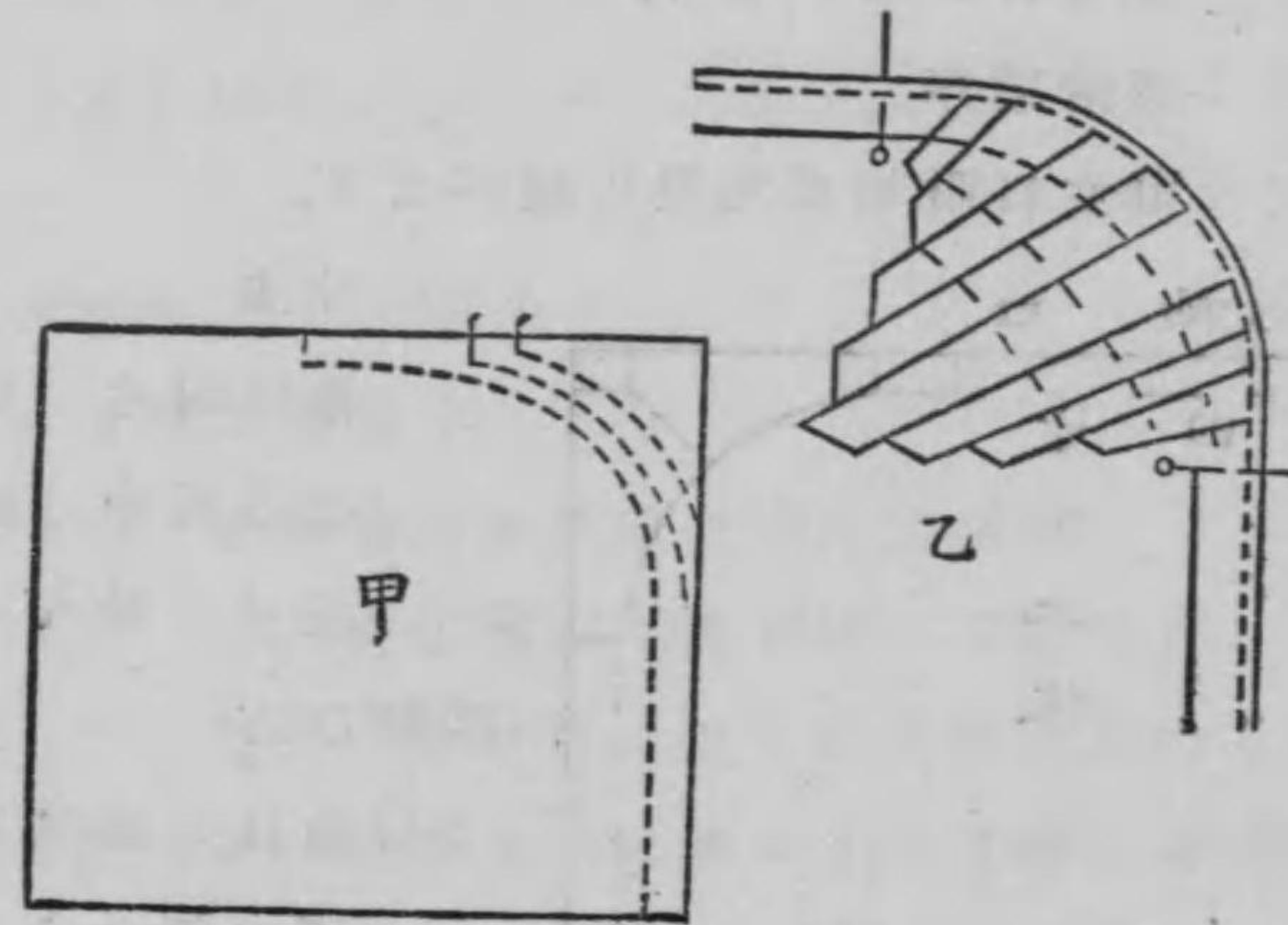


### 実習

#### ○襷取りの仕方

(イ)縫縮めの標の附け方(二通)

(ロ)袖下に折を附く。



(ハ)縫縮の襷を取る示範。

(ニ)実習 机間巡視

#### ○袖口衿

(イ)袖口衿につき問答 針目の大きさ,出し方等

(ロ)実習

#### 第三 整理

○成績の点検

○標附け方,縫ひ方順序方法を復演せしむ。

#### 備考

各項共既知の事項は復習問答しつゝ,之をなさしむ,時間不足せば整理事項を簡単にす。

#### その七

#### 第何學年

#### 第何學期第何週

一教材 一ツ身袷縫ひ方 豫定時數二時間

二用具 擴大圖 示範用布 縫方分解標本

仕立上げ標本 生徒には厚紙及び半幅五寸位の表裏の用布を持參せしむ。

(便宜部分縫用布も用ふるも可なり)

三要旨 袷縫ひ方に就きての技能を了得せしめ,其技に習熟せしむ。

#### (第一時)

#### 四方法

#### 第一 豫備

○目的指示 板書

○一ツ身袷身頃標附に於ける,布の置き方,及び順序等を問答す。

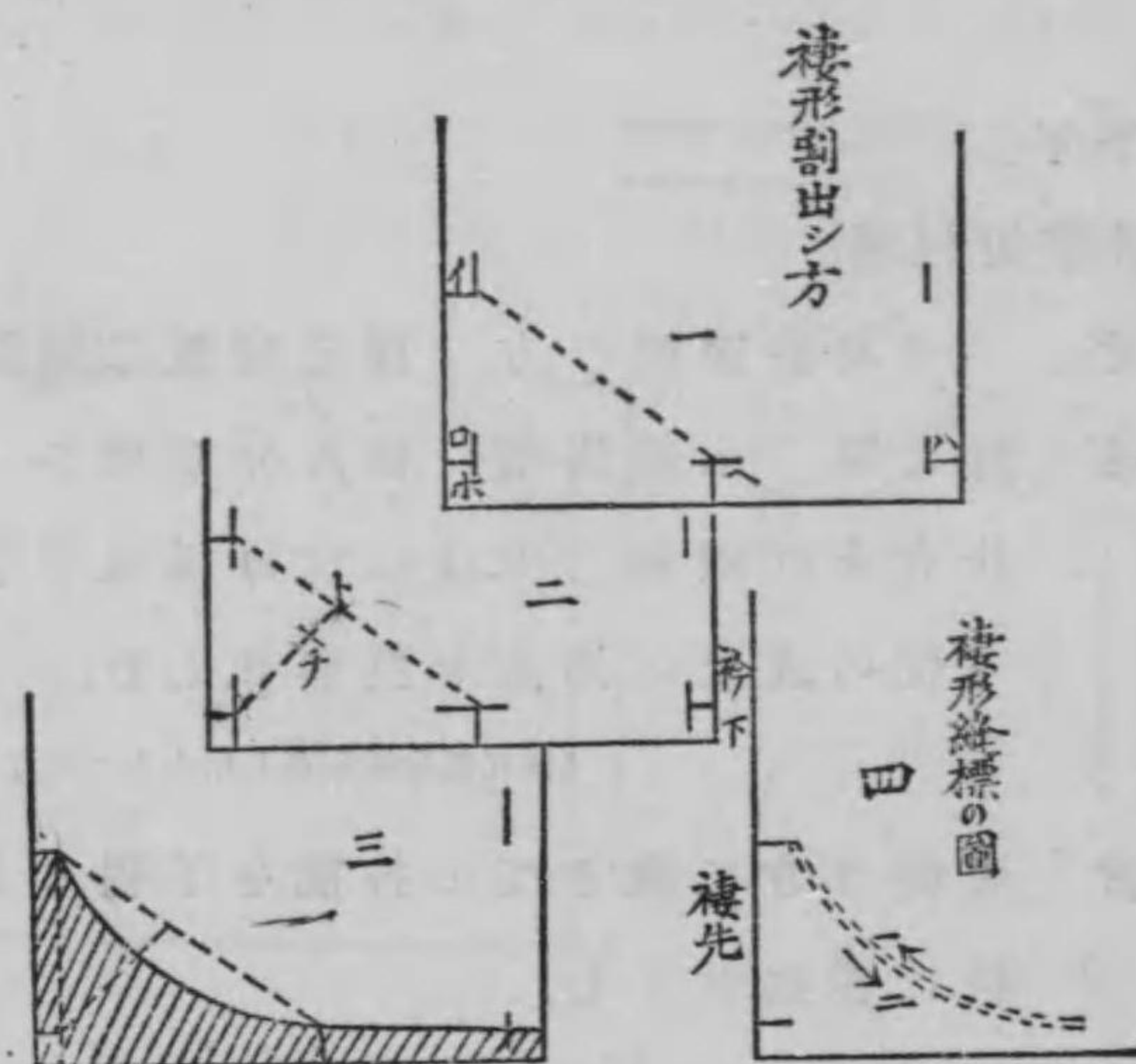
#### 第二 提示



(イ)説明

、裱形割出し方

○擴大圖を示して、次の如く説明し厚紙によりて  
實習せしむ。



○圖中(イ)(ロ)は身の二倍の長さ(ニ)(ホ)は衿下新代(ロ)  
(ハ)は衿幅なり、先(ホ)(ロ)の交叉點より、衿の三倍(ヘ)  
を標し、(イ)(ヘ)を繋ぐ、次に此斜線上に(ホ)(ロ)の交叉  
點より垂直線を引きて(ト)點とし此垂直線の長  
さの凡四分の一の所に(チ)を標し(第二圖(イ)(ニ)の  
點より此(チ)點を通して(ヘ)迄に曲線を描く、是れ

求むる所の裱形なり。

(ロ)實習

○各自厚紙にて寸法の裱形の割出しの圖を描か  
しめ、之を點檢して訂正す。

○訂正したる裱形を切り取らしむ。

第三 整理

○裱割出し方の筆記。

○身の寸法を變化して練習をなす。

(第二時)

裱縫ひ方部分練習。

○方法

第一 豫備

○既授の事項復習問答。

○標本の觀察

○用布を出さしめ、布を置き、自作りし裱形により  
て標附をなさしむ。

第二 提示

(イ)説明

示範用布擴大圖標本等を用ひて、次の説明をなし、  
然る後實習せしむ。

○實物縫の時、裏衿の裱形の縫標の端より、他方

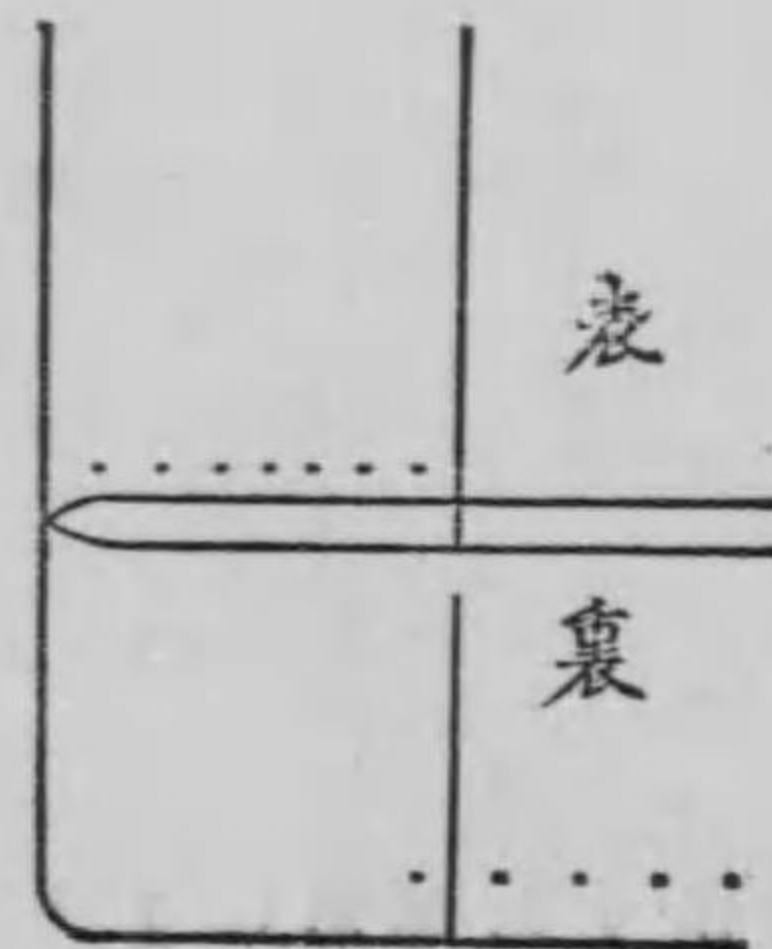


の同縫標の端迄縫ひ、兩端に糸四五寸を残し置く、縫目毎に一針返すこと。

○裱形の標に縫標(4圖)をなし、その糸を引きて皺をよせ、裱の形を造ること。

○裱先一二分の所には、決して皺をよせず、他の二分の一位の所に、多く集むること。

布の角を中心として、角の方に向つて、布を引き皺を伸すこと。



○縫標の直下に表の折目を合せ待針を近く三四本打つ、留は抄留とす。

○裱先より、三分手前より衿附迄六七分位に等分して、隠躰をなす。

○衿を出して假躰をなす。

#### (ロ) 實 習

○半幅五寸位の用布を以て(或は部分縫用布)部分の練習をなす。

机間巡視 一般及個人訂正

#### 第三 整理

○成績につき點檢をなし批正す。

○衿の寸法をかへて練習す。(宿題)

#### その八

#### 第何學年

#### 第何學期何週

一、教材 一つ身單衣縫ひ方積り方 (豫定時數二時間)

二、用具 實物及び分合標本總合圖

生徒には普通用具の外、筆記帳及び代用紙九尺を持參せしむ。

三、要旨 一つ身單衣の裁ち方積り方につきての知能を修得せしむ。

#### 四、方法

#### 第一時

#### 第一 豫 備

○單衣は如何なる部分より成るかを問答す。

○單衣の幅・丈・寸法等を問答す。

○目的指示

#### 第二 提 示

○一つ身單衣の實物を示す

○右各部分に付問答しつゝ寸法をはかる。

○一つ身單衣裁方綜合圖を掲げ、實物或は分合標



本に對照して各部の關係積り方を説明す。

(1)積り方

○常幅長さ九尺の布にて、裁切袖丈一尺三寸の一つ身單衣に付裁ち方積り方。

○問答しつつ、左の積り方計算を教授し、運用を試みたる後、公式を板書す。

$$\begin{array}{l} \text{袖丈} \quad \text{袖用布} \quad \text{總尺} \quad \text{袖用布} \quad \text{身用布} \\ 13 \times 4 = 52 \quad 90 - 52 = 38 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{身頃} \quad \text{衿下り} \quad \text{衿丈} \\ 38 \div 2 = 19 \quad 19 - 2 = 17 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{衿下} \quad \text{衿肩} \quad \text{衿先} \quad \text{衿丈} \\ 19 - 4.5 + 1 + 1.1 = 16.6 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} \text{衿用布} \quad \text{衿用布} \quad \text{身用布} \quad \text{總尺} \\ 16.6 \times 2 = 33.2 \quad 52 + 38 = 90 \end{array}$$

○右を總合圖に照して反問し、了解するを待ちて筆記せしむ。

應用問題

○用布九尺にて一つ身單衣を裁つに、袖丈一尺一寸五分させば、身丈何程なるか。

|   |   |     |     |     |
|---|---|-----|-----|-----|
| 袖 | 袖 | 後身頃 | 衿肩明 | 前身頃 |
| 社 | 社 |     |     |     |

○幅一尺の用布を以て袖丈一尺三寸身丈二尺四

寸裁切りの、一つ身を作らんさせば、總用布何程を要するか。

第三 整理

筆記の事項

公 式

$$\text{袖丈} \times 4 = \text{袖用布}$$

$$\text{總用布} - \text{袖用布} = \text{身用布}$$

$$\text{身用布} \div 2 = \text{身丈}$$

$$\text{身丈} - \text{衿下り} = \text{衿丈}$$

$$\text{身丈} - \text{衿下} + \text{衿肩明} + \text{衿丈} = \text{衿丈}$$

$$\text{衿丈} \times 2 = \text{衿用布}$$

$$\text{袖用布} + \text{身用布} = \text{總用布}$$

第二時

(2)裁ち方實習

○積り方に付問答す。

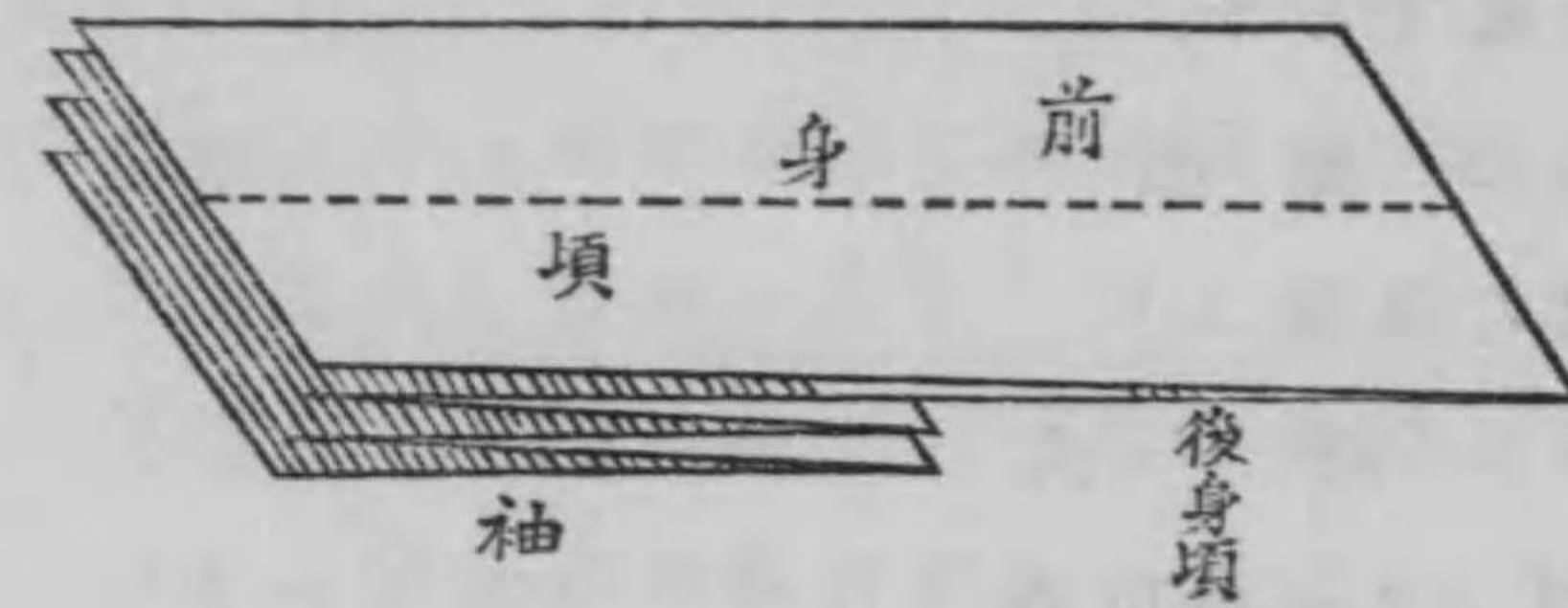
○裁ち切る可き順序方法を問答教授す。

○代用布(半紙)を用ひて、左の寸法により、先折り疊ましむ。

○裁切寸法。



袖丈 一尺三寸 身丈 二尺



- 圖の如く折り方を教へ、裁ち切順序を示す。
- 實習せしめ、机間巡視をなし、過誤なきか否を確む。

- 裁ち切らしめ、布の整理を命ず。

#### 實物裁ち方

- 普通仕上げ寸法を授く。
- 各自の寸法にて折り疊ましむ、過誤なきか否かを確めたる後、裁ち切らしむ。
- 裁断せし布の數を調べ、且整理せしむ。
- 納具終了

#### 備考

- 若し時間不足せば、代用布の練習に留め、二種を裁たしむ。
- 裁ち方に先ちて、織斑・染斑・耳の伸縮等を注意すべきこと、及び裁ち誤りの損失大なるを知らし

め、綿密細心にし、然る後敏活に裁断すべきことを説く。

#### その九

#### 第何學年

#### 第何學期第何週

一、教材 木綿物の洗濯 豫定時數二時間

二、用具 鹽・刷毛・洗濯板・石鹼・洗濯曹達・物干竿・木綿着物等

三、要旨 洗濯の方法を教へ、且之を實習せしめ、清潔の習慣を得しむ。

#### 四、方法

#### 第一 豫備

- 手拭の染まる水は、如何なる水かを問ふ。
- 水のみにて洗ふと、石鹼を交へて洗ふと、何れが清潔になるか、洗濯に就き經驗せしことを語らしむ。
- 天氣と洗濯との關係を問答す。

#### 第二 提示

- 洗濯には水と石鹼か曹達か灰汁を要すること、天氣に注意するの緊要なるを説く。
- 強く揉むこと、強く絞ることは宜しからず。
- 洗濯前、日水若くは微温湯に、七八時間浸して、後洗



ふを良しとす、手にて揉むか刷毛を用ふるかは隨意とす。

- 色物には、特別の注意を要す。
- 最後には、清水にて、石鹼等の全く残らぬ様に洗ひ去るべし。
- 干して乾かば、直に取入るべし。
- 晴天の時は全く乾かぬ中に取入れて、皺を伸して蔭干にすべし。

### 第三 實 習

- 教師先模範を示す。
- 實習せしむ。
- 巡視して批評指導す。

## 五 裁縫の基本とその教法

裁縫の基礎となるべき技術は、運針及び各種縫方接方、襷掛方糸の留方結方等なれども、就中運針を以て第一の基本とせざる可からず、されば運針教授は、やがて裁縫教授の基本として、最大切なるものなり。

### 第一 運 針

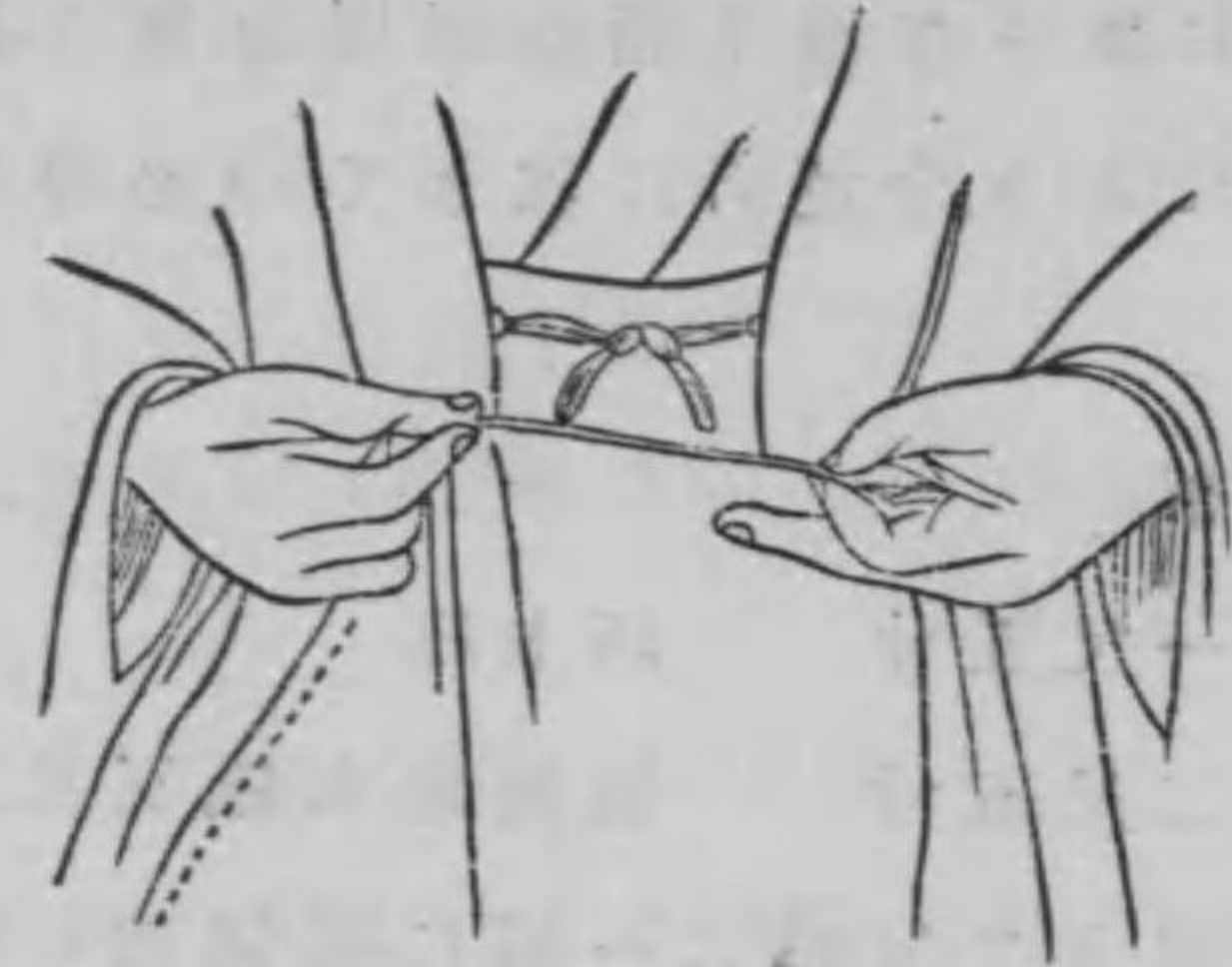
運針とは、針の運用の義にして、普通一定の運針用布を

用ひて、串縫に依りて専手指の運用を練り、裁縫技能の基本を造るにあり、今運針に就きての必要條件を左に擧ぐべし。

#### (1) 運針用布

- 並幅一尺五寸 晒木綿
  - 並幅二尺五寸 縞無地木綿又は三河木綿
- 地方によりては特に一幅に縞無地の針通りよき布を織りて運針用布として使用せるもあり、縞あるものは縞目に依りて細心に針目正しく運針せしめ、無地のものは針目に拘泥せず、大膽に運針して、眼と手指と、針運びとを練習せんが爲に外ならず、而して用布の丈は、二尺五寸を普通とすれども、初歩に於ては、一尺五寸位を適當とす、又三河木綿は地質硬きものなれば一枚より二枚と重ねたる時は、針通り稍困難なれば、之を運針せんには、次の如き運針の姿勢を保ち、力を入れて爲さる可からず、故に此布にて練習する時は運針に熟達せしむるを得べしとて、近來此地質を併用すること多し、又必要に應じては、便宜絹布を用ひてなさしむことあり。



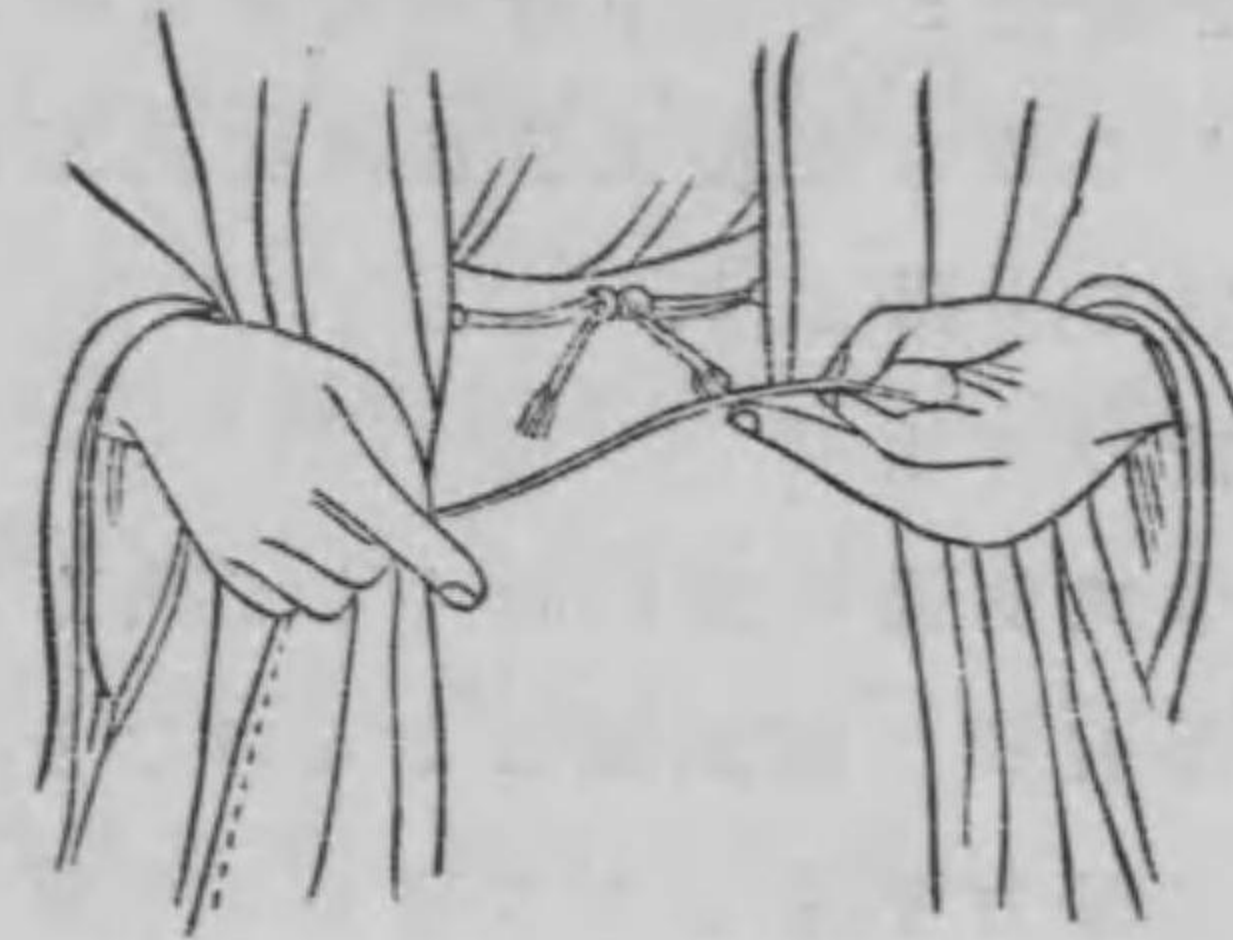


## (2) 運針の姿勢

- 一、下腹部に力を入れ、上體を真直に頭を少しく垂る。
- 二、左右の腕を稍張り兩手の距離七八寸(初歩五六寸)
- 三、布の高さ眼先八九寸胸の向

## (3) 用布の持ち方

- 一、右手の拇指食指にて布を摘み、針先をあしらひ、他の三指を屈し、針頭を用布の裏より、中指の指貫に當て、布と共に持つ。
- 二、左手は、食指と拇指にて堅く布を摘み、中指を伸し他の二指を屈し、右手と相對し、一直線にして十分に布を引張り、前の姿勢をこり、交互に臂



の所より動かして運針す。(中指を伸さずして運針せしむるもあり、要は運針の技に利便なるにあり)。

- 三、針と用布との把持、並に兩手の運動は、緊寛宜しきを得て、運針の成績に生氣ある様指導し、且漸次自得せしめざる可からず。

## (3) 運針の種類

素縫本縫の二種あり、素縫とは四五寸の糸を針に通し、之を二重とし、結留なくして串縫をなすもの、本縫とは用布と略同長の縫糸を針に通して、串縫をなすものをいふ、素縫は主として手指の運用を練り、本縫の準備をなすにあり、されば針目の正否よりは、寧大膽自在に運針せしむるにあり、本縫と



は素縫を基礎として、手指の運用は固より進みて針目正しく、然も表裏揃ひ、且漸次迅速に運針せしむるを以て、主眼とす。

#### (4) 運針教授の方法

運針は單純簡易の技の如くして、然も其初步に於て、教授學習共に頗困難なるものなり、されば之が指導には、最力を用ひざる可からず、猶上達の後と雖常に此練習を怠らず、縫方と共に進ましむべきなり。

一、先針の持ち方、運び方、用布の持ち方を授け、之を練習す。

二、正しき姿勢、調息の許に用布を持ち、運針せしむ。

三、初素縫法より、本縫法に進み、先直線縫を練習し、稍熟したらば、直斜線の結合縫をなさしむ。

四、運針に於ては、整姿調息の許に、左右の手指に力を入れて、之を動かし、用布の引方の緩急程よくし、針目正しく、針を一直線上に進むることを大切とす、然れども、始めより之を望むは不可能なれば、先縞用布の縞目を針道として練習し、稍熟したらば、無地用布により、左右の手の布の引工命によりて、自然に針道を想定せしめ、之に沿ひて運針練習を進

ましむ、而して練習進み、運針上達せば、針道の方向正しく、各針目も亂れず、表裏共正しく、生氣ある運針成績をなさしむべし。

五、縫込の深淺用布の大小品質枚數等も運針の成績に關係あるを以て、始めは縫込を二分五厘より三分位とし、所定の用布を以て一枚より二枚と、漸次五六枚迄増加し、時々之を増減して練習すべし、縫込も之と同様たるべし。

六、運針の必要を自覺せしめ、努力と練習とより湧き出る永久の興味を起さしむる様に指導すべし、然も、最初は手指の運用頗拙なるが故に、手を執りて導き、或は拍子號令競争應用等により、又は自自己の成績を訂正し、前時間の成績と比較せしめ、一定の時間なし終らば、眞尺數と時間數とを記録せしめ、大凡一週間位毎に、教師之を檢閲し、延尺數と一分間の平均尺を出さしめ、之を記憶せしむる等種々工夫して運針の成績を上ぐる事に努むべし、方眼紙上に表示せしむるも亦一法たるべし、説明指導を助けん爲には、圖解標本示範等も必要なる事なり。

七、運針練習の時間は、裁縫時間の初めに於て、毎回三



分より五分位とし、高學年迄引續きて課せしむべし、尙運針上達せば、便宜一回六十分以内位を度として課するも妨げなし、但し制限なく課するは、却て成績を悪しくする恐あり。

八運針用針に就きて左の注意を與ふべし。

- 長針を使用せしめぬこと。
- 必指貫を使用せしむべきこと。
- 針尖の折れ、又は曲り、或は錆びたるは使用せしめざること。
- 針の危険なることを教へ、授業の始終に於て、必針調をなさしめ、廢針は適當に處理せしむべきこと。

九待針は、必打たしむべし、糸扱きは、初は左手にて針を持ちてなさしむべきも、成る可く早く右手にてなさしめんことを要す。

十運針は、手指の運用を主とし、漸次針目正しく且迅速に習得せしめ、總てに於て、衣服縫方の準備たらしめん事に着眼指導すべし。

運針實習中は、机間巡視をなし、個人に就きて熱心懇切に指導批評し、一步より一步と進捗せしむべし。

## 第二 各種縫方及紵方

衣服製作の時間に節約を加へんが爲には、衣服製作の基礎たる各種縫方及び紵方を練習せざる可からず、殊に紵方は運針に次ぎて最必要なり、何となれば、普通衣類中、串縫の部分約半分、紵方はその三分一強に相當せり、然らば運針に費す時數の三分一を費して至當とすべきなり、此練習を等閑に附せし傾ありしは、裁縫教授上の一缺點たりしなり、今其教授法に於ける要件を擧ぐべし。

- 運針用布を使用して、各種基礎の縫方及び各種紵方等を練習すべし。
- 先是等基礎の縫方應用の箇所を知らしめ、其教授には擴大圖・示範用布・製作標本(出來上り)、及び分解標本(手本として各生に貸附すべきもの)等を用意し、之を利用して、教授を徹底的に、學習を便ならしめ、修得を確實に、應用を自在ならしめんことに努むべし。
- 紵方教授上、注意すべき件を左に記すべし。
  - (イ)布の表裏を調べ、紵代を示し、初に尺度に依らしむべきも、漸次目測練習とし、全體終りて尺度に



て測り、正否を調査せしむ。

(ロ) 紵代は先耳紵三分三つ折五分を二つ折、本紵は三分宛として、練習も漸次紵代を増してなさしむべし。

(ハ) 必紵紐を用ひ待針をなし、布の緩急を調べ、折目の稍内側に針を抜き、流れ針を出さず、表に極細針に出すこと、布を逆に持たず、紵糸の引方の緩急等豫よく研究し、一般の認めて可とするもの、又特に其學校其地方等に於て、研究中の方法等、参考熟慮して指導すべし、但し餘り應用の少き方法は、小學校教育に於ては避くるを穩當とす。

(ニ) 針は紵針と縫針との、何れか一を専用する人あれども、普通には紵針を用ふ、衣服の部分によりて必要を異にすべければ、普通教育に於ては、初紵糸の長及び針目の長短を(耳紵五分より七八分、本紵三分二分位定め置き、漸次變更して練習するを可とす、紵糸の引方、針の抜き方、針目の整美等に、注意せしむべし。

(ホ) 總て技能は、先其要領を了得せしめ、標準を教へ置き、自其結果に到着せんと努力せしめ、つゝ練習を怠らざるを肝要とす。

### 備考

普通衣類に用ふる各種縫方の長さ。

二十四種の普通衣類に就て、各種の縫方を別に調べたるに次の表の如し、これに依つても、運針練習と紵方の必要なるを知るを得べきなり、即運針練習の三分の一は、紵方の練習に要す可きなり。

(注意) 表中の數字は、大人並の寸法によつて調べたるものなり。

|         | 串     | 紵     |       | 綫     | 袷    | 其他      | 總計 |
|---------|-------|-------|-------|-------|------|---------|----|
|         |       | 耳・三・本 | 寸     |       |      |         |    |
| 本裁男單衣   | 386.9 | 367.8 | 71.9  | —     | 42.5 | 869.1   |    |
| 本裁男物袷   | 636.6 | 87.0  | 205.0 | 205.0 | —    | 1,133.6 |    |
| 本裁男袷道行  | 413.9 | 27.0  | 611.1 | 105.2 | —    | 1,157.2 |    |
| 男口綿入    | 622.0 | 120.6 | 298.4 | 149.6 | —    | 1,190.6 |    |
| 本裁男綿入   | 722.5 | 154.5 | 203.5 | 314.0 | —    | 1,394.5 |    |
| 男物半胴着   | 444.3 | 137.6 | 191.4 | 116.0 | —    | 889.3   |    |
| 男袷羽織    | 332.9 | 16.0  | 5.0   | 22.62 | —    | 580.1   |    |
| 本裁男單羽織  | 379.0 | 218.9 | —     | 142.0 | —    | 739.9   |    |
| 本裁男綿入羽織 | 489.2 | 92.0  | 94.8  | 217.8 | —    | 893.8   |    |
| 本裁女單衣   | 367.0 | 479.2 | 76.1  | —     | 40.0 | 968.3   |    |
| 本裁女袷    | 610.3 | 84.0  | 240.6 | 150.0 | —    | 1,084.9 |    |



|         |          |          |         |         |       |          |
|---------|----------|----------|---------|---------|-------|----------|
| 本裁女裕長襦袢 | 482.7    | 122.9    | 178.1   | 216.2   | —     | 999.9    |
| 女單衣長襦袢  | 364.8    | 369.6    | —       | 25.0    | —     | 759.4    |
| 女物長胴着   | 575.7    | 369.6    | 190.2   | 25.0    | —     | 1,160.5  |
| 女單合羽    | 360.8    | 376.9    | —       | 61.4    | 38.0  | 837.1    |
| 本裁綿入被布  | 528.6    | 83.0     | 222.3   | 183.6   | —     | 1,017.5  |
| 本裁女口綿入  | 658.1    | 108.5    | 258.1   | 293.8   | —     | 1,318.5  |
| 本裁女綿入   | 733.2    | 147.9    | 211.5   | 278.5   | —     | 1,371.1  |
| 本裁女綿入道行 | 539.6    | 92.8     | 183.4   | 183.2   | —     | 999.0    |
| 女單衣羽織   | 268.1    | 326.2    | 18.3    | 126.2   | —     | 738.8    |
| 本裁女綿入羽織 | 534.2    | 80.8     | 104.0   | 242.8   | —     | 961.8    |
| 本裁女裕羽織  | 459.5    | 13.0     | 10.0    | 194.6   | —     | 677.1    |
| 十番馬乗袴   | 211.2    | 256.6    | 20.8    | 24.7    | 13.7  | 527.0    |
| 本裁女襦ナシ袴 | 100.6    | 245.0    | 38.0    | 220.0   | 10.0  | 619.6    |
| 合計      | 11,221.7 | 4,357.4  | 3,436.1 | 3,700.8 | 156.7 | 22,878.6 |
| 比較      | 11,221.7 | 11,651.0 |         |         |       |          |

### ✓ 第三 裁方教授

裁方とは、衣類使用者の年齢・体格・趣味・用途等に應じ、布帛の購入・選定をなし、染斑・織斑等の検査より、地伸・耳伸・見積・裁合・利用方等に至る作業をいひ、縫方と相俟ちて、

衣服を製作すべきものなり。

裁方の作業を完うせんには、思考推理は固より、直観・想像・美観等の、心的作用の補助と、技能の習練とに依らざる可からず、且裁方は、實際の生活上、各階級を通じて、最必要なる技なるが故に、基本衣類の縫方よりは、範圍廣く教へ且應用練習を多くし置くこと肝要なり。

#### (1) 教授の順序方法

一、先裁たしむべき衣服に就きて、普通用布の丈並に裁切り寸法を授く。

二、裁方分解總合圖を示して、實物と對照し各部分の關係、裁ち切る可き箇所を十分理解せしむ。

此際實物を分解して示すか、又は特に工夫考案せる説明用標本を用ひ、猶擴大圖等の教具を利用するを便す。

三、實物との關係を了解せば、演繹歸納兩法により、積方算式を授け、其運用をも試み、之を公式に導きて十分練習すべし。

四、計算終らば先代用布にて、計り方・折り方を教授し、了解せしめたる後に、裁切らしむ。

五、かくて十分理解せば、實物に就きて總尺を計らしめ、所要寸法によりて積り、布を折らしめ、誤りなき



か否かを調べ、後袂を入れて裁たしむ。

六裁ち終らば、布片を調べ、之を整理す。

七積方公式及び裁方圖は、之を筆記せしむ。

#### (2) 教授上の注意

一、裁方教授を有効ならしめんが爲他學科特に數學及び圖畫科との相互の連絡を十分にすべし。

裁方は理解工夫を主とするが故に數の能力を要す、衣服の形狀寸法を基礎として、各部布片の關係を明瞭に了解せしめ、又實物裁方の機會は成るべく之を多くして教授の徹底を計るべきなり。

二、布帛整理の練習に注意すべし。

布帛整理は、裁縫の準備作業として必要の事なり、即品質の種別良否の鑑定・染斑・織傷・耳の伸縮等の處置を教へ、汚點・抜湯・伸縮補綴等を要するものは、豫之が整理をなし置く可きことを教へ、便宜實物にて練習教授すべし。

三、布帛の計り方を練習すべし。

高學年に進みて、尙尺度を正しく使用し得ざるものありといへり、これ初步教授に於て、用具の使用方を不完全にせし結果なり、故に先尺度・鉄の使用方、布の張り・工合、及び臺上の計り方等、裁方の技術

的方面の練習に努め、誤差の多からざるやう、反覆練習し、迅速且正確ならしめんことを要す。

四、圖解・標本を利用すべし。

分解總合圖・分合標本・圖解カード等を用ひ、實物との關係各部相互の關係等を色別にて示すが如き、専衣服に對する理解を、十分に教授せんことを要す。

五、積方計算には分解總合兩式によりて練習し、算式應用問題等を時々兒童生徒に案出せしむるも可なり。

仕立上げ寸法は之を確實に記憶せしめんことを要す。

六、積方公式・裁方圖は、之を筆記せしむべし。

七、裁方用掛圖は縦横の割合を成る可く適切に且鮮明になすべし。

### 第四 縫方教授

縫方とは裁方に依りて切斷せられたる布帛を縫合せて種々の衣服を仕立つる技術をいふ。

#### (1) 教授の順序方法



縫方教授にては、先部分縫によりて要所を練習し次に寸法標附方縫方順序等を詳しく説明し十分了得せしめ、然る後實物につき標附をなさしめ、實習に移るべし、實習中は机間巡視をなし、誤謬の點を訂正し、拙劣を改めしむる等個人及び一般に就きて懇切に教授すべし、此場合圖解・標本・擴大圖・實物等を利用して、理解及實習に便にすべし。

(2) 仕立上げ寸法

仕立上げ寸法は、各自の體格に應じて、斟酌工夫を要すべきものなれば、教授の實際に於ては、一定せざるを普通とす、されば各教材につきて、先標準寸法を授け、之を筆記せしめ、或は表に作らしめ置くべし。

今標準寸法と思はるゝものを次に掲ぐ。

一、一つ身單衣寸法(濶袖)

|          |        |
|----------|--------|
| 袖丈九寸五分位  | 袖幅四寸五分 |
| 幅附四寸     | 身丈二尺位  |
| 身八つ口二寸五分 | 後幅いつばい |
| 衽下り二寸    | 前幅いつばい |
| 衿下四寸五分   | 衽幅いつばい |
| 合袂幅衽幅に同じ | 衿幅九分   |

附紐六寸五分(肩より)

筒袖寸法

|        |             |
|--------|-------------|
| 袖丈五寸五分 | 袖口三寸        |
| 袖附四寸   | 袖幅四寸八分—五寸五分 |

元祿袖寸法

|        |        |
|--------|--------|
| 袖丈六寸五分 | 袖口三寸五分 |
| 袖附四寸五分 | 袖幅五寸五分 |

袂丸 丈二寸五分  
幅三寸

二、三つ身單衣寸法

|          |         |
|----------|---------|
| 幅丈一尺三四寸  | 袖附四寸    |
| 袖口四寸     | 身丈二尺七寸  |
| 身八つ口二寸五分 | 衿肩明一寸三分 |
| 後幅いつばい   | 衽下り三寸   |
| 前幅いつばい   | 衿下七寸    |
| 衽幅いつばい   | 合袂幅いつばい |
| 衿幅一寸     | 紐附六寸五分  |

筒袖寸法

|         |         |
|---------|---------|
| 袖丈六寸    | 袖口三寸五分  |
| 袖附四寸五分位 | 袖幅六寸五分位 |

元祿袖寸法

|           |        |
|-----------|--------|
| 袖丈七寸—七寸五分 | 袖口三寸八分 |
|-----------|--------|



袖附四寸五分 袖幅六寸五分

袂丸 (丈三寸  
幅三寸五分)

三、四つ身單衣仕立上げ寸法

|          |               |
|----------|---------------|
| 袖丈一尺四寸五分 | 袖口五寸          |
| 袖附五寸     | 身丈いつばい        |
| 身八つ口二寸五分 | 衿肩明一寸八分       |
| 後幅いつばい   | 衿下り三寸五分       |
| 前幅いつばい   | 衿下一尺          |
| 衿幅いつばい   | 合袂幅(衿幅より一分狭く) |
| 衿幅一寸二分   | 紐附七寸五分        |

筒袖寸法

|        |      |
|--------|------|
| 袖丈七寸   | 袖口四寸 |
| 袖附五寸五分 | 袖幅八寸 |

元祿袖寸法

|           |          |
|-----------|----------|
| 袖丈八寸一八寸五分 | 袖口四寸     |
| 袖附四寸五分    | 袖幅七寸五分内外 |

袖丸 (丈三寸五分  
幅四寸)

四、本裁女物單衣普通仕立上げ寸法

|        |           |
|--------|-----------|
| 袖丈一尺五寸 | 袖口六寸一六寸五分 |
| 袖幅八寸   | 袖附六寸一六寸五分 |
| 身丈四尺   | 後幅七寸五分    |

前幅六寸 衿下り六寸

抱幅五寸五分 合袂幅三寸五分

衿幅四寸 衿下二尺

衿幅三寸 衿肩二寸五分

身八つ口三寸 衿一尺六寸五分

五、本裁男物單衣普通仕立上げ寸法

袖丈一尺四寸 袖口七寸五分一八寸

袖幅八寸五分 袖附一尺二寸(人形二寸)

身丈三尺七寸 腰揚 (後、袖附より二寸下る  
前後より一寸下る)

後幅八寸 前幅七寸

衿下り五寸一五分 衿下一尺八寸

衿幅四寸一二分 合袂幅三寸五分

衿幅一寸五分 衿一尺七寸五分

衿肩二寸三分

六、本裁女物羽織普通仕立上げ寸法

袖丈着物より二分長く 袖口着物と同寸

袖幅着物と同寸 袖附着物より一、二分多くす

身丈二尺五六寸 後幅着物と同寸

前幅四寸七分一五寸 前下り一寸

紐附八寸五分一九寸 衿幅一寸七分

衿明 (一寸八分、二寸二分  
廻し四分) 身八つ口三寸



襦幅上五分、下一寸七分

七本裁男物普通羽織仕立上げ寸法

|            |             |
|------------|-------------|
| 袖丈着物と同寸    | 袖口着物と同寸     |
| 袖幅着物と同寸    | 袖附着物より一分多くす |
| 身丈二尺七寸     | 後幅着物と同寸     |
| 前幅五寸二分     | 前下り一寸       |
| 紐附七寸五分—八寸  | 衿幅一寸八分—二寸   |
| 衿明二寸三分廻し六分 | 身八つ口三寸      |
| 襦幅一寸八分—二寸  |             |

以下略す

### 3. 標附方

標附は縫方に入る始めにて之を標的として衣類を仕立つるが故に、厘毛の差も遂に全體に影響あるものなれば、豫標附の各部の位置方法を十分了得せしめ、然る後代用布、又實習用布にて練習すべしかくしては時間を多く費すが如きも、一度その技を修得せしめ置かば却て裁縫時間も節約し得らるべきなり。

標附をなすに全體一度に総合的になすものと各主要なる部分にのみ標し、他は縫ひながら標し行くものあり。

甲の方法は、錯誤少なく、時間をも節約し又全體の各部

分の關係も分り、よく理解し得れども、長き間には消失する恐れあり、乙は部分的になすが故に、全體の關係を理解するに不便なるを、布帛の取扱に慣れ、技術も稍進み居らざれば、錯誤を生じ易き恐れある故に、主要なる部分に、糸標をなし置き、消失し易き箇所は、縫ひながら其都度標をなさしめ、練習の際は全體一度になさしめて、十分に理解し且技術に習熟せしむべし。

標附には、標附の順序・方法・用布の置き方・重ね方・揃へ方・伸縮の仕方・針の打ち方・籠の持ち方等につき、研究教授すべし、今教授上注意すべき要件を左に掲ぐべし。

教授上の注意

○標附順序を、大凡次の如くすべし。

山 丈 袖口 袖附 袖幅

○籠の合ふ所は、丁字形又は直角に標をなす、其長さを三分内外とし、距離を大凡四寸内外とし、通し籠散し籠共に、線は真直になすべし。

○尤も消失の恐れある所は、糸標をなさしめ置くべし、之をなす時は、元標の真中を縫ふべきなり。

○籠は、角籠・車籠・焼籠の三種あり、通常角籠を用ふ、尖端稍鈍く、圓みて齒の餘り厚からず、形正しきを可とす。



## ○ 笥の持ち方

握りて持つこと及び執筆の如く、笥を拇指食指中指の三指にて持つこと、又笥の柄を掌中に握り込み、拇指食指中指の三指にて持ち、食指を伸ばして柄に添ふ、この三種あり。

○ 運針用布、又は實習用布等にて標附の技を練習すべし、笥の使ひ方は、力の入れ工合、體の構へ整姿調息等に注意指導すべし。

○ 用布の整理に注意せしめ、手腕を敏捷に、指頭を微妙に使ひ迅速にして、而も精巧になすことを要す。

○ 尺度は、標附の標準線を作るものなれば、計り方當て方等は、手附自然にして、尺度の使用に便利なるを可とし、尺度は布と常に平行が垂直になる可きを以て標附の箇所によりては、不便多く、従て精確を缺く、されば布の上端右端・下端左端等の位置によりて、尺度の當て方を工夫すべし、又布の耳は、伸縮あれば、丈標は中央を基準とすべし。

○ 標附終らば次に待針を打つ可きなり、而して待針は精確巧妙に、且迅速に打つに至るを要す、故に特に此練習をなすを可とす。

○ 標附方、及待針打方は、其仕立上げの結果に關係あ

るべきを教へ、示範用布にて説明し、或は兒童生徒にも、工夫訂正せしむる等、之を部分的に、又は総合的に練習すべし。

待針の打方練習には、次の件を必要とす。

○ 先用布の伸縮に注意し、布と布との張り加減に注意すること。

○ 標幅の中央に針尖を向うにして、垂直に刺すを普通とすべし。

○ 布は少しく抄ふべく、第一に刺す針の、最正確を要すべきこと。

○ 待針は、最初基點を定めて、之を打つべし、基點の兩端にある時は、先兩端に次に中央に打ち、中央にある時は、先中央次に兩端に打つ、次は何れも中央中央と、漸次打進む可し。

○ 二枚、或は數枚の布の、打方等をも、練習すべし。

○ 布の置き方は、中表に、輪を左裁目を向う、耳を手前にして、机上に置くを普通なりと教ふべし。

## (4) 部分縫

衣服は、其種類及び部分によりて、仕立方に難易あり、其困難なる部分のみを特に再三練習して、其技に熟せしむる法を部分縫といふ。



此法は、手指の運用未だ十分ならざる兒童は固より進みたる程度の生徒を教授するにも、必要なりとす、部分縫は、衣服全體の一部分にて、此練習は、やがて縫方の要領となるべきものたるを教へ、且其目的を貫徹すべく指導せざる可からず、然れば部分縫の箇所も、度数も、敢て一定不變に規定すべきに非ず、必要に應じて爲すべく、又學習者の程度に應じて省略増加を任意にして可なるものとす、要は部分縫教授を有効ならしむることに、努力研究すべきなり、今部分縫の要件を次に記すべし。

## (1)部分縫用布

## 第一種

|           |     |   |        |
|-----------|-----|---|--------|
| 縞木綿並に無地木綿 | 並   | 幅 | 二尺五寸二枚 |
| 同上        | 半   | 幅 | 二尺三寸二枚 |
| 無地木綿      | 四つ割 |   | 一尺八寸二枚 |

外に並幅一尺五寸元祿袖練習用一枚

## 第二種

本裁單衣半身頃 半 反

又便宜絹布を使用して可なり。(高學年に於て)

以上の布を用ひて、各種衣服の縫方に先ち、局部要所を練習せしむ、尙部分によりて、其都度指定して、布を用意

せしめて練習することあるべし。

(2)部分縫の箇所(大略を示すべし)。

一つ身襦袢

袖 脇縫 裾縫 衿附 衿先 袖附(半身縫方)

車裁襦袢

衿先 馬乗 三つ衿入れ方

一つ身單衣

衿附及び衿附 衿下 裾縫 筒袖

四つ身單衣

空衿 袂袖 元祿袖

本裁女物單衣

袖丸 衿先

本裁男物單衣

人形 腰揚の仕方 衿先

帶(子供物及腹合)

心の入れ方 心拵 地伸法 飾絲のかけ方

一つ身綿入

袖 袂

四つ身裕

袖(元祿又筒袖) 袂

本裁女物綿入羽織



衿の折り方 乳の付け方 前下り縫方

本裁男物衿羽織

衿附 袖附(七ッ留)

袴女物

襷の取り方 紐の付け方

袴男物

襷の取り方 腰板の付け方

被 布

小衿 飾紐結び方

以上の外各教材に應じて、便宜研究すべし。

### 3. 部分縫の要點

- 標本(解剖的に作りし物)の觀察。
- 擴大圖の利用、及び示範。
- 主要部につき、其理由と方法とを説明し、反復問答して、牢記せしめ、縫方の補助準備を確定すること。
- 技術發達の程度に應じて、技術の方法を授け、煩雜の感のみ起さしむるが如き要求を避くること。

抑部分縫の目的は、縫方の補助準備たるにあれば務めて實物との連絡を計り、多岐に涉らず、最主要部の練習に止め、其方法は、之を牢記せしめて、縫方教授に於て、勞力と時間とを節約せしめ得るに至らしめんことを要す。

す、此目的を達せんが爲には、先部分縫練習用布を一定する必要あり、即第一種の用布は、從來多く用ひられしものにて、取扱に便利にて經濟的なれども、左の缺點を有す。

- 寸法・標附方、實物と一致せず。
- 仕立上げ形状も、實物と相違せるが故に、實物實習の際再説明を要するが如き徒勞を來す。

此缺點を補はんが爲に、基本衣類を本裁として、之に要する部分縫を、第二種の用布にてなさしむるに至れり、然りながら、何れも一利一失の伴ふものなれば、初等中等の程度に應じ、基本衣類の決定に準じ、適當と認むるものを採用すべし、要は部分縫の目的を達すれば可なり。

次に各教材にうきて、部分縫の箇所を選定し、其教授には、標本・手本の觀察・擴大圖・示範用布等にて、理由方法を説明し、或は個人的に、或は一般的に、又は分團的に指導し、了解牢記せしめんことを要す。

### 教授上の注意

- 初歩に於て、手指の運用不十分に、心力の發達不全なる時代にありては、先手指の練習に重きを置き、運針法を十分練習すべし。



- 簡易なる基礎の縫方より始め、漸次一般の衣服の縫方に移るを順序とす。
- 衣服製作上理解し難き箇所、又練習を要する箇所例へば袂・袖口・裾等、先づ部分縫によりて分解教授をなし、之に習熟せしめたる後、総合して仕立てしむべし。
- 教授は、總て直觀的なるべし、即完全なる示範・圖解・標本等の補助を以て、具體的に教授し、兒童生徒をして、よく理解せしむべし。
- 初步に於て授くべき技術は、簡易にして會得し易きを旨とし、専門的技術に涉ることは後日にすべし。
- 常に練習を十分にし、應用自在ならしめんことに努むべし。
- 躰方を重んじて、婦徳婦性の養成に努め、又個性の矯正を怠る可らず。
- 清潔整頓に注意せしめ、規律の習慣を養ふべし。
- 與へられたる時間中は、綿密・丁寧により、又手際よく、而も敏捷正確なるべく獎勵すべし。
- 針糸屑・切端等の始末、及び用具の取扱に注意せしむべし。

- 高學年に進まば、絹布を交へ、専門的にして、緻密なる裁縫上の技術をも、修得せしむべし。
- 兒童生徒に、裁縫の必要を悟らしめ、永久の興味を有せしむべし。
- 筆記帳を用ひ、寸法裁方圖・積方公式・教授の要項等を筆記せしむべし。
- 材料は、毎學期或は毎學年分を、豫家庭に通知し置くべし。

## 第八章 設 備

### 第一 教 室

教室の構造は、教授に便利なるは勿論、管理・衛生・經濟上に鑑みて、設くべきなり、即管理上よりいへば、居ながらにして往來の見ゆ、喧騒なる音響の聞ゆる所等、總て刺撃を與へて、注意を亂る様の場所は、宜しからざるものとす、衛生上よりいへば、冬暖く夏涼しく、空氣の流通宜しくして、光線の十分なる室をよしとす、經濟上よりは、成るべく無用の場所なく、萬事質實堅牢を旨とすべし、今各部に就きて、概説すべし。

#### 1. 形 狀

教室は長方形とし、其の差一間半若くは二間半を度



とし生徒一人に付三尺平方以上の廣さを充て、教師は兒童生徒を通觀し得、兒童生徒はよく教師の音響を聞きこるを得且視力を勞せずして、黑板上の文字を讀み得る範圍内に於てすべし。

#### 2, 光 線

床より天井迄の高さを九尺以上とし、光線は左方より採り次に右後とす、前面に窓を設くるは、絶體に禁すべきものとす、而して窓の面積は、床の面積の六分一以上とするは、通常學科の教室に規定なれども、裁縫教室は特に視力を要するを以て、採光を十分にすべきなり。

壁窓掛等の色は、亦教室の明暗に關係するもの故、其色に注意すべし、灰色を最上とし、淡綠色・淡黃色等に次ぐ、一般に白色を用ふるは、經濟より來れるなるべし。

#### 3, 換 氣

天井四隅、及窓の下方には、通氣孔を設けて換氣に便にし、又授業の前後窓を開放して、新鮮なる空氣の交換を行ふべし。

#### 4° 装 飾

室内を清楚に飾る事は、好ましきこととす、花卉及裁

縫に關係ある繪畫掛圖或は成績品等可なるべし。

#### 5, 疊

教室は、机・腰掛の制に依るを本體とすべし、然れど疊敷は、家庭の習慣動作に連絡あり、經濟上作法室と兼用する場合あれば、否定し難し、故に小學校及高等女學校本科は、机・腰掛とし、その以上の場合は、疊敷を用ひ、兩者併用をなすを可とす。

## 第二 備 品

#### 1, 教室用備品

黑板—黑板は、用材に用意し、長さ二間以上を便利とす、純黒にして光澤なく、板上の文字容易く拭ひ得て、痕跡を残さざるを可とす。

#### 机・腰掛

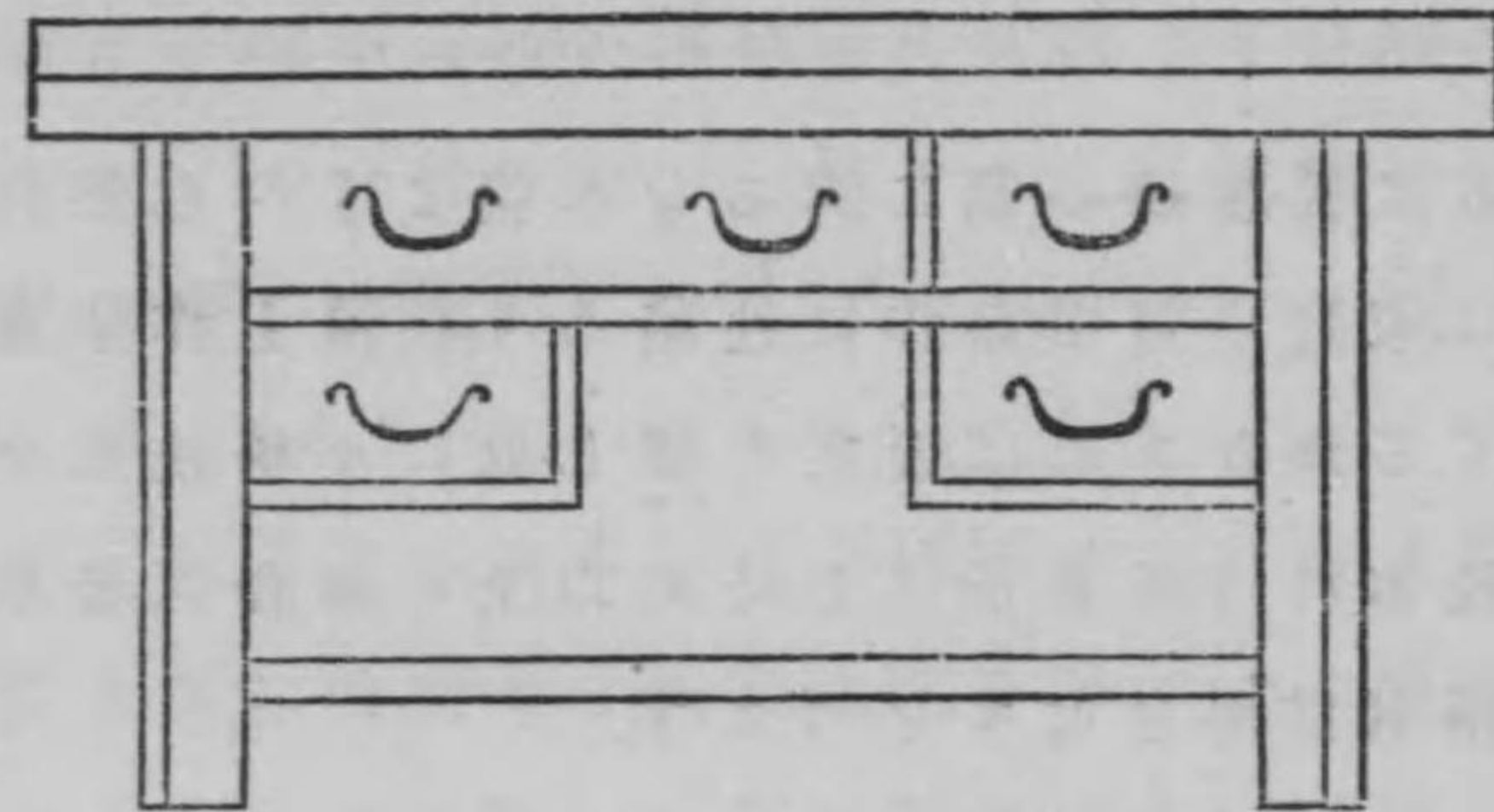
##### (イ) 教師用机・腰掛

腰掛は普通のものとし、机の構造に工業をなすべし、例へば、其の高さは教室の何れの方よりも見ゆる程の高さとし、大きさは普通となし置き、標附・標本提示等必要に應じて伸縮自在なるやう、左右向に、蝶番にて板を附けおくが如し。

筥臺として用ふるには、樟・朴の如き、硬き木質にて

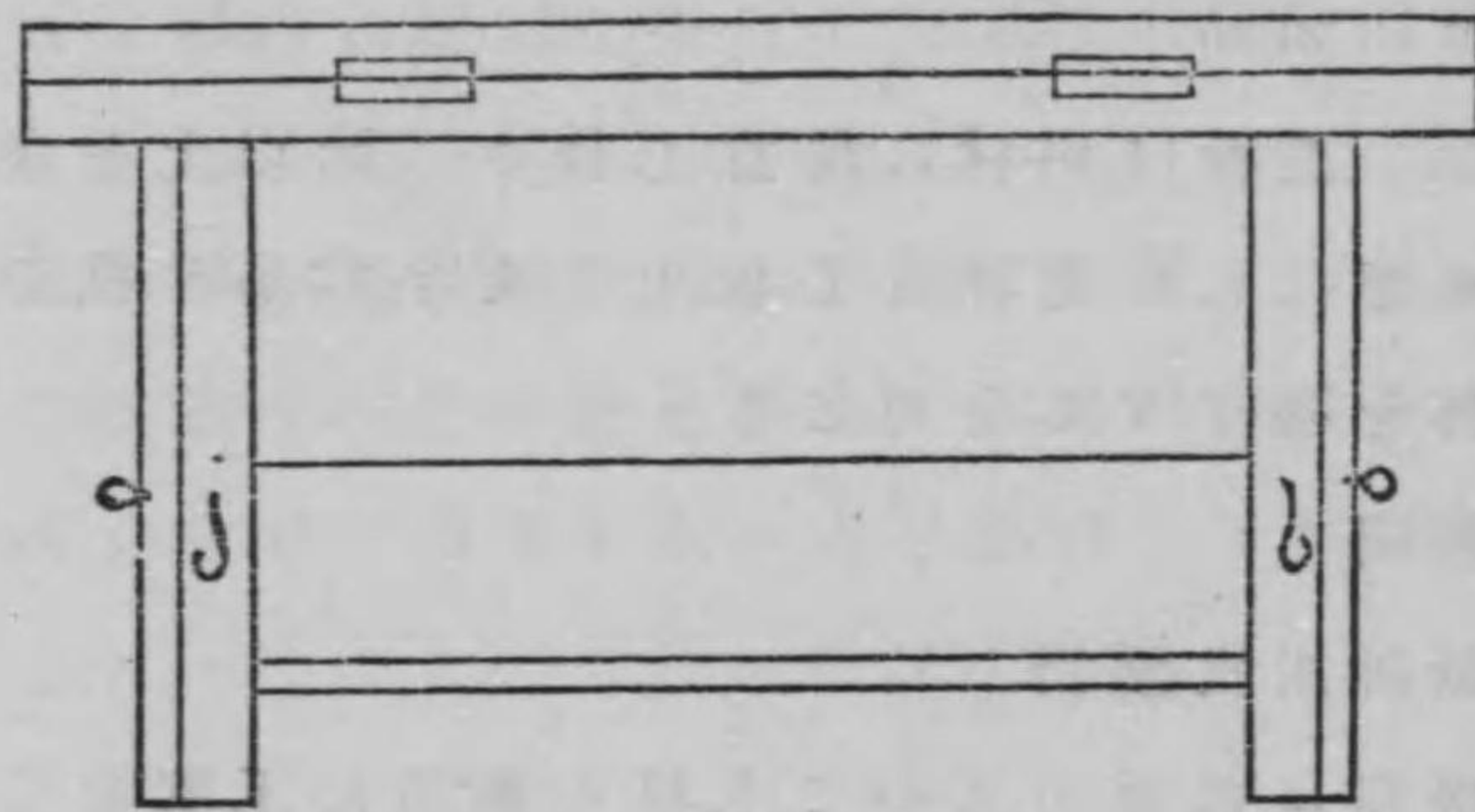


前 正 面



教師用机一例

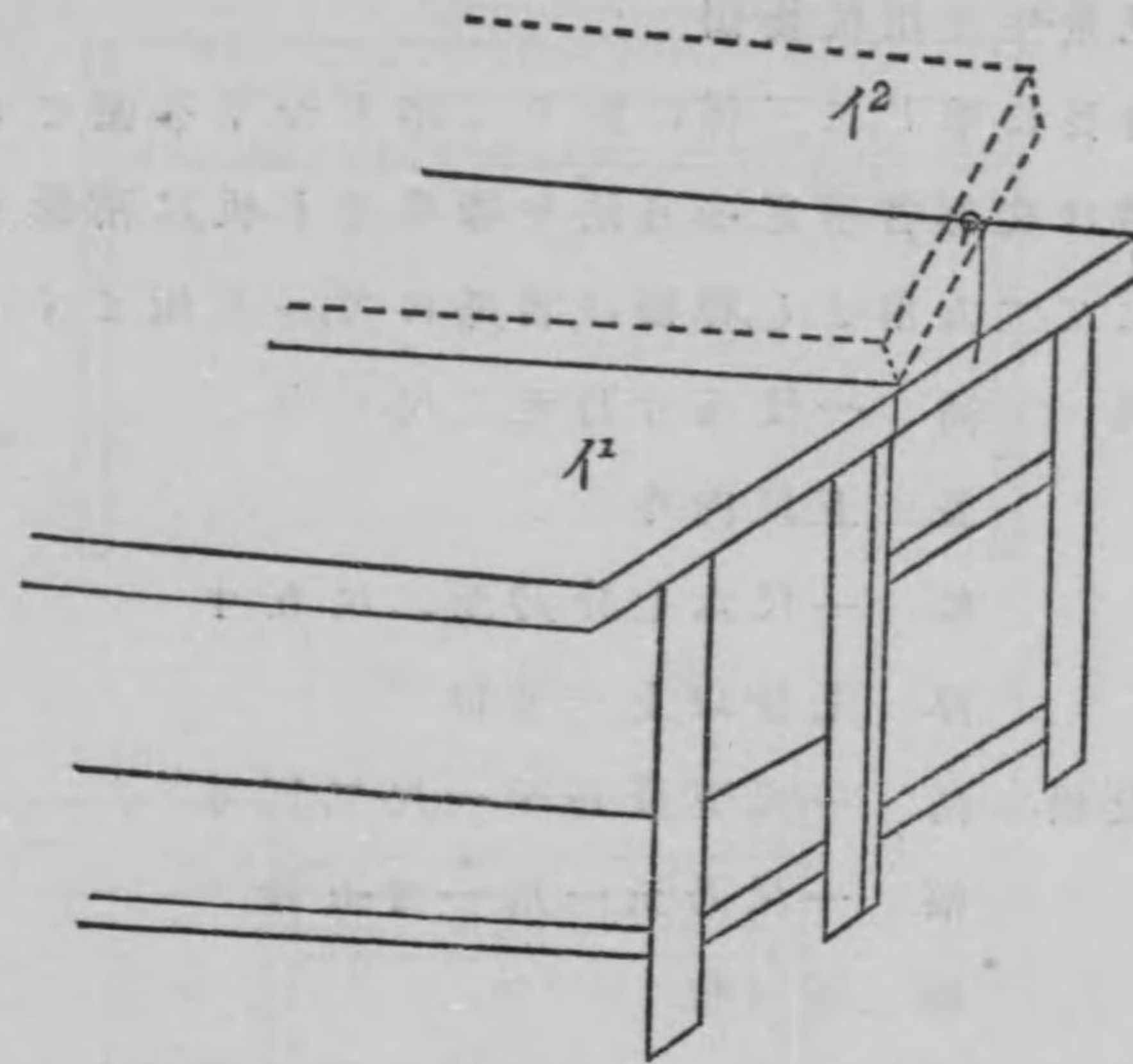
後 正 面



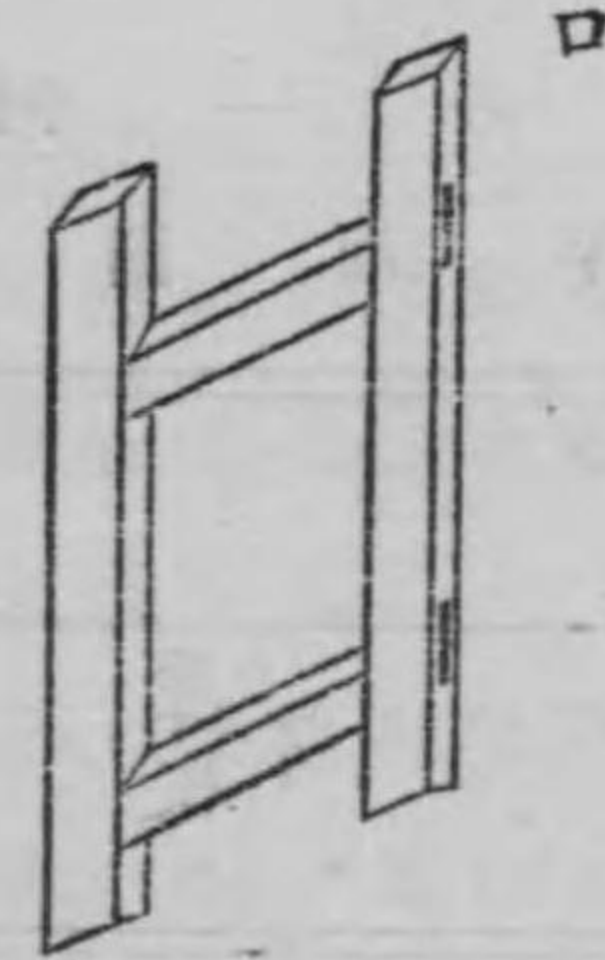
|   |      |      |          |
|---|------|------|----------|
| 厚 | 高    | 長    | 幅        |
| 一 | 二尺四寸 | 五尺五寸 | 一枚 一尺六寸餘 |
| 寸 |      |      |          |

机横幅ヲ擴クセル圖

(イ)ニ手前ニオロシタル板ヲ上ゲシ圖



(ロ)ハ手前ニ板ヲ擴ゲタル時裏トナル可  
ク机ノ脚ニ添ヘテ作りタルモノ





二寸位の厚さのものを用ふべし。

(ロ) 児童・生徒用机・腰掛

身長に準じ、二三種に別ちて、造りおくを便とす、大體は文部省所定の寸法を標準とし、机は稍低く目にて、二人用とし、腰掛は普通にて、一人用とすべし。

机 二高 一尺八寸乃至二尺一寸

長 五尺内外

幅 一尺六七分乃至二尺五寸

厚 七分以上一寸位

腰掛 二高 一尺五分乃至一尺二三寸

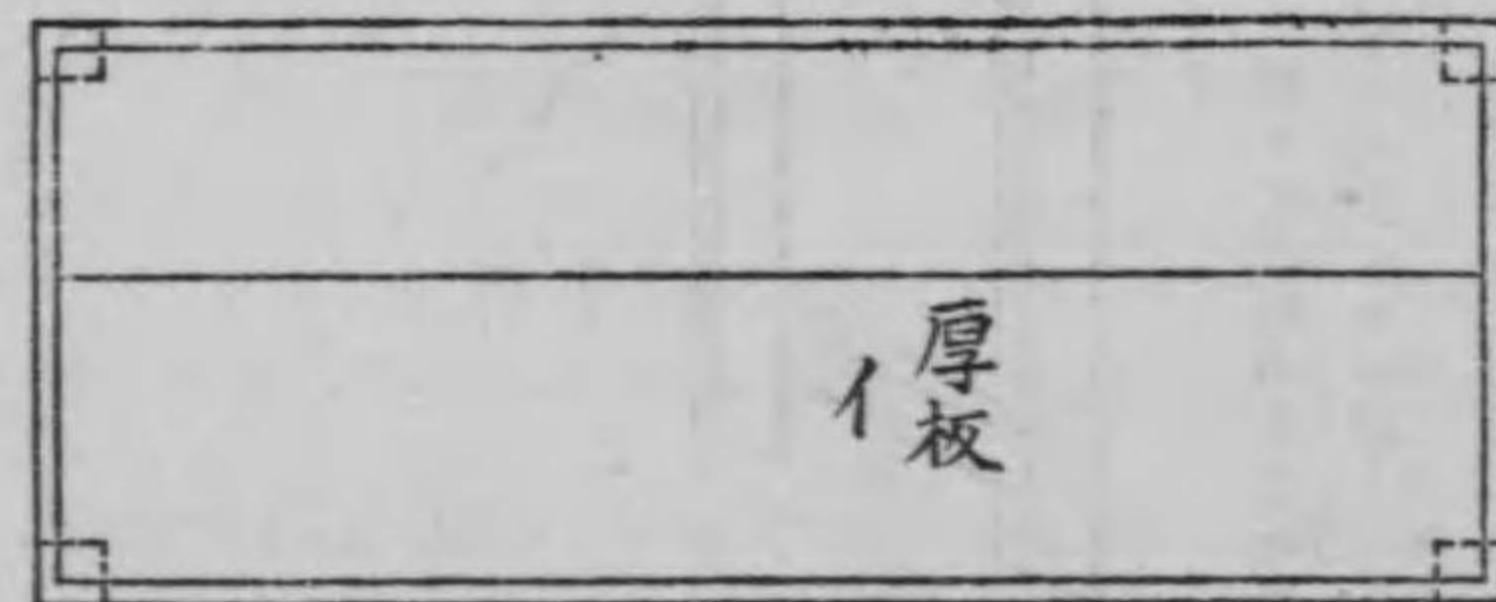
幅 一尺乃至一尺一寸五分

掛 五寸位

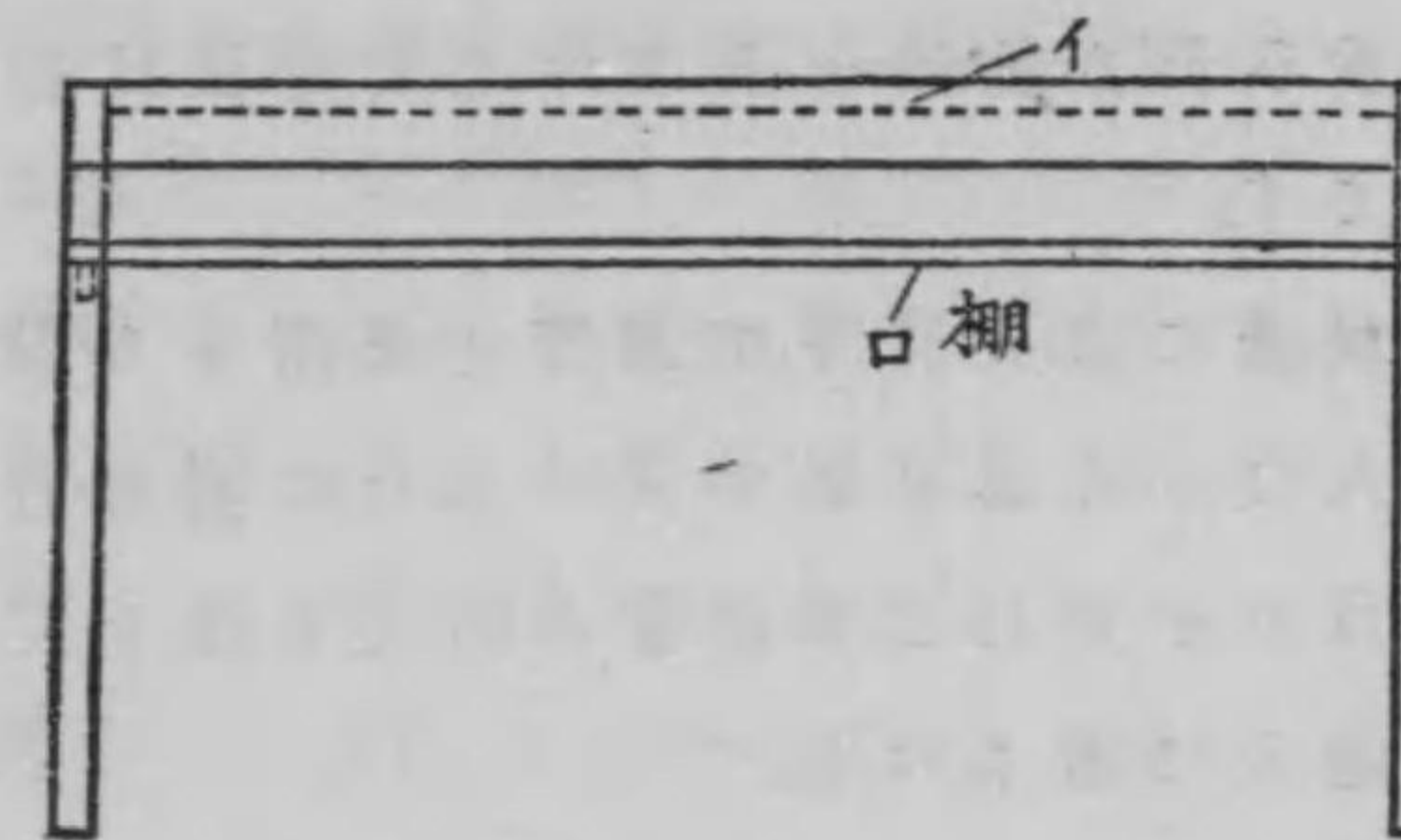
木質は樟・朴の如き、又銀杏・柳桂等も適材なり。

机 の 一 例

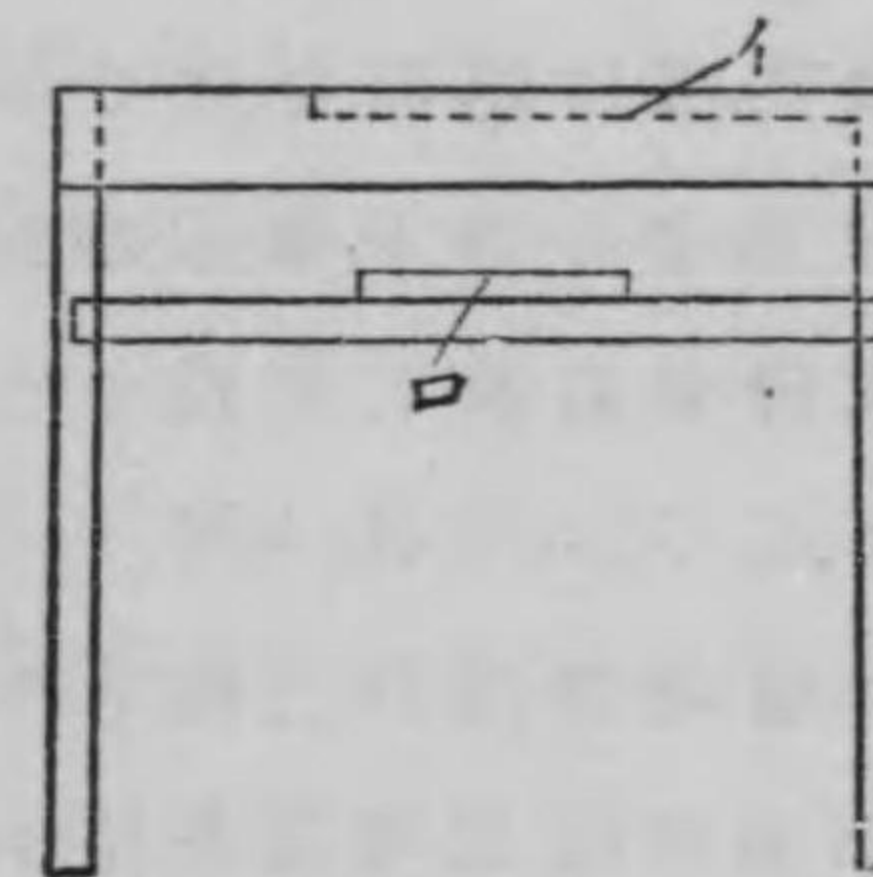
平 面 圖



正 面 圖



側 面 圖



若しかゝる板の得がたき時は、手前の方半分或は三分の一を硬質板とし、他を並板とするも可なり、右圖にて知るを得べし。

壓板—衣服を仕立上げ、疊み付けて壓をかくるは、折目を立て、皺襞を整へんが爲なり、綿入ならば、表裏を密着せしむるに宜し、されば成るべく重量ある木質



を選ばざる可からず若適當の材木を得ざれば、壓板の上に重みある物體を上すべし其寸法は長さ三尺幅二尺とす。

火鉢—裁縫には、火熨斗、烙鏝等を使用する爲に、常に一個の大なる火鉢を要す、その構造は圓形若くは六角か、八角形を宜しとす、相當の防火方法を工夫して萬一の過失に備ふべし。

火熨斗—火熨斗は、其重量三百五十匁内外にして、上の開きたる徑四五寸の物を選び、外底面を極めて滑澤にすべし、此頃内部に圓筒を立て、炭火を熾ならしむるを工夫せしものあり、多くの衣服を取扱ふには便なりとす、唯餘り過熱して焦すことあれば、注意すべきものなり。

烙鏝—烙鏝には、唐鏝和鏝の二種あり、大なるものは三寸五分、小なるものは二寸五分位あり、使用者に依り適當なるものを選ぶべし。

蒲團—火熨斗蒲團、烙鏝蒲團の二種あり、何れも長さ三尺幅一尺位にして、綿を薄く入るべし、但烙鏝用の者は、板又はボール紙を入れて、底を硬くす。

鉄—握鉄・唐鉄等、大小二三種を備ふべし。

尺度—尺度の種類は、鯨尺・曲尺・吳服尺・吋尺・メートル

尺・雛形尺等種々あれども、和服の裁縫には、大抵鯨尺を用ふ、寸法の割合次の如し。

|      |   |            |        |
|------|---|------------|--------|
| 鯨    | 尺 | 1尺 = 曲尺    | 1.25尺  |
| 曲    | 尺 | 1尺 = 鯨尺    | 0.8尺   |
| 吳服   | 尺 | 1尺 = 曲尺    | 1.2尺   |
| 吋    | 尺 | 1吋 = 鯨尺    | 0.067尺 |
| 雛    | 尺 | 1尺 = 鯨尺    | 0.35尺  |
| メートル | 尺 | 1メートル = 鯨尺 | 2.64尺  |

鯨尺一尺指二尺指を、生徒數丈備へ置くべし。

戸棚—生徒用・教師用・標本用等、必要の數を備ふべし。  
針—針は用途地質等に應じて、其大小長短を異にす、針の過長なるは、指貫を離れ易く、又針目を大にす、過短なれば、指頭を刺し易きものなり、故に兒童學生用としては、各自の指に適合せるもの、即中指に指環をはめて、針頭を之に當て、拇指と食指とにて針を摘み、食指を伸して、その針の先の一分位出づるを適當とす、縫針・紵針・待針の三種にて、大凡次の如き標準にて選定すべし。

次は全國兒童につきその統計に依る平均寸法なり。

尋常科第三學年 八分參厘五毛弱

同 第四學年 八分八厘八毛



|         |      |           |
|---------|------|-----------|
| 同       | 第五學年 | 九分四厘參毛強   |
| 同       | 第六學年 | 九分八厘八毛強   |
| 高等科第一學年 |      | 一寸〇分五厘貳毛強 |
| 同       | 第二學年 | 一寸一分貳厘六毛強 |

針は紛失し易く、且頗危険なれば、廢針折針等の始末をよくせしめ、授業の前後には、必ず針調べをなさしめ、適當の針刺を作り、之に各種區別して正しく刺さしめ、錆を生じたる時は、ワセリンを塗り、或は磨紙にて磨がかしむ、錆止針も便利なるべし。

籠—角製のものゝ普通とす、籠の内面尺に觸るゝ所平直にて反り少きを可とす、車籠、燒籠共、便利のものなれば、高學年の生徒には、角籠と共に併用せしめて可なるべし。

用具の整理—用具の整理は、教師日々この模範を示すべし、机中を清潔にし、物其所を得しめ、一糸亂れざる様にし、生徒に見しめ、倣はしめ、時に臨檢すべし、兒童生徒用具には必氏名を標せしむべし、然らずんば必木札を附せしむべし。

## 2. 教授用備品

掛圖—掛圖として備ふべきもの、大凡次の如し。

衣服の部分名稱圖

## 標附圖

裁方分解總合圖

要所擴大圖

運針姿勢圖

衣服着用圖

以上の外、色模様圖の如く、視覺美感の陶冶となるもの、其他原料製作順序を示したるもの、特に織物の産地を示したるもの等も可なるべし。

標本品—實物大を第一とし、雛尺による雛形を次として、細目の種類に應じて、教授上便利なるやうに製作し、且其の標本は品質優良にして、模範たる價值あるものを要す。

若實物を得がたき時は、袂、裾の如き一部分に屬するもの、或は帶、涎掛、頭巾等の如き、生徒の平素多く見ざる種類を先づ設備し、其餘は皆雛形にて補ふべし、標本として備ふべき主なるものを擧ぐれば下の如し。

實物若くは雛尺による雛形衣服各種仕立上り標本

部分縫標本

要所の手本(二人に一個宛)

示範用布・實物代用布及び標本(擴大して製したる)



もの)

生徒用具の一切

服地・針・糸の種類

裁縫用具の標本等

右標本は、教師の工夫製作し、或は生徒と共に蒐集せしものを有効なりとす、又標本は標本戸棚に、學級別、或は細目順等にして、秩序正しく整頓し置くを要す。

### 3. 雑備品

針箱(教師用)定木・露吹・衣紋竿・袖形・裨形・小黑板・黑板拭屑籠等、種々の雑備品あるべし。

## 第九章 一般の注意

### 1. 教師の容儀及び心情

教師の容儀は、常に端然として、その儀表を示し、一舉一動、兒童生徒の模範たらざる可からず、特に女生徒に、その實例を示して、品性を陶冶することは、一に女教員の責務なれば、その任や重且大なりといふべし、次に端然たる儀容に伴ふべきは親切なる心情なりとす、猥りに威嚇し、或は譽む可からず、常に和氣譚々たる間に、快活に課業を進行せしめ、師弟の親情、掬すべく、人をして欣美に堪へざらしむるものあるを要す。

す。

### (2) 教師の技能及び學力

教師は、裁縫の技能に堪能なるは固より、普通學の素養ありて、教授學運用の能力を有し、裁縫に關する諸問題を解決し、種々の教法を施して、生徒の技能を啓發して、教授の効果を十分ならしめざる可からず、然しながら、一方監督者の裁縫の保護獎勵は、裁縫教授振興の一大木鐸たるを思はざるべからず。

### (3) 教師は、教授に興味を有し且研究的なるべし。

兒童生徒をして、興味を有せしめんとせば、教師先興味を有せざるべからず、之が實行には、先天的性質と周到なる準備とあり、先天的性質は、或程度迄修養に依りて補正し得べく、周到なる準備は、教師の熱心と努力とに依りて得らるべし、又常に進取的氣性と研究的態度を以て進むべし、理解の快感と進歩成功に伴ふ愉快とは、裁縫に對する興味を旺盛ならしめ、裁縫教授の進歩發達に資する大なるべし。

### (4) 教授は、實際的にして有効なるべし。

裁縫は元來實用的のものなれば、實際の生活に資するを得て、其効果顯著なるべければ、實用に差支なき範圍内に於て、一定時間内の裁縫量を減少すること



なく、教科を少くし、反覆練習に努め、迅速精密に習熟せしめ、他學科との連絡を保ち、兒童生徒も自發的に活動せしめ、應用力を増し、獨立して作業し得るやう指導すべきなり。

5, 動作を秩序的ならしむべし。

姿勢を整へ、精神を緊張して、敏活に働かしめ、注意を集注して、且之を永續せしめんこと、最肝要なり。用具の如きも教師先模範を示し、机中を清潔にして、物其所を得しめ、一糸亂れざる様にして、生徒に倣はしめ、時々臨檢して指導す。學用品に姓名を附する。廢針・折針の始末、授業前後の針調より、用具の出入命令の遵奉等に至る迄、敏活に處理し、態度は沈着に、動作に秩序あらしむべし。

6, 教師は自信を有すべし。

裁縫の教授を徹底し、其効果を擧げんことせば、教師に強固なる自信を有せざる可からず、自信なき教授は、恰羅針盤なき船に棹す如し、如何てか航路の安全を期し得べき、抑教師の強固なる自信を作らんことには、技術の堪能なること、學力の豊富なるべきは固より、裁縫の本質・目的・教育上の價值・技術の部分的研究・裁縫に關する諸種の事項・他學科との關係・法令社會の實

際、時代思潮等に至る迄、細大研究し、之に對する識見を有して、兒童生徒を教導せざる可からず。

(7) 裁縫教授に於ける訓練

裁縫の目的・教育的價值を知りて、常に婦性婦徳を養ふことに注意すべし、されば裁縫教師は、一方技術の傳達をなすこと共に、修身教授をなすの覺悟なかる可からず、裁縫教授上、躰くべき事頗多し、即用具・衣服の清潔・整頓・用具・衣服の取扱、座作進退に於ける作法、技術に對する正確・綿密・誠實・個性の矯正・節約・利用・勤勞に對する快感等に於て、專訓練をなし、技能の進歩と相保ちて、裁縫教授有終の美をなすべきなり。

(8) 成績の考査

成績考査は、兒童學生の努力・勤勉の結果を表示し、向上進歩を促すべく、且その心性品位に影響を及ぼすべきものなれば、考査の方法は、公平無私、然も周到・緻密ならざる可からず、裁縫科に於ても、豫考査標準を定め置き、純良なる心性の許に、技能の進歩向上に努力せしめんことを要す、考査の標準を、大體次の如く定め、尙精細なる點は各學校に於て、研究決定すべきなり。

(1) 裁方と縫方との割合。



普通の場合、三と一との割合、即縫方三、裁方一とすべきこと。(十と四の割に定むることもあり)

## 2. 考査の標準

技術の巧拙

時間の遅速

材料の難易

寸法の正否

以上の四件を、大體の標準とす、裁縫科なるが故に、仕立上りの良否は固よりなれども、元來實用品を製作すべきを以て、時間の遅速をも見るべきなり、早くして仕立上り佳良なるは、好まじきも、これ多くは天才に屬すべければ先與へられたる時間内に、佳良の成績を見たるを可とすべきなり、次に材料の品質に依り、仕立方に難易を生ず、然れども容易ならざる物、新しからざる物を、仕立つるの習慣を養ふことは、裁縫科の目的より、兒童學生の訓練上よりも、必要のことなるべし、更に寸法の正否は、着用上に於て適不適を來すべければ、これまた採點上の一要件とすべきなり、其他は實際に當りて、精細に定むべきなり。

## 9. 筆記帳

積り方公式裁方圖仕立上寸法教授要項等は、之を筆

記帳に記入せしめ、内容を時々檢閲すべし、表は記帳に便にして、實用に適するものなり、而して裁縫には、表に製し得べきもの多し、その簡單なるものは、勉めて兒童生徒に作らしむべし。

## 10. 宿題

技能の習熟は、反覆練習の力を、最必要なりとす、裁縫も亦他學科の如く家庭に於て大に練習せしめざるべからず、且本科は比較的、精神疲勞の憂なきのみならず、他學科と交替に行へば、互に變換して休息をなし、却て疲勞を慰すべきなり。

## 11. 教室の掃除

裁縫教室は、特に清潔になさざる可からず、何となれば、小道具類多く、且糸屑切端等散亂し易きが爲なり、されば當番を定め、授業の前後に於て、教室の整頓用具の出入れ等をなさしめ、又少くとも一學期の終りには、大掃除をなさしむべし、清掃せられたる所に、草花の一輪挿されたるなど、床しきものなり、清潔整頓は、女子の訓育上に資する一大要件なりとす。

## 12. 教科書の必要

裁縫の教授に於て、生徒に教科書を用ひしむるは、最必要の事に屬す、從來の如く筆記にのみ依る時は徒



に多くの時間を空費する損失あるのみならず、教授を受くる以前に生徒自身に準備をなし、教授終了後に復習をなす等の便宜を缺くべし、又常に教科書と實物とを相対比して學習する習慣を附する時は、卒業の後書籍を見て自新しき裁縫をなすを得ること、恰地圖或は地理書を見て、未曾て知らざる地方に、旅行するを得べきが如し、他の諸學科に於ては既に教科書を用ひて其効果を收めつゝ、あれば、本科に於ても亦之を用ひて、従來の筆記教授の缺點を補ふを便とす。

## 第十章 裁縫に関する諸問題

現下裁縫教授革新を唱ふる人あり、又裁縫教授研究も、漸次盛となり、従て裁縫に関する研究問題も頗多きに至れるは、喜ぶべき現象なりとす、今其主なるものを左に掲げて各自の研究資料となすべし。

- 一、裁縫教授に於ける設備・教具・教材方法に就き、最有効なるものを研究工夫すべし。
- 二、裁縫科に於ける優良兒及び劣等兒取扱法如何。
- 三、一齊教授と個人教授との利害得失如何、又之を調和するとせば其程度及び方法如何。

- 四、運針教授を有効ならしむる方法。
- 五、裁縫科に於ける訓練を、有効ならしむる方法如何。
- 六、裁方縫方の成績考査法。
- 七、小裁物と本裁物と、何れを先に課すべきか。
- 八、教授進行中に遅速を生じたる時の處置法。
- 九、裁縫教室の最適當なる設備。
- 十、裁縫教材の不揃なる時は、如何にすべきか。
- 十一、中等學校の教材は如何に排列すべきか。
- 十二、小學校と高等女學校との連絡法。
- 十三、裁縫教授法は、如何に研究すべきか。
- 十四、裁縫と家事作法とは、如何に連絡せられあるか、又連絡すべきか。
- 十五、裁縫時間は、他學科時間よりも、注意力弛緩の傾向なきか、若有りこせば、其矯正法如何。
- 十六、小學校裁縫教授上必要なる用具の種類取扱方、並に其數量如何。
- 十七、裁縫教授に際し、十分なる了解を與へんには、如何なる方法を探るべきか。
- 十八、運針用布は、無地・縞何れを適當とすべきか、其の長さ如何。
- 十九、腰掛に椅らしむると、坐してなさしむるとの利



害得失如何。

二〇部分縫は如何なる時に課するを、最有効とすべきか、又此教授を有効ならしむる方法。

二一裁縫に於ける各流派を如何に統一すべきか。

二二裁縫教授上學校と家庭との連絡法如何。

二三、兒童及び生徒に持たしむべき、適當なる裁縫筆記の様式如何。

二四、中等程度の學校に教科書を使用せしむるの可否。

二五、針其の他の用具を、鄭重にせしむる最實行し易き良法如何。

二六、縫方成績考査の際次の各の場合に於ける、適當なる處置法如何。

- 1, 材料の同一ならざる場合。
- 2, 仕立上に要せし時間に、長短ある場合。
- 3, 教師の比較的多くの手を加へたる場合。

二七、裁縫學校生徒に、作業服を着用せしむる可否如何、若之を可とせば、最適當なる用布、並に形狀如何。

二八、裁縫科教授の缺陷及び其救済法如何。

二九、裁縫科の用具及び設備に關し、改良すべき諸點如何。

三〇、裁縫順序を、或程度迄一定する必要なきか、若有りとせば、其實行方法如何。

三一、裁方を理解せしむる良法如何。

三二、裁方練習用紙を實物大にせざる場合は、如何なる寸法によるべきか。

三三、標本は如何なる程度迄に製作すべきか、及び其製作の方法。

三四、裁縫教授の説明に、掛圖を用ふるに、塗板上に畫きて教授するの利害如何。

三五、裁縫教師一人にて、受持つべき生徒數如何。

三六、示範用布の長さ、幅、色合等は如何。

三七、裁縫教員の女兒訓練につき、如何程まで活動すべきか。

三八、裁縫教室と、作法教室と兼用の場合に於ては、其間取を如何にすべきか。

三九、裁縫中姿勢を良好ならしむる方法。

四〇、兒童生徒をして、裁縫に興味を起さしむる方法  
四一、部分縫によりて實物教授に及ぶに、始より實物を課し、實物裁縫を反覆するに、何れか効果多きか。

四二、裁方教授を、最有効ならしむる方法。

四三、縫方の要所を速に、了得せしむる方法。



四四、裁縫教授時間を現在より節して、成績を良好ならしむ方法如何。

以下略す。

以上の外、中等教員検定試験問題等に就きても、研究し又各地に行はれつゝある、裁縫研究會の研究事項、研究問題等を、調査するは、最良き参考たるべきなり。

裁縫科新教授法終

## 附 録

大正六年十月帝國教育會主催の全國小學校女教員大會に於ける文部省諮問案并に答申案は参考とすべきものなれば左に掲ぐ

文部省諮問案

第一號案

小學校に於ける女兒教育上特に留意すべき事項如何

右答申案

- 1, 時勢に適應せる女子たらしむる基礎を養成すること
- イ 國家的社會的精神を涵養すること
- ロ 体力を一層増進せしむること
- ハ 附高學年兒童には女子特別衛生上の注意をなすこと
- ニ 自發的活動力を盛ならしむること
- ヘ 規律的生活に慣れしむること
- ホ 自治心を養成すること
- ト 知識を究理的に收得せしむること
- チ 兒童期を出來得る限り長からしむること



チ高尚なる趣味を養成すること

## 2, 女子の長所

愛情同情・綿密・秩序・清潔・整頓・貞淑・家事的思想等の發揮に努むること

イ 女兒學級を女教員擔任して之れに努力すること

ロ 屢模範女子の例話をなすこと

## 當局に對する希望

イ 尋常小學修身教科書中に女子の例話を増加せられたきこと

ロ 高等科に女子用理科教科書を編纂せられたきこと

ハ 内容を家事に連絡あらしめられたし

ハ 高等科に女子用算術教科書を編纂せられたきこと

ニ 應用問題に裁縫家事に關するものを増されたきこと

## 第二號案

小學校に於ける裁縫科の教授をして一層實效あらしむる方法如何

右答申案

## 1, 教師の方面

イ 教師をして普通教育に於ける本科の位置を自覺せしめ技術を研き教授法を工夫し特に専科教員に在りては普通學科の修養に努め以て一層有効なる成績を擧げんことに努力せしむること

ロ 校長視學其他一般の教員が能く本科の要領を理解し本科教員を助けて其成績の上達を圖るべきこと

ハ 女子師範學校に於て本科に對する趣味と實力とを有する教員の養成に努むること

ニ 土地の流義を知ることに努むること

ホ 本科教員の待遇を高むること

## 2, 教材の方面

イ 教材を精選して排列に注意し反復練習に努むること

ロ 土地の状況を酌量し本科をして一層實際的ならしむること

## 3, 教授の方面

イ 一學級の定員を四十名とし是より多き場合は補助教員を用ふること



ロ 本科教授は児童心身の發達に留意し流派の末に拘泥すべからざること

ハ 本科の教授は尋常科第三學年の後半期より始め當學年中は毎週二時間つゞを課するを可とする

ニ 本科の教授を啓發的にして児童の興味を喚起せしむる様各種の機會を善用すること

ホ 算術科理科家事手工圖書科等他の教科との連絡を圖り本科教授時間を其の本質的教授のために有効に使用すること

ヘ 適當なる教便物を工夫製作し是が利用に努むること

ト 基礎的練習を一層重要視すること

チ 衣服教授の當初より漸次裁ち方に關する知識を與ふること

リ 裁縫用具の使用に熟達せしむること

ヌ 成績處理の方法を研究すること

#### 4, 設備の方面

設備を完全にすること

#### 5, 児童用教科書を編纂すること

イ 國定裁縫教科書を編纂すること

但土地の狀況により使用せざることを得

ロ 教科書に記載すべき事項は簡明を旨とし重に小學校に亘りて児童將來の便宜を計ること



大正十三年六月二十六日 改版  
大正十三年六月三十日 發行

定價金 貳 圓

東京市本郷區東竹町三十五番地

編輯兼發行者 東京裁縫女學校出版部

代 表 者 渡 邊 滋

東京市京橋區新富町三丁目二番地

印 刷 者 山 下 福 太 郎

東京市京橋區新富町三丁目二番地

印 刷 所 日 新 印 刷 株 式 會 社

東京市本郷區東竹町三十五番地

發 行 所 東京裁縫女學校出版部

電話水石川 { 三七五八番  
                  { 四六二〇番  
振替貯金口座東京一九八二〇番



IT 8M-73



263.3

1431

終